

社会福祉法人 雲柱社

2010（平成22）年度事業計画

社会福祉法人 雲柱社 2010 (平成22)年度 事業計画

I : 事業基本理念・事業目標に基づく、社会福祉施設の設置・経営、及び収益事業の設置・経営

社会福祉法人 雲柱社 事業基本理念

(1999年12月24日)

- (1) 私たちは、賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を継承し、神と人ともに仕える仕事をします。
- (2) 私たちは、一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
- (3) 私たちは、常に利用者の立場に立って、そのニーズに応え、サービスの向上に努めます。
- (4) 私たちは、地域社会の福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。

保育ブロック事業目標

- (1) 私たちは、子どもたちが神を敬い、人を愛するように成長することを願って保育をします。
- (2) 私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、それを受け入れ伸ばしていく保育をします。
- (3) 私たちは、子どもたちの自ら育つ力を信じ、意欲を育て支える保育をします。
- (4) 私たちは、子どもたちが心身共に健やかに育つために、保護者の子育てを支援します。
- (5) 私たちは、地域に開かれた保育園を目指します。
- (6) 私たちは、保育の質の向上を常に心がけ、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

グループかがわブロック事業目標

- (1) 私たちは、障害児・者一人ひとりが神に愛され、生かされているという事実を立てて事業を行います
- (2) 私たちは、障害児・者一人ひとりの人格と個性を尊重し、その成長と生活を支援します。
- (3) 私たちは、障害児・者の家族が抱える課題を深く受け止め、その解決に向けて努力します。
- (4) 私たちは、地域社会の障害者福祉のニーズを掘り起こし、積極的にこれに取り組み、共に生きることを目指す、地域のセンターとしての役割を果たすことに努めます。
- (5) 私たちは、障害児・者一人ひとりのハンディキャップを理解し、かれらに最適のケアを提供するために、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

児童館ブロック事業目標

- (1) 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。
- (2) 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。
- (3) 私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。
- (4) 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。
- (5) 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。

学童クラブ事業目標

私たちは、所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業にとり組みます。

- (1) 私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
- (2) 私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
- (3) 私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
- (4) 私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。
- (5) 私たちは、自由と規律を大切にする学童クラブを目指します。
- (6) 私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
- (7) 私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

子ども家庭支援センター事業目標

- (1) 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実に基づいて、事業を行います。
- (2) 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つまちや社会をつくることを目指します。
- (3) 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します。
- (4) 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向かえるよう、専門性に基き対応します。
- (5) 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズに合わせて、必要な支援を行うことに努めます。

社会福祉事業（第一・二種）

種別	名称	個所	
第二種	保育所	愛の園保育園・五日市保育園・押上保育園・烏山保育園・神愛保育園・祖師谷保育園・高根学園保育所・ともしび保育園・光の園保育学校・黎明保育園 ※__は分園併設	10
	児童厚生施設	さくら橋コミュニティセンター・墨田児童会館・文花児童館・外手児童館（墨田区）、汐入ふれあい館（荒川区）、和泉児童館・岩戸児童センター（子ども家庭支援センター事業併設・狛江市）、上池台児童館（大田区）、たまだいら児童館ふれっしゅ（日野市）、亀戸児童館・平野児童館（江東区）、 <u>目黒区立中央町児童館</u> （目黒区） ※__は学童クラブ分室併設館	11
	放課後児童健全育成事業	れいめい堀切学童保育クラブ・れいめい宝学童保育クラブ（葛飾区）、七峡小学童クラブ・汐入小学童クラブ（荒川区）、深川学童クラブ・大島四丁目学童クラブ・大島八丁目学童クラブ（江東区）、 <u>練馬区立高松小学童クラブ（仮）</u> （練馬区）	7
	知的障害者共同生活援助事業・共同生活介護事業（グループホーム・ケアホーム）	かがわの家 シリウス・ベガ・ミラ・カペラ・ジュピター	5
	障害福祉サービス事業（就労継続支援B型・生活介護・短期入所）	小金井生活実習所	1
	障害福祉サービス事業 ◇ 居宅介護 ◇ 行動援護 ◇ 移動支援事業（地域生活支援事業）	かがわサポートセンター・ウイングス	1
	第一種	知的障害児通園施設	賀川学園
第一種	知的障害者授産施設	かがわ工房、ワークスタジオかがわ	2

※□は2010年度開始

社会福祉事業（公益事業）

地域デイサービス事業	さくらの木（知的障害学齢児 個別・グループ学習）	1
福祉共同作業所	小金井市福祉共同作業所（障害者・高齢者共同 小金井市）	1
ファミリー・サポート・センター	狛江市全域（和泉児童館内）、小金井市全域（小金井市子ども家庭支援センター内）、小平市（小平市子ども家庭支援センター内）	3
子ども家庭支援センター	江東区東陽子ども家庭支援センター・江東区大島子ども家庭支援センター・江東区深川北子ども家庭支援センター、江東区南砂子ども家庭支援センター（江東区）、練馬区立光が丘子ども家庭支援センター・練馬区立大泉子ども家庭支援センター（練馬区）、狛江市子ども家庭支援センター（狛江市）、小金井市子ども家庭支援センター（小金井市）、小平市子ども家庭支援センター（小平市）	8
放課後子どもプラン事業	汐入東小学校内ニコニコ（荒川区）	

収益事業

店舗賃貸ビル	和光ビル	1
共同賃貸住宅	友愛コーポ	1

II：法人の第一次中期計画（～2010年）の検証と今後への対応

第一次中期計画も今年度をもってその期間が終了することになった。2010年度は第一次中期計画に掲げられた計画の達成度を検証し、第二次中期計画につないでいく大切な年度となる。この一年、計画の達成度を検証し、次期への課題をしっかりと把握し継承していくことに力を注いでいきたい。

社会の状況が激しく変化する中で、法人のミッションを基盤に、今年も利用者の立場にしっかり立って、利用者のニーズに応える質の高い事業を展開していきたい。

特に今年度は12の事業が指定管理期間を終えてプロポーザルに臨むことになる。

周到な準備を進め、次期五年間の指定管理業者に選任されるように力を尽くしていきたい。

(1) 第二次中期計画策定に向かって ～第一次中期計画の検証をふまえて～

1：法人ミッションの具現化を目指す事業展開

今年度も法人の設立の原点に立ち帰り、「キリスト精神」にたつ事業展開を目指していきたい。具体的には聖書に示されたイエス・キリストの教えと行いに倣うことであり、と同時にその倣って生きた創立者賀川豊彦の思想と実践を継承する事業展開を目指すことである。

そのために、研修にも力を入れ、職員一人ひとりが自立と連帯を目指していきたい。

*2010年度研修計画参照（当日配布）

2：次世代管理職プロジェクトの立ち上げと第二次法人中期計画の策定

このプロジェクトも2年目を迎え、第二次中期計画策定への準備も着々と進められてきている。今年度も法人の次世代を担う若手管理職が集まり、以下のようなグループに分かれて、総合的な

視点に立って、第二次中期計画の策定に取り組んでいく。

- ①研修グループ－中期的な視点に立って、全職員の研修プランを作成していく－
- ②企画政策グループ－法人の地域型福祉事業への移行を視野に入れた企画政策作りに取り組む。
- ③人材育成グループ－今後事業を円滑に進めて行くための人材養成、確保、メンタルヘルス、福利厚生等について取り組んでいく。－
- ④法人本部機構改革グループ－大きな事業体となってきた雲柱社をよりよく運営していくための本部機構を目指し、改革を進めていく。－

3：専門委員会の設置と活動の展開

①働き方検討委員会

ワークライフバランスが時代の要請となりつつあることを踏まえ、職場環境の改善を進めていくことを目的として委員会がスタートした。

今年度は「モラルサーベイ」等の実施結果を踏まえて、各職場が課題を設定して職場環境の改善に取り組んでいきたい。そのための企画をこの委員会において検討していく。

②IT委員会

2年前に導入した「VPNシステム」のより有効な使い方の検討、IT時代を迎えての法人や各施設の対応、ITのスキルアップ等を目的として、活動を展開していく。

③給与制度検討委員会

現在の給与制度が時代の変化に対応しにくくなっている点がでてきているため、今年度は委員会を立ち上げて給与制度改訂について検討していく。

4：施設改築プロジェクトの設置と計画の推進

やがて改築をしなければならない法人所有の施設改築について、プロジェクトチームを設置して改築準備に取り組んでいく。

①小金井地区マスタープラン委員会－愛の園保育園、賀川学園の改築を中心に、小金井地区に総合福祉センター（仮称）を建設するためのプロジェクトチームが昨年よりスタートしたが、今年度も作業を継続していく。

②神愛保育園改築プロジェクトチームの立ち上げ

③光の園保育学校（本所賀川記念館）改築のための話し合い（東駒形教会、雲柱社、本所賀川記念館）の場の設定

*その他、大規模改修等の計画がでた場合は、プロジェクトチームを組んで対応していく。

Ⅲ：職員の生活と雇用の安定を基盤とした法人経営

人件費が約75%をしめる社会福祉事業において、それへの対応は今後の法人経営の重点課題となってくる。一方では働く人たちの条件や環境の改善も急務となってきた。

今年度は以下のような課題をかかげて、この問題に取り組んでいきたい。

また、自治体に権限が移行されることにより、今後は各自治体の財政力により事業経営への影響が顕著になってくるものと考えられる。ここでも法人のスケールメリットを活かして対応していくことが求められている。

1：正規職員を中心とした職員集団の形成と事業展開

雇用の多様化が一段と進む中で、法人としてはサービスの質を向上させていくためには、職員の雇用と生活の安定が最重要と考えて、それに取り組んできた。

財政状況が不安定の度を増しつつある現在、現在の制度を維持していくことは多くの困難が予想されるが、法人のスケールメリットを活かしながら対応していきたい。

2：多様な雇用と働き方の導入

一方では、働く人たちのライフスタイルの変化により、従来の正規職員的な働き方を希望しない人たちが現れてきている。

これらの人たちに応えていける働き方の制度を作り、力を発揮していただきたいと考えている。また、この制度は育児中の職員の要望にも応えて行くことを目指している。

3：職場環境の改善への取り組み

- ①働き方検討委員会を中心に、各施設においても職場環境の見直しを行い、ワークライフバランスの実現に取り組んでいく。
- ②問題への取り組みにあたっては、法人の課題、職場全体の課題、管理職の課題、職員の課題を明らかにして、見える形での改善に取り組んで行く。
- ③職場環境の改善は人間関係の改善に負うところが大きいことを認識し、職員間の良好なコミュニケーション環境の醸成にも力を注いでいく。

4：諸規定の整備と職員への適応

- ①急激な政治や行政の変化により、法律の改訂が度々行なわれている。法人としては、これらの変化を正確に把握し、諸規定の改定を速やかに対処していく。

5：職員の健康管理・メンタルヘルス・福利厚生など

- ①職員のメンタルヘルスへの取り組み
- ②産業医の導入
- ③職場復帰プログラムの策定
- ④職場における人間関係の改善
- ⑤定期健康診断の実施
- ⑥福利厚生に関しては公的な援助を十分に活かしながら、法人としてより良い対応も考えていく。

IV：指定管理事業プロポーザルへの取り組み

現在、指定管理、委託事業案は20施設を越えてきている。

これらの事業は委託先の自治体の財政状況の悪化により様々な影響を受けている。

また、事業の委託期間は単年度から、長くて5年である。

特に指定管理制度においては、委託期間が終了すると、新たにプロポーザルに応募し、再任されなければ、その後の事業の継続は不可能となってくる。

今年は12施設が指定期間を終了し、プロポーザルに応募することになる。

法人本部と施設が一体となって取り組んでいきたい。

V：本部事務局の強化と施設経営への参与

*事業が広がってきている現在、法人事務局の体制の強化は重要な課題となってきている。

- ①法人のコンプライアンスの確立のための諸規定等の整備、IT機器の充実、書類のデジタル化
- ②事務局職員の施設経営への参与、
- ③情報の公開、個人情報管理、苦情対応、社会の変化に対応した諸規定の改訂の準備、人事、労務管理等々への対応、
- ④本部職員の専門性、スキルの向上
- ⑤本部事務局と施設との有機的な協働関係の強化

*行政の姿勢が施設中心から法人中心に移行して来た現在、本部事務局と施設との新しい協働関係の構築が求められてきている。よりよい経営を展開して行くためには、本部事務局の施設経営への積極的な参与が求められてくる。今年度はこの参与のあり方を検討し、

より施設経営の健全化を目指していきたい。

VI：必要とされる新しい事業へのチャレンジ

- ①新しい事業の展開の方針としては以下のような考えの下に取り組んでいく。
 - *新しい事業は法人のミッションからみてふさわしい事業であるか
 - *新しい事業は法人の事業戦略（地域での多様なニーズに応える福祉事業の展開）にあっているか
 - *新しい事業は法人の人材育成に繋がっていくか
 - *新しい事業は経営的な見通しは確かであるか
- ②地域での多様な福祉ニーズに応えるための事業へのチャレンジ
 - *今年度は、新たに以下の新しい事業に取り組んでいく。
 - *練馬区：練馬区立大泉子ども家庭支援センター、練馬区立高松小学校学童クラブ
 - *目黒区：中央町児童館
 - *荒川区：汐入東小学校 放課後子ども教室
 - *家庭的保育事業－祖師谷保育園を中心に－
- ③新しい事業展開と人材育成
 - *変化の激しい時代は、新しいニーズに対して福祉法人はそれを負う責任を果たすことが求められている。
 - *既存の事業を充実させながら、新しい事業に挑戦し、そこを人材育成の場ともしていく。
 - *人材育成の基本は、法人のミッション（主イエス・キリストの教えと行いに倣い、創立者思想と実践を受けつぐこと）に立って展開されていく。

VII：理事会、評議員会、その他の委員会など

- (1) 理事会
 - *年間3回定期理事会を予定 5月、10月、3月
 - *他に状況に応じて臨時の理事会を開催していく。
 - *法人の最高決定機関である理事会の責任は、年々その責任が重さを増してきている。社会福祉法人の今後が方向性が不確定な時代にあって、理事会はその方向性を指し示す責任が委ねられている。この点を深く認識して理事会での審議を進めていきたい。
- (2) 評議員会
 - *年間3回開催の予定 5月、10月、3月
 - *評議員会は、法人運営の協力者であると共に、厳しい批判者でもある。
 - *評議員会が正しく機能していくためには、法人の動きがいつも理解されていなければならない。
 - *法人と評議員とをつなぐための情報の発信を随時行っていく。
- (3) 役員会
 - *各ブロック担当理事と施設長代表によって構成される。
 - *毎月一回開催
 - *定期理事会が開かれる間の諸問題を検討する。
- (4) 人事委員会
 - *管理職の人事を検討し、理事会に提案する。
 - *各施設の人事、労務問題についての検討
 - *管理職育成について検討する。
 - *職員採用に関する事項
- (5) 協議機関の設置並びに委員会等の開催
 - *理事長の諮問機関

①給与制度検討委員会（随時）

- ・構成メンバーは理事長の任命による。
- ・社会状況や行政の動きを踏まえながら、法人の給与制度のあり方について検討する。
- ・給与制度の改定が必要な場合は、改定案を策定し理事会に提案する。

②広報委員会

- ・構成メンバーは理事長の任命による。
- ・各施設のホームページの管理と更新
- ・社内報の編集・発行、
- ・各種法人パンフレット作成の検討

※その他必要に応じて委員会を開き対応する

③全体施設長会（年3回予定）

- ・全施設長が集まって法人（各事業ブロック等）の現状や課題について話合う。
- ・法人の現状や、今後の課題について話し合う。
- ・各施設間の情報の交換、施設長同士の交流など。

④ブロック別施設長会（原則毎月1回予定）

- ・各ブロック（保育、児童館、支援センター、障碍児、者）毎に実施する。
- ・各事業ブロック内施設の事業展開状況、課題や問題の検討
- ・ブロック内施設の現状や情報の交換
- ・ブロック内の財務、労務、行政、危機管理、地域との関わり等々の問題を検討し解決に当たる。
- ・ブロック内の研修計画の策定と実施にあたる。

(6) 松沢塾の再会

*休んでいた松沢塾を新たな構想で再開する。

- ・この会の目的は、規模が大きくなってきた法人の正規職員一人ひとりとのコミュニケーションを深めるために、少人数のグループに限定して、理事長との話し合いの場を持つことにある。
- ・毎週水曜日、午後1：30～5：30まで
- ・法人のミッションの学び、法人の現状の報告、参加者の同士の交流、職員から法人への要望を聞く。

(7) 他の団体と協力して開催する集会、研修など

(1) イエス団、本所賀川記念館との合同施設長研修

- ・賀川豊彦の思想と実践を継承しながら事業を展開している関西（イエス団）と関東（本所賀川記念館・雲柱社）の施設長の研修・交流を目的とする。

(2) アドベント礼拝（2010年12月ごろ予定）への参加

- ・各施設が存在する地域の教会でのアドベント期間の礼拝に参加し、クリスマスの意義と法人の基盤であるキリスト教についての理解を深める。

(3) 賀川豊彦召天記念墓前祈祷会と講演会の実施

- ・イエスの友会、松沢教会、本所賀川記念館、財団法人、学校法人雲柱社との共催で、毎年賀川豊彦の召天日である4月23日の直近の土曜日に、多磨霊園の松沢教会墓地で開催する。
- ・今年度は4月17日（土）の予定。

(4) 本所地区施設職員合同職員研修会

- ・雲柱社の出発点となった本所地区の関係施設が、その精神を継承するために合同で実施する研修、他の法人の職員も参加する。
- ・今年度は、9月27日に開催の予定。

7：四法人、並びに関係団体との協力関係の構築

*雲柱社関係の四法人（学校・財団法人、松沢教会）は、お互いの独自性を尊重しつつ互いに協力して協働関係を形成する。

*雲柱社憲章の普及

記入者 武井まさ子

事業の内容と展開

新しい園長を迎え、職員一同協力しあい保育園の活動を進めていきます。2010年度2名の新人職員を加え、増々職員集団が若返ってきます。そのため法人での研修に加え、園内研修、園外研修への参加を充実させ職員のOJT、フォローをしっかりと考えていく必要性を感じます。またメンタルケアの必要な職員が増えてきている中、職員集団で支えあいながら子どもの育ちに関わっていきたくと考えています。そして子ども達が保育園や家で、大人や友だちに自分の気持ちをいっぱい出し自信を持って過ごせるように、もっと子どもの気持ちを把握し子どもの発達に伴った環境を整え、遊びや課題の提供をしていけるように保育課程を学びあい指導計画を充実させていきたくと考えています。それとともに子育てと仕事の両立で悩んでいる保護者も増えてきているので共に考えていく職員集団でありたいと思っています。そのための職員の研修も必要と感じています。

- ・一時保育も子どもが安心して過ごせる、という利用者の評価もあり、増々増えてきているのでこれからも利用しやすい施設として充実した保育を展開していきたくと考えています。
- ・国、東京都、市、保育の世界の動きが変わり始め、保育単価も下がり、これから目が離せない状況になっているので職員、保護者にタイムリーにこれらの情報を伝え、これから変化していく保育園の状況への理解を得ていきたい。
また、地域に必要とされる保育園としてニーズを受け止め、取り組んでいきたくと思っています。
- ・中に入ると安らぐ施設である。保護者、訪問者から言われるが、建物の修理やメンテナンスが必要な個所が増えてきているので、安全面に配慮し、必要な工事をしながら大切に使っていきたくと思っています。
- ・数年先に控えている小金井地域の総合センターを目指し、保育園として今後、地域から必要とされる事を賀川グループ、家庭支援センターと一緒に考えていきたくと思います。

2010（平成22）年度当初予算積算資料 支出予定確認書

環境整備・修繕等

- 2階テラスの床の張り替え

I 施設運営

(1)実施事業

ア. 特別保育事業

- ・ 零歳児保育特別対策実施（零歳児取り扱い人員：18名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（7時30分まで）（1時間延長、30分は自主事業）
- ・ 延長保育事業（零歳児受け入れ）
- ・ 障害児保育事業実施(2名)
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育預かり事業
- ・ 自園型年末保育

イ. 地域子育て支援推進事業

- ・ 育児講座
- ・ 退所児童との交流
- ・ 小中高生の育児体験受け入れ
- ・ 育児相談
- ・ 保育所体験
- ・ 園庭開放
- ・ プール開放
- ・ 子育てサークル支援
- ・ 子育て情報誌の発行
- ・ 育児困難家庭への支援
- ・ 外国人児童受け入れ

(2) 児童の処遇

ア.クラス編成

クラス名	年 齢	園児数	障害児数	保育士	
つぼみ	0歳	18		6	看護師
たんぽぽ	1歳	20		4	
ちゅうりっぷ	2歳	24		4	
はな	3歳	26		3	
ほし	4歳	26		3	
つき	5歳	26	2	2	
合計		140名		22	

つくし	(一時保育)	定員 10名		2	
-----	--------	-----------	--	---	--

イ.月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 298日
25	23	26	26	26	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	26	23	24	26	

ウ.健康管理

健康診断

- 乳児 毎月
- 幼児 年2回 (5月、11月)
- 歯科検診 年2回 (5月、11月)
- 蟯虫卵検査 年1回 (6月)

エ.保育

各組の保育目標

つき組(5歳児)の年間目標

- ・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して身体を動かす事を楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主、自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・様々な事物や事象と自分達の生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
- ・異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像した事などを自由に工夫して表現する。

星組(4歳児)の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・友達と遊ぶ事の喜びや楽しさを感じ、集団で活動する事を楽しむ。
- ・意欲的にいろいろな事に挑戦し、体を動かして遊ぶ事を楽しむ。
- ・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・人の話を聞いたり、自分の経験した事や思っていることを話したりして、言葉で伝え

る楽しさを味わう。

- ・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表現しようとする。

花組(3歳児)の年間目標

- ・生活が自立してくる事で自信を持ち、自分のやりたい事が表現できるようになる。
- ・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・様々なものを見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かに持つ。

ちゅうりっぷ組(2歳児)の年間目標

- ・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け入れてもらう事で、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ・身体を動かす事が楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやり取りを楽しむ。
- ・大人やまわりのことに興味を持ち、みため、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

たんぼぼ組(1歳児)の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と、情緒の安定を図る。
- ・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かす事を楽しむ。
- ・安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などを自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

つぼみ組(0歳児)の年間目標

- ・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を変えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に

努め快適な生活が出来るようにする。

- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを見たり、触れたりする機会を通して、身のまわりのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定（行事費用）

4月 入園式(1万円)・保護者会総会

5月 保護者懇談会

6月 保育参観・プール開き(3万円)・歯科検診(3万円)・救命救急法講習
地域お楽しみ会(8万円)

7月 お泊り保育(10万円)・父親懇談会(1万円)・ケアーの必要な子の育ちを考える会(5万円)

9月 Welcomeday(3万円)

10月 運動会(15万円)・遠足(15万円)・中間反省

11月 秋祭り(10万円)・感謝祭(3万円)・防災訓練(賀川学園と合同)

12月 クリスマス会(15万円)・OB&地域クリスマス会(5万円)

1月 餅つき会(3万円)

2月 保育参観・保護者懇談会・年間総括

3月 卒園式(10万円)・進級を祝う会(10万円)・卒園遠足(5万円)

オ. 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材・安心できる素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

カ. 安全管理

安全チェック(毎月)

非常災害時の避難訓練(毎月1回)内1回は賀川と合同総合訓練

引き渡し訓練の実施(年1回)

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	21名
調理員	3名 (栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	1名
パート職員(朝夕、フリー、障害児担当など)	29名

イ.健康管理

健康診断 年 1回 (7月～9月)

細菌検査 年 1回

調理、0歳児担当者、施設長、主任のみ毎月1回

ウ. 職員会議

定例会	毎月1回
行事前打ち合わせ会	(随時)
期別反省会	(年4回)
乳児・幼児別打ち合わせ会	(週1回)
クラス別打ち合わせ会	(毎月1回)
学習会	(毎月1回)

エ. 研修計画

○法人内研修 (10万円)

○園内研修 (キリスト教、食事、巡回指導、環境など) (50万円)

○外部の研修 施設見学

○私立保育園連盟 (10万円)

○キ保育所同盟研 (5万円)

○東社協 (5万円)

○その他 (20万円)

オ. 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2. 施設管理

(1) 事務関係

ア. 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、実費徴収事務
- ・ 労務管理(出勤管理、有給休暇管理 等)

イ. 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

- ・ 保育指導計画の作成
- ・ 給食献立表の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア. 固定遊具の設備点検 (点検費用)

- ・ 電気、ガス関係点検整備

イ. 老朽設備の点検、老朽箇所の更新 (点検、更新費用)

- ・ 2階テラス床の張替え 147万円

(3) 備品関係

ア. 備品購入予定 (購入予定費用)

- ・ 保育室環境整備 35万円

イ. 保育用品購入予定 (購入予定費用)

80万円

ウ. 給食用品購入予定 (購入予定費用)

- ・ 0歳食器 5万円

エ. 固定資産物品購入予定 (購入予定費用)

(4) 災害対策

ア. 避難訓練 毎月 1回

イ. 防災設備の点検委託

年2回(内、届出1回)

前文

○ 新体制でのぞむ

- ・園長・主任が今年度から代わり、新たなスタートとなる。役割分担をし、協力体制を強化していく。若手の育成をしながら全体の資質を高めていけるようにする。
- ・今までの乳児・幼児の打ち合わせに加え、園内研修のあとのクラス打ち合わせ・パート職員を交えたクラス打ち合わせなども毎月行い職員同士の共通理解を深めていく。

○ 保育の見直し、積み上げ

- ・新しくなった「保育指針」を通して自分たちの保育をあらためて見直していく。
今年度は乳児、特に1歳児クラスの子どもたちが多いので、子どもたち個々の月齢・様子・家庭状況等によって個別に対応しなければならないことも増えてきている。乳児クラスの柔軟な保育体制・協力体制を整えていく。また、「書類の書き方」を通して、子どもたちとの関わりも学ぶ。
- ・今まで行ってきた保育の流れや内容をここであらためて見直していく。積み上げていくべきものは誰がどのクラス担当になっても参考に出来るように資料を整理しておく。
- ・室内環境についてはより家庭的で落ち着いた環境づくりをすすめていく。子どもたちが遊びたいと思うようなものを必要に応じて順次出していけるように、教材庫内の整理整頓をしていく。また、園庭は総合遊具が完成したところではあるが、その他にも子どもの活動が広がるような環境を充実させていく。
- ・特別な支援を必要とする子どもが増え、一クラスに複数いる場合もある。他の子どもと共に活動するもの、個別に対応するものなどについて学び、共通理解を高めて保育にあたっていけるようにしていく。障がい児・者支援ブロックの仕事から学んだり、連携していくことも必要になるものとする。
- ・家庭環境が複雑な場合等、個別の対応を必要とするケースがととも増えている。適宜保護者との面接が出来るようにすることと共に、地域の民生児童委員・子ども家庭支援センター等との連携をより強固にしていく。

○ 学童。低学年児童の受け入れ「かけはし」

- ・年長保護者からの要望に答え、今年度から低学年児童の受け入れ（卒園児小学1年生12名）を保育園で始める。まずは低学年児童が安心して過ごせる場所となるように。また、園児・児童双方にとって良い交わりとなるように考えていく。

○ 新たなニーズを掘り起こす取り組み

- ・昨年度に続き、「一時保育」他、親支援について学んでいく。
- ・パートナー登録者をはじめ、地域の子育て家庭が来園しやすい保育園となるように工夫していく。その交わりの中からも保護者のニーズが受け止められるようにしていく。

○ 設備の見直し。

- ・多い乳児の保育ニーズにこたえるため、二階保育室の使い勝手を変えることとなった。そこで今まで幼児が使っていた部屋のトイレを乳児室用にする必要がある。その他、調乳・沐浴設備等。
- ・耐震調査・耐震工事
- ・床の張替え・床暖房・電気工事
- ・学童保育に対する希望は多い。その他にもニーズの広がりに対応出来る空間の確保を考えたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・零歳児保育特別対策事業実施
- ・産休明け保育実施
- ・延長保育実施（1時間延長）
- ・延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・障害児保育事業実施（特児対象：0名、その他：5名）
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・小中高生の育児体験受入れ（夏期ボランティア受け入れ） 年 28 日間受入れ予定
- ・保育所体験（園開放） 年 10 回
- ・出前保育（子育てサロン） 年 1 1 回実施予定
- ・年末保育
- ・小学生低学年児童の受け入れ（1 2 名）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つぼみ	0歳	2名	6名		+パート補助1名
たんぽぽ	1歳	3名	15名		
ちゅうりっぷ	2歳	2名	14名	(1名)	+パート補助1名
れんげ	3歳	1名	20名		+パート補助1名
すみれ	4歳	2名	23名	3名	+パート補助1名
いちょう	5歳	1名	24名	2名	+パート補助1名
	フリー	2名			1名は乳児増加の備え
合計		13名	102名	5名	

☆保育士数合計は、主任保育士を除いた数である。

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294 日
25日	23日	26日	26日	26日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25日	24日	23日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

- 入所前 前年度3月
- 乳児 毎月
- 幼児 年2回（4月、10月）
- 歯科検診 年1回（6月）
- 蟯虫卵検査 年1回（5月）

エ 保 育

各組の保育目標

いちよう組（5歳児）の年間目標

- ①様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通してからだを動かすことを楽しむ。
- ③健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身に付け、理解して行動する。
- ④様々な事物や事象と自分達の生活との関係に気付き、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。

異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。

人の話をよく聞き自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。

- ⑤自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
意欲的に色々なことに挑戦し、からだを動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身に付ける。
- ④人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

れんげ組（3歳児）の年間目標

- ①生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。

- ②外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ③食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようになる。
- ④自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気付き感性を豊かに持つ。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ①たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せると共に、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③簡単な身の周りの活動を自分でしようとする。
- ④保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤大人や回りのことに興味をもち、みだて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

たんぼぼ組（1歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行いからだを動かすことを楽しむ。
- ③安心出来る保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④安心出来る大人に見守られる中で、他の子どもに関心をもち、関わろうとする。
- ⑤身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、色々な身体活動を十分に行う。
- ③保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活が出来るようにする。
一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤聞く、見る、触る等の経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
安心出来る人的物的環境に下で絵本や玩具、身近な生活用具等を、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定

(行事費用)	4月	入園式 (5万円)
	5月	幼児親子遠足 (10万円)
	6月	こどもの日、花の日 (2.5万円)
	7月	お泊まり保育 (10万円) 夏まつり (5万円)
	8月	卒園児キャンプ (10万円)
	9月	祖父母の集い (2万円)
	10月	運動会 (10万円)、幼児遠足 (5万円)、2歳クラス親子遠足 (5万円)
	11月	感謝祭 (2万円)
	12月	もちつき大会 (5万円)、クリスマス会 (15万円)
	1月	新年挨拶会 (5万円)、6年生同窓会 (3.5万円) つくし講座 (母親講座) (2万円)
	2月	子ども食堂 (5万円)
	3月	お別れ遠足 (10万円)、卒園式 (5万円)、進級式 (5万円)

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 12 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成。

給食供給者としての諸管理

園児の畑での種まき・苗植え体験。野菜・果物 (キュウイフルーツ) の収穫体験。

カ 安全管理

交通安全教育 (11 月 1 日)

非常災害時の避難訓練 毎月

引き渡し訓練の実施 (9 月)

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園 長	1名
主 任	2名
保 育 士	13名 (主任保育士除いた数) (うち3名は臨時職員。)
調 理 員	3名 (栄養士含む)
看 護 師	(1名・・・主任と兼任)
嘱 託 医	1名 (非常勤)
パート職員	25名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回 (10 月)

細菌検査 年 12 回 全員

インフルエンザ予防接種

ウ 職員会議

定例職員会議 毎月 1 回

園内研修＋クラス打ち合わせ 毎月 1 回

パート職員を交えたクラス打ち合わせ 毎月 1 回

乳児クラス、幼児クラス各打ち合わせ等 各月 2 回

パート職員の研修 夜年 2 回

エ 研修計画 (研修費用)

- ・ 園内研修 (15 万円)
- ・ 法人内研修 (40 万円)
- ・ 他施設見学研修 (20 万円)
- ・ その他研修 (5 万円)

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、・ 実費徴収事務・・・トータルネット
- ・ 労務管理 (出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

- ・ 保育指導計画等の作成
- ・ 給食献立表等の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成
- ・ かんたんメールでの伝達

(2) 設備関係

- ア 老朽箇所の見直し
 - ・耐震調査・耐震工事
 - ・保育室床の修繕、ペンキ塗り。
 - ・園庭の倉庫改修工事
- イ 部屋の使い勝手を変えるために（乳児の保育ニーズにこたえるために）
 - ・二階乳児室内トイレの改修二箇所。調乳コーナー・沐浴コーナーの設備。
 - ・電気配線工事
 - ・床暖房工事
- ウ 新しいチャレンジにむけての準備として
 - ・ニーズを受け止めながら、一時保育室または学童保育室の建設を考える。

(3) 備品関係

- ア 備品購入予定（購入予定費用）
 - ロッカー・机・箆笥等の購入
 - パソコン
 - 学童用イス等
- イ 保育用品購入予定（購入予定費用）
 - 三輪車等の保育用品購入
 - 保育玩具・教材の購入
- ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）
 - 箸・お皿の類
 - 学童用箸・お皿の類
- エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
 - 毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
 - 年2回（内、届け出1回）
- ウ 非常食糧の備蓄
 - （全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分 倉庫内整理。

3 地域社会との連携

障がい児者施設、小学校・中学校・高校との交流。老人ホームとの交流。
民生委員、支援センター、保健相談所、児童相談所との連携。

4 その他

低学年児童の受け入れ。卒園児キャンプ。6年生同窓会。
ワークスタジオ賀川との連携を考えていく。

記入者 伊藤 美代子

前文

2010年度は保育や卒園児活動の中核となる主任が変わり、一人ひとりの保育者に更なる自覚が求められるようになる。それぞれのしっかりした保育実践とクラス担任同士の連携、更にクラス間の協働が求められてくる。神愛保育園としての事業は保育にとどまらず、地域の子育て支援や卒園児支援などがあるが、変わらず続いていくので新しい主任に伝えながら、一緒に進めていきながらお互いの理解を深めようになりたい。特に卒園児の活動では、今までの“継続的なつながり”が大きな要素を占めるが、その柱となっていたのが主任でもあるので、丁寧につながりを手渡せるようにしたい。そのためにはやはり周りの職員の力が大きくものを言うと思うので、今年は職員の一層のふんばりを期待している。子育て支援では、担当が変わって2年目になり見通しを持って、新たなことにもチャレンジしていける体制であるので、18年目の歩みをより確かなものにしたいと思っている。そして、大きな視点での“子育て支援”を地域のネットワーク作りということで考えていきたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳時の受け入れ・スポットの受け入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施予定
- ・ お年寄りとの交流 年6回実施予定
- ・ 退所児童との交流 年6回実施予定
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年30日間受入れ予定
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年30回・30人受入れ実施予定
- ・ 出前保育 年11回実施予定
- ・ 出産を迎える方の体験保育 年9回・20人受け入れ実施予定
- ・ 子育てサークル支援 年10回実施予定
- ・ 子育て情報誌の発行 年5回発行予定
- ・ 育児困難家庭への支援
- ・ 自主的取組 障碍児との交流保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つくし	0歳	3	9	0	
たんぽぽ	1歳	2	10	0	
もも	2歳	2	14	0	
ちゅうりっぷ	3歳	1	15	1	
ひまわり・年中	4歳	1	16	0	
ひまわり・年長	5歳	1	17	1	
子育てひろば	その他	1			
合計		11	80	2	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 295日
25	24	26	26	26	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	23	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月

幼児 年2回（5月、11月）

歯科検診 年2回（6月、11月）

蟯虫卵検査 年2回（6月、11月）

エ 保育

各組の保育目標

ひまわり組（5歳児）の年間目標

- ・ 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・ しなやかな体で、のびのびとじぶんの体を動かして遊ぶ。
- ・ 人に話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手、あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・ 友だちと同じ目的に向かって活動するようになり、自分のやらなければならないことや、必要性がわかってくる。
- ・ 異年齢や様々な子ども達とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようになる。
- ・ 友だちと共通のイメージを持って、自分たちの遊びをより楽しいものにしていく。

- ・ 自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じたことや思ったこと、想像した事などを自由に工夫して表現する。

ひまわり組（4歳児）の年間目標

- ・ 友だちとの楽しい経験を重ねることで、自分のきもちに気づき、行動しようとする。
- ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 人の話を聞いたり、自分の思っていることを話したりして、言葉で伝え合う楽しさを味わう。
- ・ 友達と遊ぶことの喜びや楽しさをお互いに感じ、一緒に遊ぶ中で他の子ども達に考えかとも受け入れようとする。
- ・ 異年齢の子どもにも関心を持ち、かかわりを広める。
- ・ 遊びの中から想像が豊かになり、それを表現する。
- ・ 自然の身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表現しようとする。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

- ・ 生活が自立してくることで自信を持ち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ・ 色々な遊びをとして、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表現し、保育者や友達と遊ぶ中で言葉を楽しんで使う。
- ・ 気の合う仲間と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・ 友だちの事がわかるようになり、助けてあげたり手伝ってあげるようになる。
- ・ 体験したことをもとに色々なことを発想してごっこを作っていく。
- ・ 自然の中で身近な動植物に触れあいたくさん遊ぶ。

もも組（2歳児）の年間目標

- ・ たくさんの自己主張や思いの表出を保育者に受けとめてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちをきりかえられるようになる。
- ・ 体を動かすことが楽しくなり、体をいっぱい動かしてあそぶ。
- ・ 保育者に助けてもらうことで、自分の気持ちを言葉で伝えようとし、思いがぶつかった時も、“どうしようかな”と少しずつ考えようとする。
- ・ 他の子ども達と遊ぶことが楽しくなり、一緒に遊びたいと思う仲間ができてくる。
- ・ 保育者や周りのことに興味を持ち、みたて・ふり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。
- ・ 自然物や生き物を身近に感じ、喜んで触れ合う。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ・ 「ジブンノ」「ジブンガ」の主張に見られるような自我が芽生え、その表出を保育者に受けとめてもらうことにより、安心して自分の思いを出す。
- ・ 歩くことを喜び、体が動くことを楽しむようになる。また、手指など自分の体をつかって、探索活動を十分に楽しむ。
- ・ 保育者と子どものゆったりした信頼関係の中で、ことばやしぐさで自分の思いを伝える。そして、その中で覚えた言葉を使うことを楽しむようになる。
- ・ 安心できる保育者に見守られる中で、他の子どもにも関心をもちかかわろうとする。
- ・ 身近な保育者の様子を真似しながら、みたて・ふり遊びを楽しむ。
- ・ 身近な自然とのふれあいを十分に体験する。また、小動物に対する興味や関心が育つ。

つくし組（0歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。また、一人ひとりの生活リズムを大切にして、食欲、睡眠、排泄などの生理欲求をもたし、生活の安定を図る。
- ・ 大好きな人や欲しいものに興味を示し、自分から近づいていこうと姿勢を変えたり、移動するなど体を十分に動かす。
- ・ 寝返り、おすわり、はいはい、伝い歩き、歩くなどそれぞれの状態にあった遊びを楽しむ。
- ・ 聞く、見る、握る、つまむ、たたく、ひっぱる、しゃぶるなどの遊びを楽しむ。
- ・ 嬉しい、悲しいなどの感情が育ち、泣く、笑う、表情、しぐさ、喃語、片言などでじぶんのきもちを表す。
- ・ 保育者が歌う唄を喜んで聞いたり、手足や体を動かして楽しむ。また、保育者の動作を見て、まねをする喜びを味わう。
- ・ 身近な自然とのふれあいを十分に体験する。

主な行事予定	4月	入園式（1万円）
（行事費用）	5月	親子遠足（25万円）
	6月	花の日、子どもの日（1万円） 日曜大工の日（3万円）
	7月	夕涼み会（5万円） 保育園キャンプ（20万円）
	9月	おじいちゃん、おばあちゃんと親しむ会（2万円）
	10月	運動会（3万円） いもほり遠足（3～5歳児）（17万円）
	12月	子ども会クリスマス会（3万円） 親子クリスマス会（10万円） 年長観劇（5万円）
	1月	餅つき（5万円）

3月	卒園遠足 (3万円)
3月	お別れ会、卒園式 (10万円)
月例行事	誕生会 (8万円)
	礼拝牧師謝礼(7万円)
	園外保育 (5万円)

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材・安心できる素材（生協の利用・自然食品店・アレルギー食材店の利用）を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

地域の親に向けた献立の紹介

カ 安全管理

交通安全教育（ 11月 ）

非常災害時の避難訓練（毎月1回）

引き渡し訓練の実施（ 9月1日）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	11名
調理員	3名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤）
臨時職員、パート職員	16名

イ 健康管理

健康診断 年1回（ 9月 ）

細菌検査 年2回

給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

定例会 毎月2回

行事前打合せ会（随時）

期別反省会（年2回）

園内研修（年4～5回）

エ 研修計画（研修費用）

- ・ 園内研修（15万円）
- ・ 法人内研修（10万円）
- ・ キ保連保育研修（10万円）
- ・ 保育総合研修（10万円）
- ・ 全私保連カウンセラー養成講座（20万円）
- ・ 全私保連全国研究大会（10万円）
- ・ その他（15万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、・ 実費徴収事務
- ・ 労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・ 保育指導計画等の作成
- ・ 給食献立表等の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）

給食室の壁の塗り替え（10万円）

1、2階保育室のワックス塗り（50万円）

4・5歳児室ロフトの階段直し（20万円）

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

0歳児室サークル設置（40万円）

収納庫設置（50 万円）

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）
環境整備のための巧技台(20 万円)

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）
冷蔵庫（30 万円）
換気扇（30 万円）
園児用お椀（15 万円）

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

（4）災害対策

ア 避難訓練
毎月 1 回

イ 防災設備の点検委託
年 2 回（内、届け出 1 回）

ウ 非常食糧の備蓄
○（全園児数+全職員数）× 3 食×（1 日～3 日）分

3 地域社会との連携

ネットワーク作りに力を入れ地域の各施設機関とつながることによって、子育て支援の輪を地域の中に広げ、人と人をつないでいくことを引き続き目標にする。

区内にある雲柱社の施設と連携を取り合い、利用者のニーズにそった支援をしていきたいと思う。

地域の民生委員、児童委員、保育ママに子育てひろば『ひだまり』で発行している情報誌を送り、情報を発信していく。そして、地域のお年寄りの力を園内に吹き込んでもらうことにもチャレンジしたい。また、地域で乳幼児と触れ合う機会を作るためにも江東区のボランティアセンターと連絡をとったり近隣の小、中学校との連携をとっているが、今年も大切に続けていく。

新保育所保育指針に義務付けられた地域の小学校との連携は、近くにある地域の 3 つの保育園と協働して学校に働きかけ、講演会や交流を形あるものしてきたが、子どもにとっての育ちの連続性を保障できるようにさらに実のあるものにしていきたい。

社会福祉法人雲柱社 祖師谷保育園 2010（平成22）年度 事業計画

記入者 上松 恵子

2010年4月1日から新たに保育所実施型の家庭的保育事業を始める。園がどのように関わり、交流を持ちながら、家庭的保育を進めていくか、新しく考えていかなければならない課題が多くあるが、職員全員で支えていく。家庭的環境で個別性に配慮しながら、ていねいな保育を行うことの意義や低年齢の子どもの保育のあり方も考える機会としたい。分園との協力関係も保ちつつ、それぞれの運営が円滑にいくよう職員一同力を合わせていきたい。

職員間で報告・連絡・相談をしっかりと取りあってスムーズな業務遂行を目指していく。常に子どもを中心とした視点に立ち、新保育所保育指針にもとづいた実践を行い、いつも保育を見直していく姿勢をもっていく。

外部講師による園内研修は三年目になるので、学びのまとめをしていく。また、できるかぎり外部の研修にも参加し、職員の資質の向上に力を注ぐ。

地域のネットワークとつながりながら園開放、出前保育も含めて、地域のニーズに耳を傾け、私たちのできる子育て支援を実践していく。また、中学生、高校生の保育体験、ボランティアなどもできる限り受け入れ、次世代育成支援につとめたい。

保育目標

神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にする子ども

- ① ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- ② のびのびとしなやかに、自分のからだを動かして遊ぶ子ども
- ③ 基本的な生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
- ④ さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- ⑤ 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じとり表現する子ども

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育事業（2時間延長）・分園は1時間延長
- ・ 障害児保育事業実施（1名）
- ・ アレルギー児に対する代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 中高生の育児体験受入れ
- ・ 出前保育
- ・ 保育所体験

(2) 児童の処遇

ア 本園クラス編成 認可定員 108名

クラス名	年 齢	保育士数	園児数	障碍児数	備 考
うさぎ組	0歳	3名	9名		看護師
あひる組	1歳	3名	14名		
はな組	2歳	3名	17名		
つき組	3歳	2名	20名		
ほし組	4歳	1名	24名		非常勤保育士1名
ゆき組	5歳	1名	24名	1名	非常勤保育士1名
	その他	2名			
合 計		15名	108名		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294日
25日	23日	26日	26日	26日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25日	24日	23日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月1回

幼児 年2回(5月、10月)

歯科検診 年1回(6月)

蟻虫卵検査 年1回(6月)

視力測定「4, 5歳児」(11月)

耳鼻科検診 年1回(5月)

エ 保 育

各年齢の保育目標

5歳児の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を動かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

4歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人に話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近の事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

3歳児の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信もち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

2歳児の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

1歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士にも見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られ中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもち、

0歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満た

し、生命の保持と生活の安定を図る。

・個人差に応じて離乳を勧め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。

④・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。

⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。

・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定	4月	入園式（2万円）
(行事費用)	5月	3、4、5歳児親子遠足（25万） 各クラス懇談会
	6月	花の日、子どもの日、（3万円） 5歳児キャンプ プール開き
	7月	夕涼み会（16万円）
	8月	卒園生遊ぼう会（4万円）
	9月	個人面談開始
	10月	運動会（15万円）ほのぼの会（3万円） 5歳児プラネタリウム観覧（1万5千円）
	11月	そしがや祭り（20万） 収穫感謝祭・会食
	12月	クリスマス会（20万円）
	1月	餅つき
	2月	大きくなったよの会 各クラス懇談会
	3月	お別れ会、卒園式（10万円） 進級式（10万円）

月例行事 誕生会、避難訓練

おにぎりの日（年3回 3歳児以上）

縦割り保育（毎週水曜日、年3回3～5日間）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施（9月）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	15名
看護師	1名
調理員（栄養士含む）	2名
非常勤職員	14名
嘱託医（非常勤）	1名
音楽講師（非常勤）	1名

イ 健康管理

健康診断	年 1 回（6月）
細菌検査	年 1 2回（全職員及び非常勤職員 毎月1回）

ウ 会議

・職員会議	毎月 1 回	・主任会	毎月 2 回
・幼児打ち合わせ	毎月 2 回	・乳児打ち合わせ	毎月 2 回
・各クラス打ち合わせ	年 6 回	・食事打ち合わせ	毎月 1 回
・行事前打合せ会（随時）		・反省会（年 2 回）	
・新年度打ち合わせ			

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（20万円）
- ・法人内研修（10万円）
- ・民間保育園連盟研修（30万円）
- ・その他の研修（40万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成

- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

(3) 備品関係

- ア 備品購入予定（購入予定費用）

- イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

- ・クラス用遊具、環境整備用品（100万）

- ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

- ・食器類（50万）

- エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

- ・テラス用日よけ（30万）

(4) 災害対策

- ア 避難訓練

毎月1回

- イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

- ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（2日）分

3 地域社会との連携

- ・烏山地域子育て支援の「保育ネット烏山」に参加。
- ・トライアングルフェスタに参加したり、児童館懇談会に情報交換の場として参加。
- ・民政委員の方と相談しながら、一人暮らしのお年寄り宅を訪問する。
- ・地域の部屋を週二回、地域の子育て中の親子に開放する。
- ・出前保育、園開放

4 祖師谷保育園分園、烏山保育園との連携、協力

- ・職員人材育成（合同園内研修を実施）
- ・園外保育の交流（5歳児プラネタリウム観覧）
- ・施設長、主任の打ち合わせを定期的に持ち、情報交換を行う
- ・食事に関すること（共通献立や食育の工夫など）

社会福祉法人雲柱社 祖師谷保育園分園 2010（平成22）年度 事業計画

記入者 佐藤 洋子

21年7月より世田谷区の待機児対策の一環として分園保育園が新設された。

年長児の入園児は0で定員60名だったが、48名でのスタートだった。22年度は新入園児18名増で66名の園児数となり24年度には80名の定員設定になっている。

開園して8ヶ月だが、保護者が園に求めている保育内容、また新しい保育園と一緒に創っていこうとする積極的な関わりの姿勢を見せている。子どもを真ん中にし、園と保護者と協働し豊かな子育て支援をしていきたい。

4月より始まる新事業の「家庭的保育事業」は、親のニーズも高いと思われるので本園と連携を持ち支援園としての協力体制を作って取り組んでいきたい。

地域への関わりはまだまだ根が浅い状態ではあるが、隣接の中学校との交流を積極的に呼びかけ、次世代育成支援の交流や、近くの老人施設からの交流イベントの誘いも受けているので、今年度は計画的に交流を図っていききたい。また、今年度もほとんどの0歳児を持つ母親が育児休業を早期に切り上げて復職している現状があり、職場復帰する母親たちが安心して保育園に入所出来るよう、乳児室開放や保育園体験などのプログラムを実施していききたい。

職員育成は、前年度と同じく内外部の研修の充実と共に、法人の理念、保育計画を基盤とする分園の保育の土台づくりのプロセスを皆で共有し、コミュニケーション力ある職員集団をつくっていききたい。

保育目標

神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にする子ども

- ① ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- ② のびのびとしなやかに、自分のからだを動かして遊ぶ子ども
- ③ 基本的生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
- ④ さまざまな人との関わりを大切にし、思いやりをもって共に生きる子ども
- ⑤ 自然や命あるものとの出会いを大切にし、豊かに感じとり表現する子ども

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・家庭的保育事業実施
- ・零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・産休明け保育実施
- ・延長保育事業（1時間延長）
- ・障害児保育事業実施（2名）
- ・アレルギー児に対する代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・中高生の育児体験受入れ
- ・出前保育

・育児休業中の親子保育所体験

(2) 児童の処遇

ア クラス編成 認可定員 名

クラス名	年 齢	保育士数	園児数	障害児数	備 考
つくし組	0歳	3名	9名		看護師・非常勤1名
すみれ組	1歳	3名	14名		
たんぼぼ組	2歳	2名	15名		非常勤保育士1名
ちゅうりっぷ組	3歳	2名	15名	1名	
ひまわり組	4歳		8名		
さくら組	5歳		8名	1名	
	その他				
合 計		11名	69名	2名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294日
25日	23日	26日	26日	26日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25日	24日	23日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月1回

幼児 年2回（5月、10月）

歯科検診 年1回（6月）

蟻虫卵検査 年1回（6月）

視力測定「4, 5歳児」（11月）

耳鼻科検診 年1回（5月）

エ 保 育

各年齢の保育目標（本園・分園共通）

5歳児の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、

生活の経験を広げる。

- ・年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っているようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を動かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

4歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人に話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近の事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

3歳児の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信もち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようになる。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

2歳児の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたく・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

1歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士にも見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られ中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもち、

0歳児の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を勧め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用品などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定	4月	入園式（2万円）、イースター（1万）
(行事費用)	5月	3、4、5歳児親子遠足（25万） 各クラス懇談会
	6月	花の日、子どもの日、（3万円） 5歳児プラネタリウム（1万5千円） プール開き
	7月	夕涼み会（10万円）
	8月	卒園生遊ぼう会（4万円）
	9月	個人面談開始
	10月	運動会（10万円）ほのぼの会（3万円）
	11月	そしがや祭り（20万） 一週間縦割り 収穫感謝祭・会食
	12月	クリスマス会（10万円）
	1月	餅つき
	2月	5歳児観劇（3万円） 大きくなったよ会 各クラス懇談会
	3月	お別れ会、卒園式（10万円） 進級式
	月例行事	誕生会（1万円） おにぎりの日（年3回 3歳児以上）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

保育園における食育計画づくりをしていく

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施（9月）

（2）職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
家庭的事業支援者	1名
保育士	11名
看護師	1名
調理員（栄養士含む）	2名
非常勤職員	12名
嘱託医（非常勤）	1名
音楽講師（非常勤）	1名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回（6月）

細菌検査 年 1 2回

全職員及び非常勤職員 毎月 1 回

ウ 会議

・職員会議	毎月 1 回	・主任会	毎月 2 回
・幼児打ち合わせ	毎月 2 回	・乳児打ち合わせ	毎月 2 回
・各クラス打ち合わせ	年 6 回	・食事打ち合わせ	毎月 1 回
・行事前打合せ会（随時）		・反省会（年 2 回）	
・新年度打ち合わせ			

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（15万円）
- ・法人内研修（10万円）
- ・民間保育園連盟研修（10万円）
- ・その他の研修（60万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
 福利厚生倶楽部加入

2 施設管理

（1）事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、
- ・実費徴収事務

- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

- ・テレビ（20万）・非常食糧貯蓄用倉庫（10万）

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

- ・クラス用遊具、環境整備用品（50万）

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

- ・食器類（30万）

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（2日）分

3 地域社会との連携

- ・烏山地域子育て支援の「保育ネット烏山」に参加
- ・トライアングルフェスタに参加し、児童館懇談会に情報交換の場として参加
- ・近隣老人施設との交流
- ・隣接中学校との交流

民営化後3年経ち、職員も31人中7人入れ替わることとなりました。職員一同初心に戻り、民営化によって培われた利用者の気持ちに寄り添う姿勢を大切にしたい保育を行なっていきたく思います。子ども目線、親目線、地域目線にも配慮しバランスのよい保育を行っていきます。

また、今年は職員の組織と役割を見直す年とします。具体的には、ボトムアップによる自立した職員集団を目指し、幼児・乳児・調理・特別保育各部門の垣根を越えた一体感のある園運営を行なっていきたくと考えています。民営化による保護者との3年間の協定も終わりをむかえ、人件費削減の必要性も目の前にせまっています。少数精鋭の職員として、一人ひとりが力をつけ、よりよいチームワークをもてるよう園内・園外研修や、心の土台づくりのためのエピソード記録の実施などを進めていきます。

保育環境に関しては、木のぬくもりを大切に、可能な限り修繕してきました。今年度はその中で人的環境や、保育の目的にそった環境設定などの充実を図りたいと思います。

保育方針

法人の理念、保育目標に基づき、どんな子どもに育て欲しいかを常に問いかけながら、子ども達が安全かつ健康で情緒の安定した生活ができるような環境を整え、自己を十分に発揮しながら人間形成の基礎を培うことができるよう願って日々の保育をしていきます。

保育目標

- ① ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- ② のびのびとしなやかに、自分のからだを動かして遊ぶ子ども
- ③ 基本的生活習慣が身につき、見通しをもってできることを自分でする子ども
- ④ さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
- ⑤ 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり表現する子ども

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・0歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：13名）
- ・産休明け保育実施
- ・延長保育事業（4時間延長）
- ・休日保育
- ・障害児保育事業実施（1名）
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・退所児童との交流
- ・中高生の育児体験受入れ
- ・保育所体験（パートナー登録）
- ・出前保育
- ・年末保育 12/29、30実施予定

(2) 児童の処遇

ア クラス編成 認可定員 116名 (今年度より認可定員変更)

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ組	0歳	5名	13名		*看護師
ちょうちょ組	1歳	4名	19名		
うさぎ組	2歳	4名	20名		
たんぼぼ組	3歳	2名	22名		
やま組	4歳	2名	22名	1名	
ひ組	5歳	2名	22名		
	その他	6名			
合 計		25名	118名		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 361日
30日	31日	30日	31日	31日	30日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
31日	30日	30日	28日	28日	31日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 毎月 1回
- 幼児 年3回 (5月、プール前、10月)
- 歯科検診 年1回 (6月)
- 蟯虫卵検査 年1回 (6月)
- 視力測定「4, 5歳児」 (11月)
- 耳鼻科健診 9月

エ 保 育

各組の保育目標

ひ組（5歳児）の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を動かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

やま組（4歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人に話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近の事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

たんぼぼ組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたて・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

ちょうちょ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士にも見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる大人に見守られる中で、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られ中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を勧め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発声や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定	4月	入園式（5万円）
(行事費用)	5月	4, 5歳児遠足（1万円） 保護者会
	6月	プール開き
	7月	夏祭り（10万円） お泊まり会（5万円）
	8月	プール遊び（5万円）
	9月	プールじまい ほのぼの会（2万円） お月見（1万円）
	10月	運動会（15万円） 5歳児遠足（2万円）
	11月	3, 4歳児遠足（14万円） 収穫祭（焼きいも・豚汁パーティー）（3万円）
	12月	クリスマス会（14万円）
	1月	餅つき（2万円）
	2月	節分（1万円）

保護者会

- 3月 ひなまつり（1万円）
 卒園・修了式（30万円）
 5歳児お別れ遠足（10万円）

- 通年行事 誕生会（3万円）
 ひまわりタイム（異年齢交流）（5万円）
 卒園生遊ぼう会 年6回（6万円）

オ 栄養管理

- 集団給食施設栄養報告 年 2 回
 栄養のバランスを考えた献立表を作成
 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
 保育と連携した食育活動の推進
 給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

- 非常災害時の避難訓練
 引き渡し訓練の実施（9月）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	2名
保育士	23名
調理員	3名（栄養士2名含む）
看護師	1名
保育パート職員	7名
調理パート職員	6名
見回り、用務	3名
嘱託医	1名（非常勤）
音楽講師	1名（非常勤）

イ 健康管理

- 健康診断 年 1 回（6月）
 細菌検査 年 12回
 全職員及びパート職員毎月1回

ウ 会議

- ・職員会議 毎月 1 回
- ・運営会議 毎月 2 回
- ・部門リーダー会議 隔月 1 回
- ・クラスリーダー会議 週 1 回
- ・幼児打ち合わせ 毎月 2 回
- ・乳児打ち合わせ 毎月 2 回
- ・保育まとめ 年 2 回
- ・新年度打ち合わせ 年 1 回

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（15万円）
- ・法人内研修（40万円）
- ・都私立保育園連盟研修（12万円）
- ・都社会福祉協議会研修（6万円）
- ・その他の研修（25万円）

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

（1）事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

（2）設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

イ 砂場入れ替え、消毒

ウ 布団乾燥、クリーニング

（3）備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

テラス倉庫（8万）

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

玩具（４０万）
乳児用助木（５０万）
０歳児用ベッド（２３万）

- ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）
 オープン（５５万円）
 食器類（２５万）
 サンプルケース（３５万）
- エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）
 廊下収納棚（９５万）

（４）災害対策

- ア 避難訓練
 毎月１回
- イ 防災設備の点検委託
 年２回（内、届け出１回）
- ウ 非常食糧の備蓄
 （全園児数＋全職員数）×３食×（１、５日）分

３ 地域社会との連携

- ・ 烏山地域子育て支援の「保育ネット烏山」に参加
- ・ 社会福祉協議会高齢者催し物参加
- ・ 出前保育、地域交流保育

４ 祖師谷保育園、祖師谷保育園分園との連携・協力

- ・ 職員人材育成（今年度は園内研修をいくつか合同に）
- ・ 園外保育の交流（今年度は府中郷土の森プラネタリウムに行く）
- ・ 施設長、主任の打ち合わせを定期的に持ち情報交換を行なう
- ・ 食事に関すること（共通献立や食育の工夫など）

記入者 三幣 典子

年主題「支え合う」 法人事業理念 保育理念にそって

新園舎での2年目を迎える。主任が替わり職員も若返るので、伝え合い、支え合いながら保育を進めていく。子ども達が長い時間を生活する場として、より一層安全で安心できる環境となるように整えていく。1歳児クラス2グループ制では昨年の評価・反省を踏まえ、見通しを持ち協力し合って保育ができるようにする。子育てひろば事業や地域活動は利用者や参加者も増えているので、利用者の声にこたえ、より充実したプログラムにしていく。また、子育てニーズの調査結果を踏まえて、当園で実施可能な新しい特別保育事業の準備をしていきたい。

園内職員研修として、保育の質を高めるために外部講師を招き、保育内容と記録の取り方の学びをしていく。

保育方針 「神と人から愛されかけがえのない存在であることを知る」

「一人ひとりを大切にする」

保育目標 神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にする子ども

- 1、ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2、のびのびとしなやかに、からだを動かして遊ぶ子ども
- 3、基本的生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4、さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5、自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり表現する子ども

配慮点 *誰もが神と人から愛され、かけがえのない存在であることを知るように保育する。

*子ども達一人ひとりの個性や権利を尊重して保育する。

*保護者が安心して働くことができ、子ども達が心身共に健やかに育つよう保育する。

*保護者と共に、地域との交流をもって子育てを援助する。

事業の内容と展開

- 1 安全な環境整備 子どもの動きや職員の動線を考慮して保育室の環境を整え、園庭や屋上送迎時の園周辺も含めた園舎の環境を整備していく。また、危険箇所のチェックリストを確認し安全対策を定着させていく。
- 2 非定型一時保育の柔軟な受け入れ
10名定員となり利用者が増加。障害児や発達の子の利用も増えている。緊急の受け入れ幅を柔軟にするために、各クラスとの協力体制も深めていく。
- 3 子育てひろばの充実

- 3階多目的室や遊戯室を有効活用し、在宅支援の親子対象に自由来園日や食事会を増やす。
- 4 出前保育 地域の公園や児童館などに職員が出向き、地域の親子対象に保育広場を行う。（今年度から始めての取り組み）
- 5 職員研修 今井和子先生（立教女学院短大教授）を招き、保育内容や日誌の記録の取り方などを学んでいく。
- 6 第三者評価受審 福祉サービス第三者評価を受審予定

施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：12名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（2時間延長）
- ・ 障害児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 非定型一時保育（4時間を超える）実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施予定
- ・ お年寄りとの交流 年10回実施予定
- ・ 退所児童との交流 年6回実施予定
- ・ 中高生の育児体験受入れ 年間随時受入れ予定
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 毎週水・金受入れ実施予定
- ・ 子育てサークル支援 年6回実施予定
- ・ 子育て情報誌の発行 年12回発行予定
- ・ 外国人児童受入れ（4名受入れ在籍）
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施予定
- ・ 育児困難家庭への支援
- ・ 出前保育 年6回実施予定

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
------	----	------	-----	------	----

ひよこ	0歳	4	12		看護師1
りす	1歳	4	19		保育補助1
うさぎ	2歳	3	19		
こぐま	3歳	2	20		
ぱんだ	4歳	1	20		幼児保育補助フリー2
きりん	5歳	1	20		
こあら	一時保育	1	10		保育補助2
合計		16	110		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 295日
25	24	26	26	26	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	23	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月 1回 (0歳児クラス)

乳児・幼児 年2回 (5月、10月)

歯科検診 年2回 (5月、10月) 歯科指導 (年5回)

蟯虫卵検査 年2回 (5月、11月)

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組 (5歳児) の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

ぱんだ組 (4歳児) の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。

- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

こぐま組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外あそびを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちをだせるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、見立て・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

りす組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め

快適な生活ができるようにする。

- ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れて幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発声やなん語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・安心できる人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

こあら組（一時保育）の目標

- ①・一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活や遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
- ③・一人ひとりの家庭での生活リズムに考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ④・安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、触れたりして、自然や事象に興味・関心をもつ。

主な行事予定	4月	入園式（8万円）
(行事費用)	5月	親子遠足（25万円）
	6月	こどもの日花の日（5千円）
	7月	夕涼み会（2万円）年長お泊まり保育（13万円）
	8月	小中学生キャンプ（70万円：内参加者負担金55万円） 中高生ボランティア受け入れ
	9月	祖父母会（2万円）
	10月	ファミリーデー（10万円）芋掘り遠足（18万円）
	11月	収穫感謝祭
	12月	クリスマス礼拝・祝会（30万円）
	1月	餅つき会（1万円）
	2月	お別れ遠足（3万円）
	3月	お別れ会、卒園式（20万円）
月例行事		誕生会（5万円）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

食事目標 (ねらい)

(配慮)

- 1. 食事を楽しく食べる。
- 2. 旬の食材を通して

- 1. 楽しい雰囲気の中で、保育士や好きな友達と一緒に楽しく食べる。
- 2. 安全性に配慮した旬の食材を取り入れ、季節に合っ

- | | |
|---|--|
| <p>四季をしる。</p> <p>3. 手作りの楽しさを知る</p> <p>4. 食べる力をつける。</p> <p>5. 噛む力をつける。</p> | <p>た献立を立てる。</p> <p>3. 行事やクッキング保育を通して手作りの楽しさを伝える。</p> <p>4. よく遊び運動することでお腹がすき、必要な食品や分量が食べられるようにする。(保育士との連携)</p> <p>5. 咀嚼して噛める食材を取り入れる。</p> |
|---|--|

カ 安全管理

犯罪防止安全教育（1月）
 非常災害時の避難訓練 毎月1回
 引き渡し訓練の実施（9月）
 上級救命救急講習会

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
副主任保育士	1名
保育士	16名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤医師・歯科医師）
臨時職員、パート職員	17名

イ 健康管理

健康診断 年 2回（5月、10月）
 細菌検査 年 12回

ウ 職員会議

定例会 毎月1回 乳児・幼児カリキュラム会 毎月1回
 行事前打合せ会（随時）
 期別反省会（年3回）年度末会議6回

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修 記録の取り方の学び（20万円）
- ・法人内研修 階層別・職種別研修（10万円）
- ・私保連カウンセリング研修（32万円：江東区子育てひろば補助金）

- ・厚労省・江東区保育課・全国保育協議会・東京都社会福祉協議会・全国私保連
東京私保連などによる研修（10万円）

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

・

イ 設備の点検・修繕（点検・修繕費用）

- ・毎月の修繕費用（月3万円）
- ・園内消毒（10万円）
- ・ダスキンモップリース(月1万円)
- ・エレベーター定期点検

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

- ・面談用ソファ（5万円）
- ・保健室用簡易ベッド（5万円）

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

- ・各クラス遊具（21万円）
- ・乳児クラス遊具棚（5万円）
- ・遊戯室用マット(5万円)
- ・乳児用肋木（10万円）

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

・

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

- ・ 自転車置き場用電灯（20万円）

（4）災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

避難降園訓練（引渡し訓練）年1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（120）×3食×（2日）分

（アルファ米、水、缶入り味噌汁、乾パン）

エ 防犯対策

- ・ 年度初めや年末など、自転車整理に職員が交代で立つ。
- ・ 緊急時の家庭連絡法としての簡単メール（ジャクエツ）システムの活用。

3 地域社会との連携

- ・ 第五砂町小学校や近隣の小学校との交流、連携。
- ・ コーラスともしび（中高齢者コーラス活動）との交流、園行事の参加
- ・ 南砂・東陽・大島・深川北子ども家庭支援センター（みずべ）との連携
- ・ 発達センターCOCOとの連携
- ・ 二砂中学・四砂中学・都立東高校をはじめとする地元の中高生ボランティアや職業体験の受け入れ
- ・ 育児困難家庭や虐待を疑われる家庭の子どもを受け入れ子どもと家族を支えていく為に、江東区子育て支援課や子ども家庭支援センター、保健所、学校などの関係機関と連携していく。

記入者 酒井真理子

前文

- ・ 法人の理念、保育目標をいつも念頭におき、日常のなかに具現化してゆくことにつとめる。
- ・ 保育ブロック共通の保育課程を基にして、日々の保育を見直し、積み上げができるよう研修を深める。今年度も継続して「環境」をテーマに、研修をする。また研修したことを文章にして研修の成果をまとめていく。同時に新入職員や異動してきた職員と共に（5名）、職員集団の質を高めていくと共に、子どもや保護者に対しての関わりを深めていく。
- ・ 特別保育事業として H17年度に始めた2時間延長保育は、年々定着し増える傾向にあります。このような状況を踏まえ2時間延長保育のカリキュラムを充分検討し安定した生活がおくれるよう話し合いを深め、環境を整えていく。
- ・ 第三者評価を（保護者からのアンケート）実施し、その結果を保育の質の向上につながるよう取り組んでいく。
- ・ 組織としては、異動や退職に伴い、本園リーダーの役替えをし、主任会（リーダー、分園リーダー）の役割、機能を明確にして組織的に動くよう努力する。また、特に新人職員への OJT を行い、各委員会の動きもスムーズに行えるようマニュアルの整備をする。また看護師、栄養士も専門職として役割を自覚し、業務を行うよう議題の内容によって主任会へ参画する。
- ・ 入社1、2年目の職員を対象にメンタルヘルスケアを年2、3回行っていく。
- ・ 建物が老朽化してきているので、安全面から各保育室の出入り口のサッシ、窓などを取り換えていく。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：18名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（2時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て支援事業の推進

- ・ 育児講座（調理講習会）年3回実施予定
- ・ お年寄りとの交流 年28回実施予定
- ・ 退所児童との交流 年7回実施予定
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年10日間以上50人以上の受入れ予定
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年48回・50人受入れ実施予定

- ・調理講習会（離乳食・幼児食） 年3回
- ・外国人児童受入れ （4名受入れ在籍）
- ・出前保育 10回
- ・年末保育 12/29～12/30実施予定（若干名地域の子どもを受け入れる）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つぼみ組	0歳	6名	18名	0名	
もも組 さくら組	1歳	4名	24名	0名	
たんぼぼ組 すみれ組	2歳	4名	24名	0名	
ちゅうりっぷ 組	3歳	2名	28名	0名	
ばら組	4歳	2名	28名	0名	
ゆり組	5歳	2名	28名	0名	
	その他				
合 計			150名	0名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 295日
25日	23日	26日	26日	26日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25日	24日	24日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 毎月
- 幼児 年2回（6月、11月）
- 歯科検診 年2回（5月）（2月）
- 蟯虫卵検査 年2回（6月、11月）

エ 保 育

保育目標（保育ブロック統一）

- 1 ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2 のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども

- 3 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4 さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じ取り表現する子ども

主な行事予定	4月	入園式（10万円）	：家庭訪問
		イースター（3万円）	
(行事費用)	5月	幼児親子遠足（30万円）	：健康診断：乳児懇談会
	6月	保育参加（幼児）	：幼児懇談会　：歯科検診
		プラネタリウム見学（4～5才児クラス）	
	7月	お泊まり保育 年長組（30万円）	
		プール開き（5万円）	
		年中お泊り保育（3万円）	サマーキャンプ(10万円)
			小学1・2・3年生
	9月	祖父母招待会（5才児クラス）	
	10月	ファミリーデイ（10万円）	：2歳児親子遠足
		芋堀り遠足（5、4歳児クラス）（15万円）	：保育参加（乳児）
		健康診断	
	11月	バザー、子ども劇場（8万円）	：祝福式：収穫感謝祭：歯科検診
		料理パーティ	
	12月	クリスマスお楽しみ会（5万円）	：1・2年生クリスマス（3万円）
		餅つき（3万円）	：年末保育
	1月	子ども新年会、餅つき（3万円）	：6年生の会（3万円）
	2月	お別れ食事会（5歳児クラス）	：保育参加、保護者懇談会
		お店やさんごっこ	
	3月	卒園式（40万円）	
		お別れ親子遠足（15万円）	
月例行事		誕生会（1万円）	

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4回
 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
 アレルギー児への代替食
 給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

安全委員会を立ち上げ安全チェックリストを用いて環境の点検をする。（月1回）
 非常災害時の避難訓練 12回

引き渡し訓練の実施（9月 1日）

広域災害時に素早く確実に保護者に連絡をながすための訓練（かんたんメールを使用）年1回
防犯訓練 年2回

（2）職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	22名
調理員	3名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤）
臨時職員、パート職員	37名

イ 健康管理

健康診断 年2回（5月、10月）：職員 年1回

細菌検査 年1回

給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

定例会 毎月1回

行事前打合せ会（随時）

期別反省会（年3回）

0才、乳児、幼児、各カリキュラム会議 毎月1回

食事カリキュラム会議 毎月1回

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（5万円）
- ・法人内研修（40万円）
- ・全国私立保育団体研修（東京私保連）（30万円）
- ・墨田区保育団体研修（5万円）
- ・その他の研修（10万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

（1）事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

- イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）
 - ・ 保育指導計画等の作成
 - ・ 給食献立表等の作成
 - ・ 健康診断記録表等の作成

- (2) 設備関係
 - ア 固定遊具の設備点検（点検費用）
なし

 - イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）
 - ・ プレールーム室内装整備・・・（100万円）
 - ・ ネット整備（50万円）
 - ウ 地下倉庫の水もれ対策（100万円）
・

- (3) 備品関係
 - ア 備品購入予定（購入予定費用）
 - ・ IT環境のため（80万円）

 - イ 保育用品購入予定（購入予定費用）
 - ・ 2時間延長保育実施にあたり玩具をそろえる（3万円）
 - ・ 分園地域活動用玩具をそろえる（2万円）
 - ・ 午睡用布団購入（10万円）
 - エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）
なし

- (4) 災害対策
 - ア 避難訓練
毎月1回
 - イ 防災設備の点検委託
年2回（内、届け出1回）
 - ウ 非常食糧の備蓄
○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

- 3 地域社会との連携
 - ・ 東駒形教会、賀川記念館との連携
 - ・ 「どすこいくらぶ」のボランティアとの定期的な交流（墨田区在中のおじいちゃん）

- 4 人事採用他
退職職員 保育士4名（正職）

異動職員 大泉子ども家庭支援センターへ・・・保育士1名（正職）
墨田児童会館から・・・保育士1名（正職）
烏山保育園から・・・保育士1名（正職）
採用 保育士3名・・・・（正職）

記入者 秋山 幸美

黎明保育園はキリスト教保育・統合保育・全人保育を3つの柱を理念にして地域の中で信頼される保育園として日々歩んでいる。月に一度の出前保育は初めて5年目になる。今年度は、赤ちゃんを育てている母親を対象に午前中の学童クラブ室を使用して「ひろば」を始めた。宣伝活動が今後の課題であるが、毎回参加する保護者が増えてきた。また、ひろばの中で赤ちゃんマッサージや、離乳食のすすめなどの講座が大変に好評であった。一時保育を含め地域の子育て支援機能が保育園に、今後益々必要とされる。

めざす子どもの姿

1. 個性、感性が豊かな人に育つ
2. 思いやり、人を愛する心を持ち共に生きる人に育つ
3. 自分で考え、選ぶ力（主体性）のある人に育つ
4. 意欲（やる気）、忍耐力（我慢）、集中力（一所懸命）のある人に育つ

1 施設運営

（1）実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：10名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（1歳以上児受け入れ）
- ・ 障害児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育事業

イ 地域子育て推進

- ・ 保育所体験・中高生の育児体験受入れ 年30日間（体験学習含む）20人受入れ予定
- ・ 育児相談 随時
- ・ 子育て情報誌の発行 年12回発行予定
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施予定
- ・ 出前保育 月1回、年10回
- ・ 一時保育母親、妊産婦支援子育て講座
- ・ 一時保育身体測定
- ・ ひろば活動（年10回程度）

（2）児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ひよこ	0歳	3	10		
うさぎ	1歳	3	15		
こあら	2歳	3	18		
ひつじ	3歳	2	19		
ぱんだ	4歳	1	19		
きりん	5歳	1	19		
一時保育		2	10/日		
合 計		15	100		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 296 日
25	23	26	25	27	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	25年未有	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

乳児（0歳児） 毎月

0歳以外の乳幼児 年2回（5月、11月）

歯科検診 年2回（6月、11月）

蟯虫卵検査 年1回（6月）

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組（5歳児）の年間目標

- ・心身共に健康な身体で意欲的に遊ぶ。・友達同士認め合い、力を合わせて活動できる。
- ・自分で考え表現出来る。・自律して生活できる。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

- ・友達と一緒に充分遊ぶ。・自分の持っている力を出し合って行動する。
- ・物事に関心を深め、友達の事も少し考えられるようになる。自分を表現する。・基本的な生活習慣が身につく

ひつじ組（3歳児）の年間目標

- ・自分で出来ることは自分です。・身体を使ってよく遊ぶ
- ・友達の中で充分遊ぶ。・自分の思いや感じたことを言葉で伝える。

こあら組（2歳児）の年間目標

- ・自分のことは自分でしようとする。 ・周りの人に興味を示し、要求を言葉で伝えようとする。
- ・遊びに集中し、楽しむ。 ・全身を使った遊びを楽しむ。

うさぎ組（1歳児）の年間目標

- ・よく食べ、よく眠る。 ・欲求や要求を行動や覚えた言葉で表わそうとする。
- ・全身を使った遊びを楽しむ。 ・自分の興味のある物で遊ぶ。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ・よく遊び、よく食べ、よく眠り気持ちよく過す。
- ・発達に合った手足、身体の動きが見られるようになる。
- ・個々の要求や欲求を表し求めようとする。

こぶた組（一時保育）の年間目標

- ・個々のリズムや生活を大切にする。

主な行事予定	4月	イースター礼拝（3万円）
（行事費用）	5月	親子遠足（1万円）
	6月	こどもの日・花の日礼拝・訪問（2万円）
	7月	宿泊保育（年長児）（13万円）
	8月	新1年生の会（3万円）
	9月	おじいちゃん・おばあちゃん遊ぼう会（3万円）
	10月	運動会（10万円）・おまつり広場（13万円）
	11月	いもほり遠足（3・4・5歳児）（15万円） 収穫感謝祭礼拝・訪問（2万円）
	12月	クリスマスお楽しみ会（20万円）
	1月	子ども新年会、餅つき（5万円）
	2月	お別れ遠足（13万円）
	3月	お別れ会、卒園式（13万円）
月例行事		誕生会（1万円）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理・食育の指導

アレルギー対応食実施

カ 安全管理

安全点検（毎月 1日）

非常災害時の避難訓練（月1回）

引き渡し訓練の実施・かんたんメール配信（9月 1日）

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	16名
調理員	2名(栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	1名(非常勤)
臨時職員、パート職員	18名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回 (6 月、 10 月)
細菌検査 毎月 (全職員)

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回
乳幼児カリキュラム会議 月 1 回 乳幼児うち合わせ週 1 回
行事前打合せ会 (随時)
期別反省会 (年 2 回)

エ 研修計画 (研修費用)

- ・園内研修 (20万円)
- ・法人内研修 (40万円)
- ・葛飾・東京都・全国私立保育園連盟・厚生労働省 (100万円)

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

カ 「乳幼児救急救命講座」「乳児リズム遊び」「音楽講座」「和太鼓演奏」
「卒所児プログラム」など地域活動 (30万円)

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理 (出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

20万円

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）

老朽化によるテラス修繕工事（100万円）

ウ 保育室ワックスがけ（15万円）

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

30万円

イ 保育用品購入予定（購入予定費用）

30万円

ウ 給食用品購入予定（購入予定費用）

30万円

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

50万円

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

20万円

3 地域社会との連携

おまつり広場・地域活動・もちつき会・保育ボランティア活動
一時保育登録児クリスマス・お楽しみ会・出前保育・妊産婦子育て、ヨガ講座
京南町会との連携：お祭り（9月）ロードレース（11月）もちつき会（12月）
堀切教会との連携：収穫感謝祭豚汁パーティー・もちつき会・アドベント礼拝
教会との連絡会

4 その他

記入者 土屋 恵子

事業の内容と展開

かつては、3歳児からの保育が主であったが、最近は2歳児からの保育要望が急激に高まってきている。この要因は様々であると思われるが、経済的な理由により母親が早めに働きに出たい。また、いつも母親と幼児の二人だけで周辺に同年齢の幼児がいないため、集団生活の経験をさせたい等の理由であると思われる。このような要望に応える為、2歳児クラスの増設をしていきたい。

また、子ども達が安心して安全に生活できるよう、十分な配慮をするとともに、集団生活を通じて社会性をはぐくむ活動を展開する。日本伝統文化のひとつであるお茶のお点前（19年間実施中）や、保護者（ネイティブスピーカー）の協力を得て、英語で遊んだりする機会を引き続き実施していく。

子育て支援センター事業では、地域組織と連携を密にして、積極的に出ていく保育を行うとともに、各種講座や相談事業を幅広く展開していき、困難を抱えている人々に誠実に応えていきたい。

そして、これらの仕事をしていく為にもっとも基本となる「神と人に仕える仕事をする」ため、御殿場教会中島牧師を招いて、賀川豊彦の思想実践（キリスト精神）を学び、継承していく。

1. 最近2歳児の保育希望者が多くなっている。この要望に応える為、本年度は、1クラス増設し2クラスとする。（一時預かりの部屋を2歳児のクラスにする為、改修をする。）
2. 一時預かり事業は、集団保育の利点を生かす為各クラスにて対応する。
3. 子育て支援センターでは、地域福祉と連携を密にして、積極的に出前保育を行うとともに、子育て講座・体験保育・食事体験等の推進、並びに食に関する相談事業等幅広く展開していく。
4. 様々な文化に親しむ為、お茶のお点前を引き続き実施するとともに、保護者（ネイティブスピーカー）の協力を得て英語で歌ったり遊んだりする機会を引き続き実施する。
5. 御殿場教会中島牧師を招いて、神と人にと仕える仕事をする為学び、賀川豊彦の思想実践（キリスト精神）を継承していく。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・産休明け保育実施
- ・延長保育実施（1時間延長）
- ・乳児保育促進保育事業（零歳児の受入れ）
- ・一時預かり事業
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・子育て講座 年5回実施予定
- ・地域のお年寄りとの交流 年4回実施予定

- ・退所児童との交流 年4回実施予定
- ・小中高生の育児体験受入れ 年間約100名受入れ予定
- ・育児相談 随時実施
- ・保育所体験 年6回・18人受入れ実施予定
- ・子育てサークル支援 1才児クラブ14回、2才児クラブ14回
- ・子育て情報誌の発行 年12回発行予定
- ・外国人児童受入れ (1名受入れ在籍)
- ・出前保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ちゅうりっぷ	0歳	2	6		
たんぽぽ	1歳	3	15		
ひまわり2クラス	2歳	4	24		
もも	3歳	2	23		
すみれ	4歳	1	25		
ゆり	5歳	1	27		
	その他	4			子育て支援・延長保育・一時預かり
合 計		17	125		

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294日
25	23	26	26	26	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	23	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 年2回
- 幼児 年2回 (5月、10月)
- 歯科検診 年1回 (5月)
- 蟯虫卵検査 年1回 (6月)

エ 保 育

各組の保育目標

ゆり組（5歳児）の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しみ、新しい体験にチャレンジする。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

もも組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

ひまわり組（2歳児）の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みため、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げて

いく。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

ちゅうりっぷ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発音や喃語に応答し、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

主な行事予定

(行事費用)	5月	親子遠足 (18万円)
	7月	プール開き (4万円)
	9月	敬老の日 (3万円)
	9月	運動会 (11万円)
	10月	秋の遠足 (14万円)
	11月	幼児祝福式 (2万円)
	12月	クリスマス会 (12万円)
	12月	イブ礼拝 (1万円)
	1月	雪あそび (7万円)

3月 ふれあいピクニック (2万円)

3月 卒園式 (22万円)

オ 栄養管理

給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

交通安全教育 (年2回) 7月、11月

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施 (9月 1日)

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	14名
保育士 (パート)	3名 (子育て支援センター・一時預かり)
調理員	1名
栄養士	2名
事務員	1名
看護師	0名
嘱託医	2名 (非常勤)

イ 健康管理

健康診断 年1回 (11月と1月に分かれて)

細菌検査 年24回

調理師、保育士 毎月2回

ウ 職員会議

定例会 毎月1回 (行事前打合せ会を含む)

期別反省会 (年3回)

エ 研修計画 (研修費用)

- ・園内研修 (11万円)
- ・法人内研修 (14万円)
- ・その他研修 (30万円)

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
静岡県社会福祉協議会 従事者共済会加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検（点検費用）

点検予定有り（無料）

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）

（今年度なし）

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（今年度なし）

イ 保育用品購入予定（今年度なし）

ウ 給食用品購入予定（今年度なし）

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

キャビネット（特注食品庫）2台	359,100	共同募金受配金を充当
-----------------	---------	------------

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○ (全園児数+全職員数) × 3食 × (1日～3日)分

3 地域社会との連携

○地域老人クラブとの交流 年 7 回

○地域の文化祭に参加 (出場、絵の出展)

4 その他

記入者 松長 とも子

前文

- ・ 法人の理念、保育目標をいつも念頭におき日常の保育のなかに具現化していくことを努める。
- ・ 民営化2年目、公立園の良さを継承していきながらも雲柱社の保育園として子どもたちが心身ともに健やかに成長できるよう保育内容の見直しをしていく。また4時間延長保育の実施園として保護者の就労支援をはかりながら、子どもたちが豊かに過ごせるよう職員間で十分話し合い環境を整えていく。さらに民営化前の保育内容を変えるに当たっては事前に保護者に十分説明し理解が得られるよう努力し、信頼関係を構築しながらすすめていく。
- ・ 区の実施する保護者からのアンケートの結果をふまえて、保育の質の向上につながるよう取り組んでいく。
- ・ 主任会やリーダー会の役割、機能を明確にして組織的に整え、クラスの枠をこえて、助け合える職員集団をめざす。また、特に新人職員へのOJTや研修また看護師、栄養士も専門職として役割が発揮できるよう専門会議が充実していく、また一人一人の意見が反映され共通の認識にたてるような職員会議の持ち方を再考していく。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（4時間延長（今年度より））
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育 定員4名

イ 地域子育て推進

- ・ 退所児童との交流 年1回実施
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 外国人児童受入れ
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施予定（地域拠点園）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
いるか組	0歳	4名	9名	0名	
りす組	1歳	4名	14名	0名	

うさぎ組	2歳	4名	18名	0名	
こあら組	3歳	2名	20名	0名	
ぱんだ組	4歳	2名	20名	0名	
らいおん組	5歳	2名	20名	0名	
	その他				
合 計			101名	0名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 295日
25日	23日	26日	26日	26日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25日	25日	23日	23日	23日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児（0歳） 毎月 3回
 幼児 年2回（6月、11月）
 歯科検診 年2回（5月）（2月）
 蟻虫卵検査 年2回（6月、11月）

エ 保 育

保育目標（保育ブロック統一）

- 1 ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
- 2 のびのびとしなやかに、体を動かして遊ぶ子ども
- 3 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
- 4 さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
- 5 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じ取り表現する子ども

主な行事予定 4月 進級入園おめでとうの会（1万円）

（行事費用） 5月 4, 5歳春遠足（3万）
 7月 子ども夏祭り
 プール開き
 8月 一年生の会（1万円）
 9月 おじいちゃんおばあちゃん会
 10月 運動会（3万円）
 いもほり遠足（5、4歳児）（15万円）

- 12月 お楽しみ会（1万円）
- 1月 餅つき（3万円）
- 2月
- 3月 、さよなら遠足3，4，5歳（4万）
- 就学祝い会10万円）

月例行事（お誕生日）

オ 栄養管理

- 集団給食施設栄養報告 年 4回
- 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
- 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
- アレルギー児への代替食
- 給食供給者としての諸管理

カ 安全管理

- 安全委員会を立ち上げ安全チェックリストを用いて環境の点検をする。（月1回）
- 非常災害時の避難訓練 12回
- 引き渡し訓練の実施（9月 1日）
- 防犯訓練 年3回

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名	
主任保育士	2名	（副主任も含む）
保育士	21名	（延長保育選任もふくむ）
調理員	3名	（栄養士含む）
看護師	1名	
嘱託医	2名	（非常勤）
臨時職員、パート職員	20名	

イ 健康管理

- 健康診断 年 2 回（ 月、 月）
- 細菌検査 年 12 回
- 給食担当 保育担当全員

ウ 職員会議

- 定例会 毎月 1回

行事前打合せ会（随時）
年間反省会（年1回）
乳児、幼児、各カリキュラム会議 毎月 1回
食事カリキュラム会議 毎月 1回
アレルギー会議 毎月 1回
昼礼 毎日

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修（5万円）
- ・法人内研修（
- ・全国私立保育団体研修(東京私保連)
- ・墨田区保育団体研修（2万円）
- ・その他の研修（10万円）

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

職員による環境整備（月1回）

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新（点検・更新費用）

保育室床研磨

地震防災対策（転倒防止）

(3) 備品関係

ア 備品購入予定（購入予定費用）

- ・ 保育室遊具棚・・・（10万円）

- イ 保育用品購入予定（購入予定費用）
 - ・ 4時間延長保育実施にあたり玩具をそろえる （ 3万円）
 - ・ 一時保育午睡用布団購入 （10万円）

エ 固定資産物品購入予定（購入予定費用）

（4）災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 防災備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

3 地域社会との連携

- ・ 東駒形教会、賀川記念館、光の園保育学校との連携
- ・ 「どすこいクラブ」のボランティアとの定期的な交流（墨田区在中のおじいちゃん）
- ・ 同法人運営の児童館との連携
- ・ 近隣の小学校との連携

4 人事採用他

産休職員 1名

退職職員 なし

異動職員 なし

採用 （正職）保育士1名

2010年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>児童館ブロック 事業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を担う児童館を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験。ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。 	
---	--	--

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育て、子育て支援の拠点となるよう、活動を展開していく。 ・ 「乳幼児とお母さんのつどい」の活動を中心にお母さん同士が気軽に日常の中で情報交換や友達作りができる場とする。 ・ 乳児だけでなく、マタニティ、父親参加の活動にも目を向け、様々な形の子育て支援プログラムを行うとともに、いつでもほっとして立ち寄れるような居場所作りや環境整備を行う。 ・ 在宅で育児をしている方の支援プログラムをより多く企画し「仲間とともに楽しい育児」を支援していく。 ・ お母さんのための七宝焼教室の継続、ボランティア講師との連携 ・ 子育てを志す親子を対象(主に0・1歳児)にサークルをともに作り支援していく。 ・ ひととき保育事業(午前中)の実施(自主事業扱い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちにとって家庭に代わる、安全・安心な生活の場としての活動を行う。 ・ ひとり一人に気づき、ひとり一人が充実した毎日が過ごしていけるように、見守り、援助していく。 ・ 学童クラブの仲間として、ひとつの集団として遊び、友達関係の輪を広げ、生活経験を豊かにする。 ・ 保護者の方々にとって安心して働ける場であるよう支援していく。 ・ 地域の人々との交流、イベントへの参加 ・ 墨田区学童クラブ条例に基き、家庭に代わる安全で楽しい生活の場としての役割を担う。 ・ 言問小学校内で分室の実施(定員40名)。 ・ 本館学童クラブは児童館併設、分室は学校の協力の下でのよさを活かしていく。(両クラブ同士の連携をもち育成) ・ 合同プログラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ センターのイベントや日常のグループ活動を中心としてたくさんの友達と知り合い、友達関係を広げ、生活経験を豊かにしていく。 ・ 子どもたちひとり一人が自分の力を発揮できるような活動を展開する。 ・ 友達と力を合わせて取り組む楽しさを体験、経験する。 ・ 生活スキルの向上 ・ 体力増進活動の展開 ・ 保護者の方々とともに子どもたちの居場所作りをめぐる ・ 世界の人々や出来事にも目を向けたボランティア活動への取り組み ・ 児童文化に触れる機会を作り、こどもたちが情操を深める場とする。 ・ 身近なエコ活動への取り組み ・ 学習支援への取り組み 	<p>活動目標 <健全な余暇活動の場を提供する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常に子どもたちの声を聞きながら話し合いの機会を持ち、仲間同士の利用を中心としたもの、目的を持って来館した利用をできるプログラムに参加する。 ・ 活動を通して他者を思いやる気持ちを持つようにつとめる。またスポーツ、学習、遊び、イベントを通して仲間の大切さや関わりを深める。 ・ 夜間の利用が主となるため、常に家庭との関わりを持ち子どもたちが充実して過ごせるようなプログラム作りを展開していく。(19:00～21:00) ・ 同じ目的を持った仲間との交流(音楽室活動・キャンプ) ・ 学習支援活動の時間を設けいつでも学習のできる体制をとる。 ・ 体育館の自由利用 ・ 障碍児の受け入れ
活動の内容・行事等	<p><乳幼児とお母さんのつどい> (午前中 10:30-11:30) 0歳児(ぱんだ)・・・毎週金曜日 ※年度後半には低月齢のクラスも実施 1歳児(うさぎ)・・・毎週木曜日 2歳児(りす)・・・毎週火曜日 3歳児(こあら)・・・毎週月曜日 ※幼稚園2年保育の方の支援クラス</p> <p><幼児クラス> (午後2:30-3:30) 3歳児クラス・4歳、5歳児クラス</p> <p><日常利用> ・ 幼児室の安全衛生面などの整備に努める。 ・ 9:00-18:00の自由利用 ・ プレイルーム・・・広い体育室を利用した活動 遊具を準備し、交流の場として開放 水、土の午前中・午前クラス活動終了後 ランチタイム・・・11:45-13:00</p> <p><年間行事>遠足、うんどう会、劇団公演、よみきかせ、クリスマス会、子育て講座・講演会</p> <p><その他> ・ 各機関との連携(保健師、子育て相談員、保健センター、女性センター、民生委員他) ・ 子ども服リサイクル ・ 子育てサークルへの支援 ・ ひととき保育(午前中)の実施 *自主事業扱い</p>	<p><定員> *本館(さくら橋コミュニティセンター内) 60名 最大受け入れ枠70名(障碍児含む) *分室(言問小学校内) 40名 最大受け入れ枠40名(障碍児含む)</p> <p><対象> 1年-3年(特別な事情がある場合6年迄)</p> <p><育成時間> 通常 下校時間-17:00 延長 17:00-18:00 (以降は児童館で)</p> <p>学校休業日 8:30- 育成)</p> <p><年間行事> 4月 入会式 7月 父母会主催キャンプ 8月 おでかけ 12月 クリスマス会 3月 お別れ会</p> <p><日常活動> 公園あそび ・学童クラブレクリエーション 買い物体験 ・誕生日会 ・季節のイベント ・手作りおやつ ・観劇 ・グループ活動</p> <p><その他> 保護者との連携 父母会活動(共催事業 他) 面談 アンケート((区作成) 実施</p>	<p><利用時間>下校時(9:00-) 18:00まで *グループ活動 <低学年コミュニティクラブ 1年生-3年生> ・ 学年別の定例活動 週1回 期ごと 月、火、金曜日 ・ スポーツ、手作り、生活技術体験、野外活動、ハイキング、キャンプ他 ・ 「クオレ」(ショートステイ事業)の実施 ※在宅で子育てをしている家庭への支援</p> <p><高学年コミュニティクラブ 4年生-6年生> ・ 学年を越えての活動 ・ 週2回程度 水、土曜日 ・ スポーツ、レクリエーション、おかしづくり、イベントへの準備、ボランティア活動、学習、野外活動キャンプ、ハイキング ・ 地域の福祉施設との交流 ・ 法人内児童館との交流イベント</p> <p>自由利用 <日常プログラム> ・ スポーツ活動・・・設定スポーツ、自由遊び ・ 文化活動・・・映画、工作、手芸、うた、よみきかせ、おかしづくり、料理 他 ・ レクリエーション ・体力増進活動</p> <p><年間行事>こどもの日フェスタ、えんいち、ハイキング、キャンプ、クリスマス、もちつき、ポイントラリー、ひろば(子どもまつり)</p>	<p><利用時間> 下校時(9:00-) 月、水、金 19:00 火、木、土 21:00 日、祝 19:00</p> <p><中学生コミュニティクラブ> <高校生コミュニティクラブ> ・ 体育館を利用したスポーツ活動 設定 スポーツ、他館とのスポーツ交流 ・ 文化活動 ・ ボランティア活動 ・ 学習会 火、木 19:00-20:00 ・ 中高生タイム 18:00-19:00・21:00 ・ イベント ・ 体験学習キャンプ「ワークキャンプ」実施</p> <p><音楽室活動> ・ バンド活動 音楽室の利用貸し出し、機材の整備、技術講習会、音楽室利用者会議 ・ 年3回コンサートの実施</p> <p><ボランティア登録 > ・ センター行事のお手伝いをはじめ、各種プログラムの計画、実施を行う ※ 現在では中学生から中高年までの幅広い登録がある</p> <p><学校との連携> 実習、奉仕活動</p>

児童館名 さくら橋コミュニティセンター

記入者 小原 尚子

< 2 > 職員構成

- ・ 館長
- ・ 主任
- ・ 児童厚生員

計10名

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ 東京都児童館連絡協議会の研修
- ・ その他の研修
防犯、安全管理、救急 等

< 4 > その他

- 子育て相談員による相談事業
- 保健師による相談事業・育児指導
- お母さんのための七宝焼き教室(毎月第3金曜)
- 地域(町会、育成委員会との共催事業)
- ボランティアの育成・受け入れ
- 子育て支援サークルの実施
- 育児サークルへの支援
- サポートセンターとの連携
- 実習生の受け入れ(高校、大学、養護学校高等部)
- 運営委員会の実施
- 「さくらの樹」 思春期(児童含む)のお子さんを
持つ保護者の会
- 親子映画会の実施
- 苦情窓口の設置
- よみきかせボランティアによるお話の会の実施
- ケース児童の見守り
*各機関との連携

指定管理

さくら橋

児童館ブロック 事業目標

- ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。
- ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験。ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。
- ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。
- ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
- ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を担う児童館を目指します。

2010 年度 事業計画 墨田児童会館

記入者 鶴澤 陽

1. 事業計画

	子育て支援活動(乳幼児・親)	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 親と子のふれあう場所の提供をする 2 グループ活動プログラム活動の提供をする 3 子育て情報の提供をする 4 相談活動の実施など 5 一時預かりの実施(試行実施,月～金 午前 予約制) 6 その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1 放課後、安全に生活をできる場所の提供 2 友だちとの関係、交流を広げる 3 遊び、諸活動を通し、生活スキルを得る 4 多様な人々とのふれあいを通し、協調性や社会化を学び促していく 5 他 	<ol style="list-style-type: none"> 1 安全に楽しく遊べる場を提供する 2 地域における異年齢集団形成、体験の提供の場とする 3 学校を超えたグループ形成、友だち作りの場を提供する 4 地域の人々、友だちとの協力を通し、協調性、社会性を育むことを目指す 5 他 	<ol style="list-style-type: none"> 1 自主的な活動の場の提供 2 自立支援の場の提供 3 学校を超えた人間関係、友だち関係の形成と広げる場の提供 4 各種の相談、等 5 他
活動内容行事等	<ol style="list-style-type: none"> 1 子育て中の親と子どもの、自由な居場所の日常的な提供(主に乳幼児室の開放等)。 2 暖かい受け入れを目指す 3 新生児,0～2歳児までの、未就園の乳幼児とその保護者を対象としたグループ活動プログラム等の提供 4 保健士,子育て相談員,看護師等の専門家の協力を得て、相談活動の実現化へ努力する 5 他 	<ol style="list-style-type: none"> 1 安全に楽しくすごせるよう、環境整備し、より良い指導援助を目指す 2 遊びや子どもたちどうしの関係性の発展と深化、および本人自身の主体性自主性と意欲を育む生活をおくれるよう、サポートに努める 3 栄養バランスに気をつけ、子どもにとって楽しいおやつを心がける 4 学童クラブ内で宿題を自主的に行う等の、生活の習慣づけを目指す 5 延長保育 17:00～18:00pm (区規定) 6 他 	<ol style="list-style-type: none"> 1 自由来館者向けの場とプログラムの提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由遊び(館内全体・館庭)、各種スポーツ活動(体育室)、読書・学習等(図書室)、等、他 2 各種の週間行事、月間行事を企画設定する <ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオシアター・映画会、各種検定、各種スポーツ大会、等、他 3 全館的な各種行事を企画設定する <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの日イベント(区規定)、夏まつり、クリスマス、等、他 4 年齢別発達を考慮したグループ活動(クラブ活動)を企画し実施を目指す 5 自然体験行事を計画し実施を目指す 野外キャンプ、農業体験(田植え,稲刈り),雪国体験等 	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の中の中高生に対して、居場所、および自主的な時間を過ごせる場の提供 2 各種スポーツなどを行う場とプログラムの提供(含・スポーツ大会等) 3 音楽活動の場の提供 音楽室における練習、コンサート(ライブ)の開催、グループ形成の促進、等、他 4 思春期における各種の悩みの相談を受けるように努める 5 他

2. 職員構成(予定)

3. 研修

4. その他

<p>施設長(館長)</p> <p>職員(児童厚生員)</p> <p>・ 計 20名 予定</p>	<p>施設内研修</p> <p>事業部門別研修</p> <p>法人研修</p> <p>所属する自治体の研修</p> <p>その他の研修</p>	<p>日曜休日開館の実施(除:館内整理清掃日、行政規定日)</p> <p>学童クラブ</p> <p>□児童館内 本館学童クラブの運営(本館第1、本館第2、の2学童クラブ)</p> <p>□学校内学童クラブ《分室》の運営(第二寺島小分室、隅田小分室)</p>
---	---	--

2010年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

事業目標	<p>児童館事業ブロック</p> <p>1. 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。</p> <p>2. 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。</p> <p>3. 私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。</p> <p>4. 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。</p> <p>5. 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。</p>
------	--

<1>事業計画

児童館名 フレンドリープラザ文花児童館

記入者 山口 修

活動目標	子育て支援活動(乳幼児・親)	幼稚園児を対象とした活動	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中高生を対象とした活動
<p>子育て中のお母さんたちが、子育ての喜びや不安と向き合い、子育てを通してウェルビーイングが達成されることを目指す。</p> <p>そのため、以下の点に留意をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お母さん方が気兼ねなく話をしたり、情報を交換したり友だちつくる場となる。 ○子どもたちの成長を喜び合う場となる。 ○地域に子育ての共助の輪を広げる。 ○子育てに有効な情報を提供する。 ○地域内で利用できるサービスの充実。 	<p>子育て中のお母さんたちが、子育ての喜びや不安と向き合い、子育てを通してウェルビーイングが達成されることを目指す。</p> <p>そのため、以下の点に留意をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お母さん方が気兼ねなく話をしたり、情報を交換したり友だちつくる場となる。 ○子どもたちの成長を喜び合う場となる。 ○地域に子育ての共助の輪を広げる。 ○子育てに有効な情報を提供する。 ○地域内で利用できるサービスの充実。 	<p>幼稚園児の心身の発達を促す諸活動を行う。特に、心身の調節機能を高めるためのカリキュラムや、情操を高めるための音楽活動の導入を念頭に置いた活動を行う。</p> <p>基本的な活動内容は、以下のとおり。</p>	<p>全ての子どもが、楽しく、安全に過ごし、保護者が安心して就労できるように援助する。また、関わる人たちが協力してクラブの活動を創る。</p> <p>そのため、以下の点に留意をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちにとって、家庭に代わる安全な場となる。 ○子どもたちが安心して、楽しく過ごすことのできる場となる。 ○ひとつの集団として、遊び、友達の関係を広げ、生活体験を豊かにする。 ○困難状況にある子ども、家庭に必要な援助を行う。 	<p>子どもたちにとって、居心地のよい環境づくりを土台にしつつ、小学生にとって必要な体験の機会を設け、心身の発達と情操の育ちを支援する。特に、体力の増進と社会性の涵養を促す。</p> <p>そのため、以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが創意工夫できるような活動を運動、文化の両面で展開する。 ○体育室活動を活性化する。 ○役割を通して、社会的有用感を育む。 ○野外活動を積極的に展開する。 ○地域における子ども社会の再生を目指し、縦のつながりを意識した活動を展開する。 	<p>思春期の子どもたちにとって必要である、人格的な交流ができる場を目指す。</p> <p>そのため、以下の点に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健全な余暇活動の実施。 ○中・高校生同士の交流を広げ、進める。 ○自己発揮の機会を作る。 ○ボランティア活動を通して、社会参加の機会を作る。 ○イベント作りなどを通して、協働の機会を作る。 ○読書会などを通して、世界の出来事や歴史を知る機会を作る。
活動の内容・行事等	<p><グループ活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児(パンダクラス)… 毎週火曜日 (参加者に応じて、2クラスに分ける) ・1歳児(うさぎクラス)… 毎週木曜日 ・2・3歳児(こあらクラス) … 毎週金曜日 <p>活動時間…10:30~11:30</p> <p>クラス終了後、13時まで2Fを開放</p> <p><子育てグループの活動支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦を対象にグループ作りと活動を支援する。 … 毎月1回(月曜日) 10:30~11:30 <p><幼児一時預かり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者のレスパイト(休息・息抜き)のために、幼児の一時預かりを行う。 ・対象 1~3歳児 ・受入人数 2名 ・曜日および時間 月~金曜日 午前9時~12時 ・利用者負担 500円/1時間 <p><子育て講座></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間3回 育児の参考となる講演やワークショップを行う。 <p><日常活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児室…安全、衛生面等の環境整備に努る。 ・プレイルーム…お母さん方、子どもたちの交流の場として開放。 <p>時間…10:00~13:00</p> <p>曜日…月曜日</p> <p><年間行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラス遠足 ・運動会 ・劇団公演 ・クリスマス会 ・乳幼児まつり ・子育て講座(年3回) 	<p><設定活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちびっ子… 毎週火・木曜日 午後2時半~3時半 <p>内容:運動遊び、集団遊び、スポーツ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のプログラムはちびっ子の時間に行う。 ・ちびっ子映画会 ・ちびっ子おはなしタイム ・ちびっ子スポーツタイム ・ちびっ子製作タイム ・トランポリン(月1回) <p>・ちびっ子ミュージックタイム… 毎週金曜日 午後2時半~3時半</p> <p><年間行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠足 ・クリスマス会 	<p><定員> 定員第1 50名、第2 30名</p> <p><育成時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常…下校時間~17:00 ・延長…17:00~19:00 ・学校休業日…8:30~ <p><年間行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入会式 ・親子遠足、ハイキング ・お出かけ ・お別れ会 ・誕生会 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お便りの発行(月1回) <p><押上分室>定員</p>	<p><低学年フレンドリークラブ 1・2年生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別、年3期に分けて定例活動(週1回) ・ハイキング、キャンプ、デイキャンプ <p><フレンドリークラブ子ども会議3~6年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動日…毎週水曜日 5:00~6:00 ・スポーツ、お菓子作り、イベントの準備、テーマに沿った話し合い等を行う ・ボランティア活動 ・キャンプ、ハイキング、デイキャンプ <p><スポーツ活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定スポーツ 週4回 ・スポーツ大会 月1回 <p><文化部門></p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画会、工作、手芸、お話の時間、うたの時間 <p><生活クラブ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週土曜日 ・今年度は食と生活に着目し、保護者の参加も積極的に促す。 <p><年間行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日、えんにち、クリスマス、餅つき、ポイントラリー、合宿 	<p><中学生フレンドリークラブ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・19時までは自由来館 ・19時以降 月、木、金 …学習会活動、各種スポーツ ・子ども会議(トーキングタイム) ・お菓子作り ・スポーツ大会 ・合宿 ・体験学習キャンプ ・キャンプ、デイキャンプ、ハイキング等の野外活動 <p>※高校生は、中学生と合同で活動を行う。</p> <p><音楽室活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生のバンド活動の支援 …音楽室の貸出し、機材の整備 ・年2回コンサートの開催

2010年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>児童館ブロック事業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、子どもたちの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちと共に活動を創っていく児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人たちと人格交流ができる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を担う児童館を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、子どもたちが差別や偏見とたたかう力を育む児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きていくための学習や実践を展開する児童館を目指します。 ・私たちは、ノーマライゼーションの考え方に立って、障害を持った人々を積極的に受け入れ、交流を広げていく児童館を目指します。
---	--

児童館名 フレンドリープラザ 外手児童館

記入者 森 裕樹

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 親と子の居場所環境の整備。 ② 子育て中の親子の交流の場の拡大。 ③ 子どもの育ちに配慮したグループ活動の展開。 ④ 子育てに関する情報の提供。 ⑤ 相談窓口として活動の展開。（専門・行政との連携） ⑥ 幼児を中心に家族も楽しめる行事の実施。 ⑦ 子育て中の母親を対象としたプログラムの実施。 ⑧ その他 	<ol style="list-style-type: none"> ① 放課後、安全に生活できる居場所とする。 ② 友達との交流を広げる。 ③ 遊びを通して、心身を鍛えられていく場となる。 ④ 野外活動などを通して、自然体験を深めていく。 ⑤ 諸活動の中で、生活のスキルを体得していく。 ⑥ 多様な人たちとふれあう中で、社会化を促していく。 ⑦ グループ活動を通して、協調性を育む。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域における第3の居場所となる。 ② 地域における異年齢集団形成の場となる。 ③ 活動を通して心身の健康を増進していく。 ④ 地域の人たちや、友達との協力を通して社会性を育てていく。 ⑤ 野外活動を通して自然に親しみ、体験を広げていく。 ⑥ ボランティア活動を通し、『共に生きる』ことを学んでいく。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 中・高校生の余暇活動の場として。 ② 中・高校生の自立を支援する場として。 ③ 中・高校生の人間関係を広げる場として。 ④ 中・高校生の表現活動を展開する場として。 ⑤ 中・高校生のボランティア活動の場として。 ⑥ 中学生の障碍児受け入れ（中高生ルーム）
活動の内容・行事等	<ol style="list-style-type: none"> ① 妊婦（安定期前後で分けて）を対象とした行事を行う。（月1回） ② 子育て中の親と子の居場所として機能するようにする。乳幼児室に玩具・絵本・親用の情報雑誌や子育てのための専門誌を置く。 ③ 新生児0歳から2歳までの乳幼児を対象とした、グループプログラム活動を展開する。 ④ 保健師・子育て相談員の方々と協力を得て、相談活動を行う。 ⑤ 幼稚園児（3～5歳）を対象とした、放課後対策活動を展開する。 ⑥ 光の園保育学校と共催して地域の乳幼児を対象とした出前保育を月1回行う。 ⑦ 区内在住の0～2歳を平日の午前中預かる（ひととき事業） ⑧ お母さんリフレッシュの場を企画。 ⑨ お子さんの計測の場を提供。（すくすく測定） ⑩ 年間行事 <ul style="list-style-type: none"> ・親子えんそく・こどもの日スペシャル ・夏祭り・親子運動会・都民の日スペシャル・ハロウィンパーティー・外手合同クリスマス・親子スポーツ大会・芋煮会・もちつき・他 	<ol style="list-style-type: none"> ① 遊び <ul style="list-style-type: none"> 子どもの自主性と意欲を育むように指導援助する。 ② おやつ <ul style="list-style-type: none"> 栄養のバランス等に気をつける。手作りおやつを多くし、子どもにとって楽しいおやつを心がける。また季節のくだものや風習の食べ物もつけ加える。 出来るだけ3学童のメニューを統一していく。 一週間ごとメニューを連絡帳に貼る。 ③ 延長保育 <ul style="list-style-type: none"> 17:00～18:00（区規定） ④ 年間行事 <ul style="list-style-type: none"> 誕生会（月1回）・買い物おやつ（月1回）・手作りおやつ・工作・手芸・野外活動・クリスマス・長寿会参加（二葉）・他 ⑤ 二葉・業平分室は本館学童と異なるため、その部屋にあう玩具類を整備する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 日常の活動 <ul style="list-style-type: none"> スポーツ活動（体育室）、学習や読書及び創作活動（図書室） ② グループ・スポーツ活動 <ul style="list-style-type: none"> ドッジボール、ユニホック、キックベース、インドアサッカー、ポートボール、他 ③ 週間行事 <ul style="list-style-type: none"> 一輪車検定、ビデオシアター、パターボーリング、竹馬検定、レクタイム（低・高）、他 ④ 月間行事 <ul style="list-style-type: none"> 映画会、各種スポーツ大会、読み聞かせ、手作り教室、手芸教室、工作教室、パン作り外手農園他 ⑤ 学年別グループ活動（行政名称クラブ活動） <ul style="list-style-type: none"> 1. 2. 3年及び高学年（4～6年）の4クラブ（週1回） ⑥ 年間行事 <ul style="list-style-type: none"> 一年生歓迎会、子どもの日SP・夏祭り・野外活動・都民の日SP・赤い羽根共同募金（街頭）・オーバーナイトハイク・ハロウィン・ユニセフハウス・クリスマス・ミニ縁日・合宿、七福神めぐり（高学年サイクリング）田植え・稲刈り体験その他 	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域の中の中高生の居場所として機能するようにする。夜間開館する。 ② スポーツを中心とした活動 <ul style="list-style-type: none"> ドッジボール、バレーボール、バドミントン、卓球、サッカー、ゴルフ、他 ③ ボランティア活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> 児童館事業にボランティアとして参加 ④ 各種のスポーツ大会の実施（屋内） ⑤ 軟式野球大会の実施（年3回） ⑥ 中学生クラブ、高校生クラブ活動の実施 ⑦ 月間行事 <ul style="list-style-type: none"> 映画会、クッキング、定例会、他 ⑧ 年間行事 <ul style="list-style-type: none"> 夏祭り、キャンプ、合宿、ハイキング、サイクリング、他

< 2 > 職員構成

- ・ 館長
- ・ 主任
- ・ 児童厚生員

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

- (1) 日曜・休日開館の実施
- (2) 学童クラブ分室の運営（家庭センター・業平分室）
- (3) 相談事業開設（専門機関との連携）
- (4) 中学生障碍児学童受け入れ事業

指定管理

外手

児童館ブロック事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、子どもたちの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
-------------	--

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<p>○子育てをしている親同士の憩いと交流の場を設け、子育ての喜びや楽しさを共に分かち合える環境作りを目指す。</p> <p>○子育て講演会など育児に関わる知識を得る機会を積極的に設けると同時に、保護者の育児に対する悩みや不安を気軽に話してもらえりような雰囲気を作っていく。</p> <p>○乳幼児とのふれあいの時間を楽しく過ごせるようなプログラムやイベントを考案し、随時実施していく。</p> <p>○児童館から地域に出向き、児童館の活動をお知らせ出来る工夫をする。</p>	<p>○子ども達にとって家庭と同じように、安全かつ安らかな気持ちで過ごせるような居場所作りを目指す。</p> <p>○それぞれ年齢が異なる集団の中での生活や遊びを通じて、人間関係を前向きに築いていこうとする意欲や社会性、他人を思いやる心を育てていく。</p> <p>○保護者との連絡を密に取り、子ども達のクラブ内での生活の様子を積極的に伝え、親子関係の発展や家庭における育児機能の維持と向上をサポートする。</p>	<p>○地域に住む子ども達が自由に遊びに来れる安全な居場所作りを目指す。</p> <p>○毎日の遊びや人間関係の中で起こる様々な経験を通じて、子ども達の心身の成長を支えていく。</p> <p>○子ども達が自分の気持ちを気軽に打ち明けられ、日々を楽しく過ごせる支えとなるための信頼関係を築く。</p> <p>○同世代のみならず、様々な立場や年齢層の人々と交わることで、視野をひろげられる様に様々な体験をする。</p>	<p>○中・高校生が放課後の時間を健全に過ごせる余暇活動の場とする。</p> <p>○勉強や進路相談、人間関係の悩みなどについても親身になって対応し、共に考えながらも本人が自ら結論を選べるような関わりを作っていく。</p>
活動の内容	<p>乳幼児・年齢別グループ活動</p> <p>☆0歳児 （ぼんだ・いちご） 毎週火曜 10:15～11:00 （ぼんだ・りんご） 毎週火曜 10:30～11:15</p> <p>☆1歳児（うさぎ） 毎週木曜 前半 10:00～10:45 後半 11:00～11:45</p> <p>☆2歳児（こあら） 毎週金曜 前半 10:00～10:45 後半 11:00～11:45</p> <p>☆3歳児（りす） 毎週月曜 10:00～10:45</p> <p>※クラス終了後は14時頃まで集会室開放。</p>	<p>(定員) 109名 (1クラス・69名・2クラス・40名)</p> <p>(育成時間) 通常 : 下校時～17:00 延長～18:00 学校休校日: 8:30～17:00 延長～18:00</p> <p>(通常の流れ) 入室→宿題→遊び→おやつ→休憩→あそび→帰りの会・帰宅(延長保育)</p> <p>(あそび) けん玉・こま・わなげなどの昔遊びをはじめ、育成室ではおままごと・レゴブロック・粘土遊び・お絵かき・読書・工作・パズルゲームなどが自由に遊べるよう、それらの器具が室内に常時設置。 また併設されている児童館の設備や遊具を使用し、上記の遊びに加えて各種スポーツや車輪車・ボードゲームなども楽しめるよう設定している。</p>	<p>月間活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手芸タイム ・わなげ大会 ・一輪車検定 ・おはなし会 ・ビデオシアター ・出前保育 ・手づくり工作 ・映画会 ・スポーツ大会 ・避難訓練 ・レッツダンス <p>週間活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツタイム (5つの種目を日替わりで展開) ・1年生組織活動 (1年生スマイルクラブ) ・2・3年生組織活動 (2・3年生スマイルクラブ) ・高学年組織活動 (高学年スマイルクラブ) <p>年間行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日スペシャル(地域めぐりラリー) ・相撲大会 ・夏まつり ・キャンプ(2～6年生) ・オーバーナイトハイキング ・秋まつり ・いもほり遠足(低学年) ・1年生合宿(1年生) ・おでかけ合宿(高学年) ・クリスマス会 ・冬まつり ・雲柱社交流ドッジフェスタ ・深川北部ドッジボール大会(低学年) ・国際交流まつり(年3回) 	<p>日常利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館時間 月曜日～土曜日 9:00～19:00 第1・3・5日曜日 9:00～18:00 ・中高生専用時間(中高生タイム) 18:00～19:00 <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会 ・お菓子作り ・手芸教室 ・体験学習キャンプ ・クリスマスパーティー ・木工工作 ・ <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビリヤードセットの設置 ・ダーツの設置 ・おたよりの発行 (月1回)
行事等	<p>一般利用</p> <p>○遊戯室の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも利用できる乳幼児専用の部屋 乳児専用スペースもあり。 ・安心して利用できるように、飲食・授乳・おむつ交換・午睡等ができる場所も確保。 <p>○集会室の開放(プレイルーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の9:00～13:00に設定。 ・遊具や巧技台を使って、親子で自由に遊べる時間。 <p>○育成室の開放(プレイルームひよこ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、月曜日の11:00～12:00に設定。 ・マタニティママ・0歳児とその保護者の憩いと交流の場。 <p>○出前保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、11:00～11:45に実施。 ・児童館前の公園(清澄児童遊園)にて、主に乳幼児親子対象のプログラムを展開する。加えて様々な地域住民の参加や、民生委員の協力も募る。 ・子育てプログラムの機能や効果をより多くの親子に体験してもらうと共に、親子と地域住民が良い関係を築くことで、育児や保育に対する地域の理解を高める場とする。 ・近隣の保育園とのコラボレーションの場を設ける <p>年間行事・運動会 ・遠足 ・子育て講座 ・ママトーク ・こどもの日フェスタ ・子ども服サイクル ・ベビーオイル ・パパの会・夏まつり ・秋まつり ・クリスマス会 ・冬まつり</p>	<p>(行事) 入会式・館内合宿・クッキング・遠足(年2回)・ハロウィンパーティー・水遊び・クリスマス会・節分・深川北部ドッジボール大会・お別れ遠足</p> <p>(毎月のプログラム) 誕生日会・キングコンテスト(ゲーム会)・おたのしみおやつ・手づくりおやつ・避難訓練</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規入会児童対象説明会 (3月) ・保護者会 (5月・7月・3月) ・個人面談 (11月～12月) ・クラブだより (毎月1回発行) ・父母会主催の交流会 (年2回) 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おたよりの発行 (月1回) 	

< 2 > 職員構成

- ・館長
- ・リーダー
- ・児童厚生員

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

2010年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

児童館ブロック	<ul style="list-style-type: none"> 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験。ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> 私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を担う児童館を目指します。 	

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> 子育て中のお母さんと乳幼児が、家から出て気分転換できる場としていく。 子育て中の親同士の交流の場となり、仲間作りの場となっていくように年齢に応じた活動を展開していく。 子育ての悩み、不安が気軽に言える場となるように子育て相談、講演などと地域の公共機関などと協力して展開していく。 子育ての息抜きとなり、また楽しくしていくために、様々なニーズにあったイベントを展開していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後並びに学校休業日、保護者が就労その他の理由でいない家庭の児童を対象に、生活の安全と楽しい遊び、様々な体験の場を提供し、その発達を支援する。基本的に、江東区条例に沿って事業を行う。 保護者と協力し、円滑なクラブ運営を行い、子供たちの成長発達に必要な支援をしていく。 地域の人との交流や協力により、地域に根ざした学童クラブを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のこどもたちが自由に来られる居場所となる。 遊びを通して心身の成長が促される場となる。 異年齢児との関わりの中で社会力が培われる場となる。 スポーツなどを通して基礎的な体力向上を図り、身体を動かすことを楽しむ場となる。 表現活動や創作活動を楽しむ場となる。 すぐれた児童文化財に触れる場となる。 イベントを創り上げる過程を通して協調性を養い達成感を味わう場となる。 自然体験、ボランティア活動などを体験して、社会とのつながりを持つ場となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭とは異なった居場所、親しい仲間との交流、社会参加や多様な体験の場としていく。 親や教師とは異なった職員(意味ある他者)との協働によって活動を展開していく。 趣味やスポーツ、ボランティアを通して自己実現を図る。 中学生(高校生)たちが持つ諸問題に誠実に対応していく場とする。 学校や地域と連携し、子どもたちの成長を共に見守る。

活動の内容・行事等	乳幼児・親	学童クラブ	小学生	中・高校生
	<p>年齢別クラス活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 0歳児低月齢クラス（赤ちゃんばんだクラス） 毎週金曜日 10:00～10:45 0歳児高月齢クラス（ばんだクラス） 毎週金曜日 11:00～11:45 1歳児クラス（うさぎクラス） 毎週火曜日 10:00～10:45 11:00～11:45 2歳児クラス（こあらクラス） 毎週木曜日 10:30～11:30 3歳児クラス（りすクラス） 毎週月曜日 10:30～11:30 <p>その他 あそび場、プレイルーム、パパと遊ぼう、幼稚園児対象定例活動、幼児夏期特別活動 等</p> <p>年間行事 こどもの日は児童館で遊ぼう、子供服リサイクル、なつまつり、子育て講座、リフレッシュ企画、親子日帰り外出、乳幼児運動会、劇団公演、クリスマス会、ふれあいまつり、夏休み特別活動（プール遊び等）</p>	<p>育成時間</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常時間 学校終了後～17:00 延長育成 17:00～18:00 学校休業日（振休、長期学校休業期間、等） 8:30～18:00（必要に応じ8:00～） <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常活動 下校～学習～おやつ～自由遊び、クラブのプログラムや児童館の活動に参加～お帰りの会～延長育成 <p>年間行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 入会式、入会進級お祝い会、春・夏の交通安全運動、交通安全教室、おもしろおやつ（買い物体験、魚釣り、宝探し、ハロウィン、節分、他）、季節の製作（こどもの日、七夕、敬老の日、勤労感謝の日、他）、亀戸レストラン（昼食会）、観劇会、遠足、引き渡し訓練、クリスマス会、大掃除、お別れ会、思い出文集作り、地域の施設訪問、乳幼児との交流、児童館行事への参加・協力 <p>月例行事</p> <ul style="list-style-type: none"> お誕生会、大型布芝居制作、防災訓練、公園遊び 	<p>児童館の施設利用</p> <p>利用時間 午前9:00～午後5:30（冬期5:00まで）</p> <p>1階ホール（図書コーナー、バンパー、テーブルゲーム、等） 2階 乳幼児室、集会室（卓球、バドミントン、バスケット、ユニホック、ボール遊び、等） 玄関前（縄跳び、ほっこり等の遊びのスペース）</p> <p>学年別グループ活動『かめっ子』 グループ活動を通して遊ぶ、学ぶ、ボランティアを活動目標に、スタッフと地域を超えた子どもたちの交流。</p> <p>かめっ子12年生 毎週金曜日 3:30～4:30 かめっ子34年生 毎週木曜日 4:30～5:30 かめっ子56年生 毎週火曜日 5:00～6:00</p> <p>日常プログラム（週間、月間プログラム） 設定スポーツ、ビデオシアター、一輪車タイム、手作りタイム、卓球クラブ、お話の会、スポーツ大会、バンパー大会、輪投げ大会、お菓子作り、手芸タイム</p> <p>年間行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生歓迎会、こどもの日は児童館で遊ぼう、江東こどもまつり、なつまつり、亀戸地区まつり、交流フェスタ、クリスマス会、交流ドッジフェスタ、ふゆまつり、日帰り外出、館内合宿、キャンプ、等 その他 地域清掃、エコキャップ収集、使用済み古切手収集、募金活動 	<p>日常活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動時間 通常は5:30～7:00 小学生活動棲み分けを行う 利用時間 月曜日～土曜日 午後5:30～7:00 日曜日 午後5:00～6:00 <ul style="list-style-type: none"> 児童館の施設を利用してスポーツ（卓球、バスケット、バドミントン）、読書、バンパー、娯楽玩具（UNO、トランプ、ドミノ、ジェンガ、ボードゲーム、他）、ビデオ等で過ごせるようにしていく その他 ・中学生（高校生）たちの自主活動を積極的に支援（場所提供、用具、その他）していく。 ・自然体験、ボランティア活動、野外活動や体験学習キャンプ（夏期に障害者施設にてボランティアを兼ねて体験学習キャンプ、じ土管活動のサポート、支援等いろいろな体験をする。 ・中学生（高校生）の意見を聞いて音楽鑑賞、学習支援、手作り教室、手芸教室、館内合宿、サイクリング、クリスマス会を開催したり、バンパー大会、ドミノ大会等を企画運営していく。 クッキング、TVゲーム大会や他館との合同行事に参加したり、スポーツ交流を深めて地域を越えた活動にも取り組んでいく。

児童館名 亀戸児童館

記入者 永澤 和男

< 2 > 職員構成

- 館長
- リーダー
- 児童厚生員 計 7名

< 3 > 研修

- 施設内研修
- 児童館ブロック研修
- 法人研修
- 所属する自治体の研修
- その他の研修

< 4 > その他

指定管理 亀戸

2010年度 児童館ブロック事業計画

<p>児童館ブロック事業目標</p> <p>1 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。</p> <p>2 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事等への参加を通して社会力を培う児童館を目指します。</p> <p>3 私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。</p>	<p>4 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。</p> <p>5 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見にたち向かう力を育む児童館を目指します。</p>
--	---

児童館名 汐入ふれあい館
 記入者 伊藤 美智子

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動 (乳幼児・親)	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動	成人を対象とした活動	貸 館
活 動 目 標	地域で乳幼児を育てているお母さんたちが集い、交流し子どもとの関わりを楽しみ子育ての情報交換や悩みを相談できる場と活動を提供して子育て支援をしていく。	*家庭に代わり安全で安心して過ごせる居場所となる。 *友達との交流 遊び、集団での活動を通し、社会性を育てていく。 *いろいろな活動に取り組み生活経験を豊かにしていく。 *保護者が安心して働けるような対応をしていく。	学校とは異なる環境で異年齢の交流を大切にしつつ遊びやグループ活動を通して、子どもの生きる力や社会性を培っていく。	学校や家庭とは異なった他者との関係を広げながら、その関わりの中で自立への力を積み重ねるようにしていく。	*大人の方の居場所・交流の拠点としてのプログラムを企画展開していく。 *生活を豊かにし、楽しめる活動を提供していく。 *日常の生活の中で自然に子どもと関わったり、行事等を共に行ったりして、子どもたちとの交流を促進していく。	地域の方の自主的な活動の拠点を提供する。
活 動 の 内 容 ・ 行 事 等	<p>クラス活動</p> <p>0歳児 毎月曜日 こぼんだクラス 10:15~10:45 ぼんだクラス 11:15~11:45</p> <p>1歳児 毎火曜日 こうさぎクラス 10:10~10:50 うさぎクラス 11:10~11:50</p> <p>2歳児 りす・こあらクラス 毎木・金曜日 10:30~11:30</p> <p>3歳児 ひつじクラス 毎水曜日 14:00~14:45</p> <p>4、5歳児 きりんクラス 毎木曜日 15:00~15:45</p> <p>子育て講座： 救急法 離乳食 ベビーマッサージ 講演会 パパも遊ぼう、じいじばあばも遊ぼう： 焼き芋会 運動会 観劇 遠足 ハロウィン クリスマス お母さんの為の映画会：月1回託児付き リフレッシュママ：手芸等 プレイルーム 20時まで開放 体育室に玩具 13時まで開放 子ども服リサイクル：隔月 子育てひろば事業：相談等 育児相談：保健所共催 月2回 おひさま広場：公園での紙芝居等 夏祭り、ふれあい祭り</p>	<p>行事</p> <p>新入会者歓迎会 お出かけ 夏祭り ドッジボール大会 合宿 ハロウィンパーティ クリスマス会 交流遠足</p> <p>毎月： 誕生会 お店やさん (おやつ)</p> <p>日常活動： 手芸 製作 ゲーム 読書 宿題等</p> <p>手作りおやつ：1ヶ月に数回</p> <p>毎月発行： 学童クラブ便り おやつ献立表</p> <p>親子交流会： 年2回程度</p> <p>保護者会： 年4回</p> <p>個人面談： 年1回 他随時受ける。</p> <p>汐入小、七峡小学童クラブとの交流</p>	<p>多目的室</p> <p>設定スポーツ：ドッジボール バスケット サッカー タスケ キックベース等 自由遊び：一輪車 縄跳び等 一年生タイム：ドッジ レク</p> <p>創作室</p> <p>自由工作 折り紙タイム 絵手紙タイム 絵手紙教室 (講師)</p> <p>木工 木工道 (木工製作) 手作りタイム 手芸タイム</p> <p>図書室</p> <p>お話し会：素喃 パネルシアター 読み聞かせ</p> <p>料理タイム 手話と歌</p> <p>サロン</p> <p>囲碁 オセロ等のゲーム 雑誌</p> <p>和室</p> <p>映画会 合宿</p> <p>年間行事</p> <p>お出かけ キャンプ 夏祭り クリスマス ふれあい祭り ソルティークラブ 高学年クラブ活動：スポーツ 料理 ボランティア 合宿等</p>	<p>中学生タイム</p> <p>多目的室</p> <p>月～土曜 18～18時45分 バスケット 卓球 3on3 野球等 設定スポーツ大会</p> <p>水曜日 17～18時45分 土曜日 17～18時 高学年と合同</p> <p>サロン</p> <p>月～日曜日 18～19時 バスケットピンポン 雑誌 ダーツ ゲーム類 手芸等</p> <p>図書室</p> <p>不定期 おやつ作り 交流 毎日 17～18時 学習タイム</p> <p>行事</p> <p>クリスマス会 新年会 合宿 体験学習キャンプ 他館合同スポーツ大会 夏祭り ふれあい祭り</p>	<p>多目的室</p> <p>大人のスポーツタイム 火曜日 14～15時 卓球 バドミントン等 親子のスポーツタイム 金曜日 19～21時 卓球 ドッジボール等 健康体操 火曜日 13～14時 体操 ストレッチ等</p> <p>サロン</p> <p>手芸 手作り 毎月2回 パソコン教室 毎月4回コース マッサージ機 ヘルストロン 雑誌 大型テレビ 血圧計</p> <p>和室</p> <p>カラオケ 金曜日 13～15時 映画会 第1・3金曜日 13時～ ふれあい寄席：5月 落語家2名 老人クラブ3団体 サークル1 踊り カラオケ わなげ等 毎日 和室 図書室にて活動。 ころばん体操 多目的室 毎金曜日 13～15時 お出かけ 年3回 食事会 毎月1回 夏祭り、ふれあい祭り 成人向けお知らせ作成、配布</p>	<p>平日 19～22時 日祝日 9～22時</p> <p>図書室 創作室 和室 多目的室 の貸し出し業務と 還付業務を行う。</p> <p>使用料は荒川区に 提出。</p> <p>館の備品の貸出 協力。</p>

< 2 > 職員構成

- ・ 館長
- ・ リーダー
- ・ 児童厚生員

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

- ・ 年末、年始以外は全日 8:30～22:00 の開館。
- ・ 0歳児からお年寄りまで 全世代に対応して活動。
- ・ 学童クラブ室
 - * 汐入学童クラブ 定員 100名
 - * 汐入小学童クラブ 定員 100名
障がい児受入8名
 - * 七峡小学童クラブ 定員 60名
- 荒川区は待機児を出さない方針で申請があれば定員を超えても受け入れていく予定。

2010年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。</p> <p>児童館ブロック事業目標</p> <p>・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通じて社会力を培う児童館を目指します。</p> <p>・私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。</p>	<p>・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。</p> <p>・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。</p>
--	---

児童館名
 狛江市立岩戸児童センター
 記入者 日下 美恵子

< 1 > 事業計画

	子育てひろば事業	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と保護者の安心した居場所となる。 ・保護者が保護者同士や異世代間の交流を持ち、視野を広げる場となる。 ・地域に存在する子ども家庭支援システムと、有機的な協体制を構築し、ソーシャルワークの視点に立つ相談、支援サービス実施する。 ・支援センターとして関係機関とのネットワークを形成し、虐待の予防・防止対策に取り組んでいく。 ・利用者との関わりや、相談事業を充実させる (お母さんの自主プログラム実施、グループ懇談や参加型講座) 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな生活背景を持つ子どもを受け止めながら、児童が安心して過ごせる場所となる。 ・自由な遊びの時間を通じて児童の心と体の成長を促す。 ・学習の場を設け、声かけとともに宿題などのサポートをする。 ・児童と児童、児童と職員間の交流を通じて人格の交流をもつ。 ・児童センターとの併設を活かし、異年齢集団での人間関係を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由来館児童を積極的に受け入れる。 ・日常活動を大切に、地域の子どもの居場所となるよう丁寧な受け入れをする。 ・児童センターを中心とした異年齢、異世代間の交流をはかる。 ・スポーツ・児童文化等に親しむ場、生活スキルを学ぶ場となる。 ・地域交流活動を積極的に取り入れ、地域に根差した児童館を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生来館を積極的に受け入れる。 ・中高生ボランティア活動の促進 社会参加の場となる。 ・近隣中学の職場体験を受け入れる。 ・スポーツ活動の推進をする。
活動の内容・行事等	子育て相談事業 プレイルーム開放 9:00~18:00 つどいの場提供事業 ・よちよちクラブ(1才親子活動) ・とっこクラブ(2才親子活動) ・ねんね赤ちゃんプレイルーム ・わんぱくプレイルーム 子育て啓発事業 ・たんぼぼカレッジ~テーマに沿った親向け講座~ ・Nobody's Perfect~市担当課との共催事業~ その他併設する子ども家庭支援センターとの共催事業	<ul style="list-style-type: none"> ・班活動を通じての生活体験 ・学童児独自の活動実施 (誕生日会、遠足、料理など) ・親子参加の活動や保護者向け活動 親子交流会、保護者会 行事の保護者ボランティア募集 定員 概ね50名(実情52名) 内障がい児 7名 育成時間 通常下校時~19:00 休校日 8:30~19:00 延長保育 19:00~20:00 対象 小学1年生~6年生	《日常プログラム》 スポーツタイム スポーツ大会 卓球教室 映画会 おはなし会 アトリエタイム 工作タイム 料理タイム 折り紙教室 スタッフタイム 夏休みプログラム 《組織活動》 ・1年生ロッキークラブ ・2、3年生ロッキークラブ ・高学年ロッキークラブ 《行事》 1年生歓迎会 高学年デイキャンプ センター合宿 えんにち サマーキャンプ 家族キャンプ オーバーナイトハイク ファミリースポーツデー 冬まつり ドッジフェスタ 交流フェスタ	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生スポーツタイム (月~土曜日18:00~19:00) ・中高生スペシャルタイム(月1回) ※スポーツやお菓子作りなど ・オーバーナイトハイク
重点	全体業務・行事 図書室開放、図書貸出、縁日、餅つき、ハロウィン、クリスマス、音楽会、たんぼぼ・ロッキーマーケット、他			

< 2 > 職員構成

- ・センター長
- ・主任
- ・子ども家庭支援センター担当職員
- ・学童クラブ担当職員
- ・児童館担当職員

< 3 > 研修

- ・職場内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・外部研修

< 4 > その他

2010年（平成22年度）事業計画書

施設名 狛江市子ども家庭支援センター
 記入者 日下 美恵子

指定管理

岩戸

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1. 子ども虐待防止対策事業 ○虐待通告・相談の窓口：市担当課と共に第一の窓口を担う。必要に応じて情報収集し、協議のうえ、関係機関を召集・サービス提供・指導・訪問などを適宜行う。 ○見守りサポート事業：児童相談所と連携し、虐待家庭等に対して、訪問・サービスの活用等の支援を行う。 ○虐待防止支援訪問事業：健康支援課・保健所等の関係機関と連携し、虐待等を未然に防止するため訪問等を行う。 ○育児支援ヘルパー事業：要支援家庭のための産前・産後支援ヘルパー派遣 ○在宅サービス基盤整備事業：養育家庭の普及に努め、体験発表会等を開催する</p> <p>2. 地域組織化事業 ○ねんね赤ちゃんプレイルーム・はいはいクラブ・よちよちクラブ・とっこクラブ ○たんぼぼカレッジ ～毎月1回テーマに沿った講座（ことば・幼児食・小児科医など）～ ○Nobody's perfect ～市担当課との共催事業 年間3クール実施～ ○出張「あそびのひろば」～市内の学童保育所午前開放事業への出張（身長・体重測定、育児相談、体操など） ○出張「子ども家庭支援センター」～市内の地域センターへ定期的に出張～ ○すくすく測定・わくわくwork・子ども服リサイクル ○季節の行事（えんにち・いもほり・ハロウィン・クリスマス・音楽会・春祭り）</p> <p>3. 子育て相談事業 ○ひろば相談 ○面接相談 ○電話相談 ○FAX・メール相談 ○専門相談（発達） ○あいとびあ出張育児相談（健康支援課による測定、保健師・助産師・栄養士・歯科衛生士による相談）</p> <p>4. サービス提供事業 ○一時保育 ○ショートステイ ○育児支援ヘルパー</p> <p>5. 情報提供 ○地域子育て情報の提供 ○ホームページでの情報発信 ○リサイクル情報 ○たんぼぼ通信 ○意見箱設置・センターからの返答掲示板 ○利用者同士のおすすめ情報掲示板</p> <p>6. ネットワーク・人材育成 ○各専門機関の担当者との連携強化 ○母親学級や3・4ヶ月健診などへの出張 ○運営協議会開催 ○近隣小学校・中学校へのボランティアの募集 ○スーパービジョン会議</p>	<p>事業目標</p>	<p>目 標 <共に生きる・共に育てる></p> <p>1 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実によって事業を行います。 2 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します。 5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。</p>
<p>ネットワーク事業の展</p>	<p>○児童相談を担う機関として、地域における子ども家庭支援システムと協力体制を構築し、ケースマネジメント手法により、子どもと家庭の問題に適切に対応する。</p> <p>○子育て相談、虐待に関する相談・通告等に対して、市担当課との密な連携の下、役割分担・連絡調整を明確化し、必要に応じて関係機関を召集して個別ケア会議を行う。</p> <p>○狛江市子ども家庭支援ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）において、調整機関である市担当課と共に、各会議の企画・準備・開催や子ども虐待防止対策事業等、支援センターの役割を果たす。</p>	<p>方針・展開</p>	<p>1 ひろば事業 ・乳児と幼児がそれぞれ安全に過ごせるような環境を設定し、来館する親子が安心して過ごせる居場所となるようにスタッフが配慮していく。 ・センター内のひろば活動だけでなく、市内の遊びの広場や地域センターなどへの出張ひろばを展開し、センターの広報活動を充実させる。また、遠くてセンターまで来所できない家庭とのつながりをつくっていく。 ・近隣小学校・中学校保護者のママさん保育ボランティアをはじめ、手づくりおもちゃグループなどのボランティア活動を定着・拡大させていくとともに、利用者の中からも趣味や特技を活かしたプログラムの企画を実現していく。</p> <p>2 相談事業 ・スーパービジョン会議には、非常勤職員も出席し、先駆ケースだけでなく、ひろばや電話相談などでの対応が難しいケースもスーパービジョンを受けていく。 ・3・4ヶ月健診への出張事業や必要に応じて新生児訪問に同行するなど、保健師・助産師との連携を強化し、相談やサービス提供に繋げていく。</p> <p>3 サービス事業 ・センターまで申請に来所できない家庭、または今後センターの支援が必要とされる家庭に対しては、センター職員が訪問をして申請書類を記入してもらうなど、きめ細かい配慮をしていく。また、受け入れ先の保育ママやヘルパー、児童養護施設などとの連携を強化し、利用前後のフォローを心掛ける。</p> <p>4 先駆型子ども家庭支援センター事業 ・狛江市子ども家庭支援ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）において、関係機関と日常的に「顔の見える」連携のもと、虐待対応に努める。 ・虐待防止対策において、市担当課と協同のもと、通年を通して「オレンジリボン」の普及・啓発活動に工夫した取組を行う。併設の岩戸児童センター高学年組織活動時に作成した、貼り絵のオレンジリボンポスターを、通年を通して市内関係機関にリレー方式で掲示する。また、職場体験の中学生や児童センター利用時と共に作成した手づくりオレンジリボンを配付する等、普及啓発活動に努める。 ・在宅サービス整備基盤整備事業において、養育家庭体験発表会のみならず、関係機関に向けた学習会の開催・里親月間時の啓発活動等にも力を入れていく。</p>
<p>環境整備</p>	<p>1 明るく清潔で、来館した親子が安心して過ごせるような環境づくりを心掛ける。</p> <p>2 0から3歳の子ども達が、好きな遊びを見つけて、十分に楽しめるような環境設定をしていく。</p> <p>3 ボランティアや利用者参加による環境整備の充実（フェルトの手づくりおもちゃ・遊具の消毒など）</p> <p>4 玩具・絵本・大人向け図書の充実</p> <p>5 赤ちゃんコーナー・授乳コーナーの環境整備や充実</p> <p>6 館庭の遊具の取替え</p>	<p>職員構成</p>	<p>センター長 1名 支援ワーカー 2名 非常勤支援ワーカー 1名 専門相談員（子ども家庭支援ワーカーが兼務） 2名 地域活動ワーカー 1名 虐待対策ワーカー 1名 スーパーバイザー（子どもの虐待防止センター）</p> <p>主な研修</p> <p>○職場内研修 ○法人主催研修（経験年数別・ブロック別・次世代育成） ○東京都子ども家庭支援センター自主研究会 ○子どもの虐待防止センター主催研修会 ○東京都主催研修各種 ○東京都精神福祉保健センター研修 ○子育てセンター実践研究会実践交流セミナー ○こころの健康財団精神保健講座</p>

2010年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

〈1〉 事業計画

	ファミリー・サポートセンター事業	子育て支援活動	小学生クラブ(学童)	小学生を対象とした活動	中高生を対象とした活動
活動目標	市民が主体的に行う一時保育などの育児に関する相互活動。その活動を支援することにより、市民が仕事と育児を両立する環境を整備するとともに、地域の子育て支援を行い、市民の福祉の増進、および児童の福祉の向上を図ることを目的とする	<ul style="list-style-type: none"> お母さん同士の交流の場に、 子供同士の成長を喜び合い場に 子供たちが生き生きと遊べる場に お母さんがホッとできる場に 	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親や障害児などさまざまなハンディキャップを持つ子供と親を受け止めながら、児童が安心して過ごせる場所となる。 自由な遊びの時間を通じて児童の心と体の成長を促す。 児童と職員間の交流を通じて人格交流をもつ。 併設型を活かして、異年齢集団での人間関係を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の子どもたちの健全育成の場として 利用児童を積極的に受け入れる。 スポーツ・児童文化などに親しむ場。生活スキルを学ぶ場となる。 グループ活動の開催 イベント毎の準備のためのボランティアの参加と振り返りとしての思い出会 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生を積極的に受け入れ、自主的活動を促していく。 ボランティアを中心とした活動へのサポート。 ボランティアとして、積極的受け入れと育成
活動内容・行事等	・サポート会員と援助会員のそれぞれの募集、説明会	・グループ活動	・入室式	●グループ活動	・1年生歓迎会
	・会員の登録、	0歳 こぼんだ	・歓迎会	1年	・入学前新1年生歓迎会
	・会員の啓発	0歳 ぼんだ	・館内合宿	2・3年	・デイキャンプ
	・会員の援助活動の調整	1歳 こうさぎ	・親子との昼食会	高学年	・低学年
	・サポート会員の講習	1歳 うさぎ	・誕生会	パークッション	・高学年タイム
	・会員同士の交流会	2・3歳 こあら	・手作りおやつ	陶芸教室	・アニメ会
	・会員のトラブルへの助言	・講師	・昼食会	折り紙教室	・検定
	・通信を発行すること	○リトミック	・デイキャンプ	チームD	(コマ・竹馬・けん玉・1輪車)
	・ステップアップ交流	○折り紙教室	・懇談会年3回	1年生学習会	・スポーツ大会
	・小金井・小平ファミサポ連絡会	○栄養士会によるゼミナール	・個人面談	ドッチフェスタ	・昼食会
	・近隣ファミサポとの連絡会	○ベビーオイルマッサージ	・アンケート		・おやつづくり
	・保育体験講習開催	○わらべ歌と読み聞かせ	・説明会		・館内合宿 低・高
	・個人情報取扱の講習出席	○お母さんのクリスマスハンドベル隊	・買い物おやつ		・野外キャンプ 低・高
	・アドバイザーの後継者の育成	○お母さんの手作りタイム	・晩御飯	●狛江市地域振興課委託合同行事	
		○お母さんのランチ会	・お別れ遠足		・川口町キャンプ
		・むいから民家園への遠足	・新入生面談		
		・わんぱくタイム		●児童館B合同行事	
		・人形劇			・代々木フェスタ
	・運動会			・ドッチフェスタ	
	・相談員の配置			・あさひ体験学習キャンプ	
	・親子のコンサート				
	ファミリーデイ(子育て体験ボランティア)				
	お母さんの 託児つき企画				
	クリスマス会	クリスマス会	クリスマス会		クリスマス会
					バザー
					焼き芋
					流しそうめん
					餅つき

児童館名 狛江市立 和泉児童館
施設長名 植松牧人

〈2〉 職員構成

- ・館長
- ・児童厚生員
- ・リーダー

〈3〉 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・専門的な外部の研修

2010年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

<p>児童館ブロック</p> <p>事業目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 <ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。
----------------------------	---

児童館名 たまだいら児童館ふれっしゅ

記入者 内堀 浩幸

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動 (乳幼児・親)	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> □ 乳幼児と保護者 (妊婦含む) が安心して過ごすことのできる居場所となる。 □ 出会いの場、交流の場となる □ 地域との連携・協働を通しての「子育て支援」と「子育て支援」の実施 	/	<ul style="list-style-type: none"> □ 多くの他者との出会い・交流を通し子どもたち一人ひとりが感じ、考え、実行することのできる活動を目指す。 □ 子どもたちが平和を創り出す力を育む活動とする。 □ ボランティア活動を通し「受ける喜びよりも与える喜びを」の実践を目指す。 <p>【居場所として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇利用しやすい環境の整備 <p>【共に創る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇労作 (米作り) 体験の実施 ◇クリスマス活動 	<p>(子ども達の心の糧となる活動を目指す)</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 出会いの場、交流の場、自己表現の場として □ 中学生、高校生と職員の交流の充実 □ 居場所としての機能の充実 <p>【居場所として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇事業内容の充実 ◇職員との交流の充実 <p>【共に創る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇中、高生活動行事への参加、企画、運営 ◇ボランティアとして <p>※日々の交流の充実を図りそこから彼らと共に活動という一つの形を創りあげていく。</p>
活動の内容・行事等	<p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 月 1 回の定員登録制年齢別 (0、1、2 歳) クラス活動を実施し、居場所として、交流の場として機能していく。※1 歳児のみ 2 クラス ◆ 月 1 回の年齢別 (0、1、2、3) 自由参加型活動を実施し親子同志の交流の拡大を図る。 ◆ 月 1 回の公園児童館 (近隣の公園に職員が出向き公園利用者との交流を通し児童館をアピールする時とする) ◆ 地域活動団体との協力体制の構築より地域に根ざした活動を展開する。 <p>【日常】</p> <p>乳児と幼児がそれぞれ安心して過ごすことのできる環境を設定していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 乳幼児ルームの開放 AM9:30~PM7:00 ◆ 体育室の開放 火曜日～金曜日 土曜日、日曜日 AM9:30~PM15:00 AM9:30~PM1:00 ◆ 工作室の開放 (遊び場と 0・1 歳児の居場所の拡大) 火曜日～金曜日: 0.1 歳児専用ルーム PM1:00~PM5:00 <p>【その他の活動】</p> <p>保育付講座 (年 2 回)、親子遠足 (年 2 回) 夕涼み会、餅つき・親子ファミリーデイ</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 父親参加型活動の展開 □ 「母子健康手帳」 交付受付事務 	/	<p>【低学年活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆低学年タイム (月 2 回) ◆親子クッキング (年 2 回) ◆工作タイム (月 2 回) ※年間行事: キャンプ、館内合宿 <p>【高学年活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆高学年タイム (月 2 回) ◆登録制クッキング (月 1 回) ◆児童館ブロック体験学習キャンプ (5 年生以上) ※年間行事: ハイキング、キャンプ、館内合宿 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クリスマス活動 ◆ 労作体験 (お米作り) ◆ 5 月子どもの日スペシャル (基幹型共催) ◆ 日野市子どもまつり (市内児童館合同) ◆ 被爆体験証言会 ◆ 餅つき・伝承遊び ◆ スポーツタイム (月 3 回)、映画会 (月 1 回) <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 豊田駅北口商店連合会「ハロウィン祭」 ◆ 育成会「三世代の集い」 ◆ 小学校行事、授業への協力 ◆ 日野市放課後子どもプラン「ひのっち」への出向 (五小・六小) <p>※雲柱社児童館ブロック合同行事への参加 ※保護者参加型活動を積極的に取り入れる。 ※ボランティア体験の充実</p>	<p>【スポーツ活動】</p> <p>火曜日～金曜日: 18:00~19:00 土曜日、日曜日: 17:00~19:00</p> <p>における体育室の開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆3ON3 大会 (中、高生年 4 回) ◆卓球大会 (年 3 回) ◆合同スポーツ大会 (年 2 回) <p>【文化活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆映画会 (月 1 回) ◆クッキング ◆音楽室 (スタジオ) の開放 ◆E-69 (市内児童館合同ロックコンサート) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆基幹型児童館との合宿 (年 1 回) ◆体験学習キャンプ ◆午後 8 時閉館日 (月 1 回) ◆スポーツ交流 (年 1 回) <p>※小学生活動におけるボランティア活動の展開</p>

< 2 > 職員構成

- ・館長代行
- ・リーダー
- ・児童厚生員

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修 (SDS 等)

< 4 > その他

- ◇ 児童館評議委員会の開催 (年 2 回)
- ◇ 地域行事 (商店会・育成会) への参加
- ◇ 日野市基幹型児童館の実施に伴うサービスの充実
- ◇ 市内各機関主催の連絡会への出席
- ◇ 利用者アンケートの実施

指定管理 たまだいら

2010 年度(平成 22 年) 事業計画書

施設名:江東区東陽子ども家庭支援センター
記入者:依田幸子

指定管理

東陽

<p>事業の内容と展開</p>	<ol style="list-style-type: none"> ひろば事業(遊びふれあいのひろば) <ul style="list-style-type: none"> 親子で遊ぼう おはなし会 青空ひろば 母の輪タイム わかばの集い 季節の行事 妊婦さんの集い 03歳児グループ 体験学習事業(学びあいのひろば) <ul style="list-style-type: none"> 母親講座 父親講座 0ベビーマッサージ 0わらべうたで遊ぼう 講習会(ゆる体操・リラクゼーション) 相談事業(支えあいのひろば) <ul style="list-style-type: none"> ふれあい相談 電話相談 面接相談 専門相談(発達・心理・家族問題) グループ相談・助産師相談 子どもの成長を共に喜び合う(育てあいのひろば) <ul style="list-style-type: none"> 誕生日会 0すくすく成長記録 0入園を祝う会 0ふたごちゃんの集い 0すこやかマンデー 情報提供事業(わかちあいのひろば) <ul style="list-style-type: none"> センターだより「東陽みずべ かわらばん」毎月発行 子育て関連・地域・リサイクル情報 ホームページでの情報発信・メールでの問い合わせ受付 交流掲示板(利用者同士の声) 人材育成事業 <ul style="list-style-type: none"> 各種研修の開催(子ども家庭相談研修・こども家庭支援士養成講座) 自主グループへの支援・協力 自主活動 <ul style="list-style-type: none"> みずべ会議(利用者とボランティアを含めた自主企画運営会議)の充実 ケーキサークル(年間4回) リフレッシュ時保育事業 <ul style="list-style-type: none"> ボランティアの協力を得て、理由の如何にかかわらず、安心してこどもを預け、母親自身の時間をつくる。同時に子どもがのびのび遊べる場をつくる。 出張ひろば・訪問 <ul style="list-style-type: none"> センターまで遠くて来られない方や、大勢の場が苦手な方なども安心して集えるよう地域へ出向き、赤ちゃんひろばを開く。また、孤立を予防するための訪問を行う。 	<p>事業目標・方針と展開</p>	<p>目標 <共に生きる・共に育てる></p> <ol style="list-style-type: none"> 私たちは、地域の子どものと家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実によって事業を行います。 私たちは、地域の子どものと家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 私たちは、地域の子どものと家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します。 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。 <p>方針</p> <ol style="list-style-type: none"> ひろば活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 生後1~2ヶ月の赤ちゃんや第2子・3子を連れての来所が多くなっている。個々の来所者が何を求めているのかを考え、実際に手代わりとなりつつ、赤ちゃんの安全や親御さんの体調も含めてきめ細かい対応を心がける。 来所者の特技、趣味などを、広場で発揮できる機会を作ったり、積極的にひろばで手伝いをしてもらうなど、親達の生き生きとした活動をサポートしていく。 親同士の繋がりが豊かになるよう、まだ慣れない人や一人で来ている人へのサポートを心がける。先輩利用者の協力を得たり、出会いのきっかけ作りになるプログラムを準備する等して「また来てね」の気持ちで次の来所へと繋げる。 みずべ会議やアンケート調査で出された意見や、日常の会話の中からも来所者のニーズをとらえ、ひろばの環境づくり、プログラムの内容等について利用者、ボランティアと共に検討し実現できるようにしていく。 地域の保健所・助産師・児童館などの協力を得、センター事業の広報活動を活発にしていく。 相談活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> 子どもや親自身また家族について相談の場を提供し、安心できる環境で子どもの育ちの支援を図る。 親自身の力を信じ、その判断を尊重し、隣に寄り添う姿勢をもつ。 スタッフミーティングにより、個々の家族が抱える問題の整理と支援の方向性を共有する。 専門相談員とのケースカンファレンス、スーパーバイザーとのケース検討を定例で行い、問題を見極め、支援の方向性を探り、より良い解決に向けて家族を支援する。 相談ケースに応じて南砂子ども家庭支援センターと協力の下、訪問・必要な関係機関とのケース会議を行い、養育困難な家族を地域で支えていく。 ファミリーサポート事業(社会福祉協議会)との連携を図りつつ、ひととき預り事業を有効に使った支援を積極的に行う。 ボランティアとの共同 <ul style="list-style-type: none"> 子どもと家族に優しい街づくりを目指し、広く地域に開かれたひろばをつくっていく。 保育専門学校や地域の高校にもセンターの活動を伝え、ボランティア活動の場として、ひろばを活用する。 実習生を受け入れ、若い世代が、こどもと家族の現状を理解し、今後の支援に繋げていく。 リフレッシュひととき保育の担い手を養成し、必要な預かりを、安心した形でできるようにする。 出張ひろばや訪問等、共に地域に出ていく経験を通して、より自分の住む地域への理解と愛着をもってもらえるようにしていく。
<p>ネットワーク事業の展開</p>	<ol style="list-style-type: none"> 関係機関や地域住民との積極的な地域ネットワークづくりを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> 児童相談所・保健相談所・福祉事務所・助産師会等との連携 公私立保育園・児童館・幼稚園・学校・発達センター等との連携 保育室・保育ママ・ファミリーサポート事業との連携 出張子育てひろば・相談(ひまわり城・にこにこひろば) 地域懇談会(地区民生児童委員を中心に) 運営協議会・地域情報交換会の開催 相談ケースに応じた関係者会議への出席 区内の雲柱社各施設との協力・連携を深める 		
<p>環境整備</p>	<ol style="list-style-type: none"> 3階ひろば・1階保育室とも、0~3歳位の異年齢の子どもが、安心して好きな遊びを十分楽しめ、親子がくつろげるように家庭的な環境づくりを心がける <ul style="list-style-type: none"> 利用者・ボランティアの参加による環境・手作り遊具の整備 清潔で安全なひろば・保育室 子どもにとっても親にとっても、自分の居場所となる安心の場、良い人間関係をつくれる場となるように配慮 絵本・遊具・図書・情報資料の充実を図る <ul style="list-style-type: none"> 絵本紹介・貸し出し図書のすすめ 新しい情報(区内関係機関情報等) 室内だけでなく、一緒に戸外遊びを楽しむ 室温管理に注意する。室内の装飾等は家庭的な穏やかで、おうちのような温かい雰囲気大切にす。 駐輪場の管理・清掃 防犯カメラの管理 	<p>職員構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○センター長 1名 ○子ども家庭支援ワーカー 3名 ○保育支援ワーカー 2名 ○子ども家庭支援ワーカー 1名(非常勤) ○地域活動ワーカー 1名(非常勤) ○保育支援ワーカー 1名(非常勤) ○専門相談員(月1回)発達相談 心理相談 (月2回)家族相談 ○スーパーバイザー <p>主な研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場内研修 ・法人研修(全体・経験年数別・ブロック別) ・東京都子ども家庭支援センター自主研修会 ・子どもの虐待防止センター主催研修 ・ウイメンズプラザ主催各種研修 ・東京都精神福祉保健センター主催各種研修 ・子育てセンター実践研究会セミナー ・こころの健康財団精神保健講座 等

2010年(平成22年)度 事業計画書

施設名:江東区大島子ども家庭支援センター

記入者:小野江伊子(篠原 喜美)

指定管理

大島

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1 ひろば事業(遊びふれあいのひろば) ○親子で遊ぼう ○おはなし会 ○大きい子のおはなし会 ○手作り工作 ○ハローみずべ ○みんなで遊ぼう ○手型・足型 ○避難訓練 ○夏季の水あそび ○青空ひろば(年3回) ○クリスマス会 ○応急手当(新規)</p> <p>2 体験学習事業(学びあいのひろば) ○母親講座(元気講座 年3回・離乳食講座 年3回) ○グループ懇談会 ○父親講座(お父さんとあそぼう 年3回) ○ベビーマッサージ(年11回)</p> <p>3 相談事業(支えあひひろば) ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談(発達・心理・家族問題) ○子どもと母親の健康グループ相談・個別相談(助産師)</p> <p>4 こどもの成長を共に喜び合う(育て合いのひろば) ○誕生会 ○すこやか成長記録 ○ふたごちゃんの集い(年3回) ○入園を祝う会</p> <p>5 情報提供事業(わかちあいのひろば) ○かわら版「大島みずべ」毎月発行 ○交流掲示板 ○あげます・ください ○子育て関連・地域・リサイクル情報 ○あげます・くださいカード ○ホームページ(ひろば活動内容)・メールでの問い合わせ受付</p> <p>6 ネットワーク・人材育成事業 ○運営協議会の定期的開催 ○みずべボランティア・区内子育てボランティア養成</p> <p>7 自主活動(利用者を中心とした) ○みずべ会議 ○リサイクルひろば ○3才児のつどい ○コーラス隊 ○手作りおもちゃの会 ○外国のお母さん交流会 ○フェルト名札作り</p> <p>8 リフレッシュひととき保育 ○ボランティア(子ども家庭支援士)の協力を得て、理由の如何にかかわらず、安心して子どもを預け、母親自身の時間を作れるようサポートする。</p> <p>9 出張ひろば(亀戸・大島8丁目学童)の充実と新規での展開(場所・回数は検討)</p>	<p>目標</p> <p>1 私たちは、地域の子ども達とその家族一人一人が、神に愛され、生かされていくという視点にたって、事業を行います。</p> <p>2 私たちは、一人一人の人格と権利を尊重し、子ども達が心身ともに育つ街や社会を作ることを目指します。</p> <p>3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じる場となるように日々努力します。</p> <p>4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します。</p> <p>5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことを努めます。</p> <p>方針と展開</p> <p>1 ひろば活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ひろばにおいて親子とのいねいなかかわりの中で信頼関係を築き、親同士、子ども同士のつながりが豊かになっていくように配慮、サポートを心掛ける。特に新規来所者に対しては、次の来所に繋がるように丁寧な対応に努めていく。 母親、父親のもっている知識、特技、趣味などをひろばで発揮できる機会を作り、親達の自発的活動(自己発揮)をサポートしていく。 地域の保健相談所、助産師、民生児童委員等と協力してセンター来所への広報活動をしていく。ボランティア、母親達と共に、センターお誘いカードの活用を推し進める。 みずべ会議等を通して、遊び環境や、講座の内容、プログラムについて利用者、ボランティアと共に検討していく。 <p>2 相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ひろばで気軽に自然に話しができる雰囲気大切に、子どもや自分自身・家族の相談ができるよう心がける。 スタッフ間でのケース検討を、日常的に行い情報を共有し、方向性をもった支援をしていく(受付システムを活用し、その後の日常サポート、見守りを丁寧に配慮していく) 専門相談員とのケースカンファレンス、スーパーバイザーとのケース会を定例で行う ケースに応じ、家庭訪問、機関への同行、調査、情報提供など活動の充実を図る(アウトリーチ) ケースに応じ、関係者会議を積極的に開催し、ネットワークの中での対応を図る 虐待ケースに関しては南砂子ども家庭支援センターとの連携を強化し、対応力を高める。 <p>3 各種講座内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 来所者のニーズ、相談の内容などから必要なものをとらえ、こちらのメッセージも兼ね合せ、講座内容を構成する。 <p>4 地域住民に対して子育て支援活動への参加を積極的に働きかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中高生のひろばの親子とのかかわりを通してボランティア活動をひろげる(異世代交流)。夏休みに近隣の中学校にボランティアを呼びかけ、受け入れる。職場体験 ボランティアの募集、育成を区内全センターで協力し、参加者の増加と質の向上を図る <p>5 児童館・学童クラブとの協力と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 階下に学童クラブがあるという利点を生かし、積極的な連携を図る。また亀戸児童館との積極的な連携を図り、子育て支援の空白地帯である亀戸地域のニーズの掘り起こし、対応に努める。
<p>ネットワーク事業の展開</p>	<p>1 子ども家庭支援に関係する機関および地域住民との地域ネットワーク作りの推進 ○墨田児童相談所・城東保健相談所・福祉事務所保護第2課との連携 ○大島・亀戸の主任児童委員・地区担当民生児童委員との連携 ○城東地域 公私立保育園・児童館・幼稚園・保育室・保育ママとの連携 ○ファミリーサポート事業との連携 ○NPO等 自主子育て支援グループとの交流、支援、連携</p> <p>2 相談ケースに応じた関係者会議の開催及び出席</p> <p>3 要保護児童対策地域協議会への出席</p> <p>4 大島8丁目学童クラブ子育てひろば(学童クラブとセンターとの協働活動)</p> <p>5 亀戸子育てひろば(出張型ひろばの活動)</p> <p>6 地域児童館における地区連絡協議会への参加</p>	<p>職員構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○センター長 1名 ○子ども家庭支援ワーカー(リーダー) 1名 ○子ども家庭支援ワーカー兼地域支援ワーカー 1名 ○保育支援ワーカー 1名 ○子ども家庭支援ワーカー(非常勤) 1名 ○専門相談員(月1回) 発達相談 家族相談 心理相談 ○スーパーバイザー
<p>環境整備</p>	<p>1 乳幼児期の子どもが十分に遊びを楽しみ、親子が安心してくつろげる居場所となる環境作りを心掛ける ○利用者・ボランティアの参加による環境・手作り遊具の整備 ○遊びコーナーの見直しと再構成 ○室温・湿度・換気に留意する ○絵本コーナー・大人用図書の設定場所の見直しと整理 大人用図書の貸し出し ○外遊びの楽しさを伝え、一緒に楽しむ ○廊下を含めた、各年齢が混在した中の安全な環境作り ○事務室も含め整理整頓に心がける</p> <p>2 情報掲示板の整理と充実 ○情報の更新に留意すること(正確な情報とタイムリーな情報)</p> <p>3 防犯カメラの管理</p> <p>4 AEDの設置と点検</p> <p>5 防災用情報端末の管理</p>	<p>主な研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職場内研修(センターごと・交換研修・聖書勉強会・4センター合同) ○法人主催の研修(経験年数別・ブロック別など) ○子どもの虐待防止センター主催研修各種 ○子育てセンター実践研究会 ○実践交流セミナー東京都主催研修各種 ○東京都精神福祉保健センター研修各種

2010年（平成22年度）事業計画書

施設名 江東区深川北子ども家庭支援センター
 記入者 佐藤 貴子

指定管理

深川北

<p>事業の内容と展開</p> <p>1 ひろば事業（遊びふれあいのひろば） ○親子で遊ぼう ○おはなし会 ○うたってあそぼう ○青空ひろば ○あそびワーク（季節の行事・日本文化の伝承） ○喫茶</p> <p>2 体験学習事業（学びあいのひろば） ○父親・母親講座（応急手当年2回・自然と遊ぼう年3回・子育て講座・離乳食講座年2回・リズム遊び・看護師さんとの懇談会・カプラで遊ぼう年3回） ○講習会（ベビーマッサージ年11回・ハンドトリートメント年11回・「ままちょタイム」、ほか）</p> <p>3 相談事業（支えあいのひろば） ○ふれあい相談 ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談（発達・心理・家族問題） ○グループ相談 ○助産師相談</p> <p>4 子どもの成長を共に喜び合う（育てあいのひろば） ○誕生日会 ○すこやか成長記録 ○入園を控えて懇談会 年2回 ○入園入学を祝う会 ○ふたごちゃんの集い（年3回） ○地球へようこそカードプレゼント</p> <p>5 情報提供事業（わかちあいのひろば） ○センター日より「深川北みずべ かわらばん」毎月発行 ○子育て関連・地域・リサイクル情報 ○ホームページでの情報発信・メールでの問い合わせ受付 ○交流掲示板（利用者同士の声） ○情報交換ノート</p> <p>6 人材育成事業 ○各種研修の開催（子ども家庭相談研修・子ども家庭支援士養成講座・ボランティア育成） ○自主グループへの支援・協力 ○学童との交流（にこにこひろば・あきまつり・小学生ボランティア）</p> <p>7 自主活動 ○みずべ会議（利用者とボランティアを含めた自主企画運営会議）の充実 ○ケーキサークル（年間11回） ○フラワーアレンジメント（月の誕生花・クリスマスツリー飾り） ○子ども服・マタニティグッズリサイクルバザー（年2回） ○ファミリーデー ○クリスマスのつどい ○なんでもエプロン</p> <p>8 リフレッシュ時保育事業 ○ボランティアの協力を得て、理由の如何にかかわらず、安心して子どもを預け、母親自身の時間をつくれるようサポートする。</p> <p>9 出張ひろば（新規） ○センターまで来ることの出来ない小さいお子さんのいる方、対人関係が苦手な方などが、近くで集まりやすい場所にひろばをひらく。地域のボランティアさんと協力し、月1回からはじめ年度内には隔週で行っていく。</p>	<p>事業目標</p> <p>目 標 <共に生きる・共に育てる></p> <p>1 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実によって事業を行います。 2 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つ街や社会を作ることを目指します。 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるように日々努力します。 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性に基づき対応します。 5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。</p>
<p>ネットワーク事業の展開</p> <p>1 運営協議会 2 地域情報交換会（年1回程開催） ・こども家庭支援に関する機関や地域住民との積極的な地域ネットワークづくりを推進する。 ○児童相談所・保健所・福祉事務所・助産師会との連携 ○公私立保育園・児童館・幼稚園・学校との連携 ○ファミリーサポート事業との連携 ○深川学童クラブとの連携と協働 ○運営協議会を開き地域に根ざしたセンターの働きを共有化していく ○地区民生児童委員を中心の地域懇談会や児童館との地域連絡会への参加</p> <p>2 相談ケースに応じた関係者会議の開催及び出席 3 児童相談所とのケース会議 4 雲柱社江東ブロックネットワークの推進。連携と協力（講座・相談・ひろばプログラム）</p>	<p>方針・展開</p> <p>1 ひろば活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子同士が出会った時、相手の心にふれることが、かかわりの出発点であり、個々の来所者が何を求めてここにいるのかを考え、きめ細かい対応を心がける。 母親、父親のもっている知識、特技、趣味などを、広場で発揮できる機会を作り、親達の生き生きとした活動をサポートしていく。 親同士の繋がりが豊かになるよう、特に新規来所者や一人で来ている人へのサポートを心がける。先輩の利用者の協力を得ながら次の来所へと繋げる。 みずべ会議やアンケート調査等の充実を図るとともに、日常の会話の中からも来所者のニーズをとらえ、ひろばの環境づくりや、プログラムの内容等について利用者、ボランティアと共に検討、実現できるようにしていく。 地域の保健所・助産師・児童館・保育園などの協力を得、センターの広報活動を活発にしていく。 みずべ会議等を通して、ひろば環境や講座の内容、プログラムについて共に検討していく <p>2 相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 気軽に子どもや家庭について相談ができる場を提供し、安心した中での子育てと子どもの育ちの支援を図る。 親自身の力を信じ、その判断を尊重し、隣に寄り添う姿勢をもつ。 スタッフミーティングにより、個々の家族が抱える問題の整理と支援の方向性を共有する。 専門相談員とのケースカンファレンス、スーパーバイザーとのケース会を定例で行い、問題を見極め、支援の方向性を探る。 相談ケースに応じて南砂子ども家庭支援センターと連携し、訪問・関係機関への聞き取り・必要な関係者会議を行い、養育困難な家庭を地域で支えていく。 ファミリーサポート事業（社会福祉協議会）との連携を図る。 <p>3 ボランティアとの協働</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもと家庭に温かい街づくりを目指し、広く地域に開かれたひろばをつくっていく。 保育専門学校や地域の小学・中学・高校等にセンターの活動を伝え、ボランティア募集を積極的に行う。 実習生を受け入れ、若い世代が、子どもと家庭の現状を理解し今後の学びや働きに繋がっていただけるように支援する 利用者同士、ボランティア同士の繋がりを構築し、自発的な活動へ展開していただけるようにサポートしていく <p>・安心・安全・支え合い・育てあいを大切に、ひろば活動と関わりながら、リフレッシュひと時預かり保育を行っていく</p>
<p>環境整備</p> <p>1 乳幼児期の子どもが十分に遊びを楽しみ、親子が安心して過ごせるような環境づくりを心がける ○利用者・ボランティアの参加による環境・手作り遊具の整備 ○清潔で安全なひろば ○親や子どもにとって、ほっとできる居場所となり、人との繋がりがつくれるようなあたたかいひろばになるように配慮していく</p> <p>2 絵本・遊具・図書・情報資料の充実を図る ○絵本紹介・貸し出し図書のすすめ ○新しい情報（区内関係機関情報等）</p> <p>3 室内だけでなく、一緒に戸外遊びを楽しむ 4 室温管理に注意する。室内の装飾等は家庭的な穏やかで温かい雰囲気大切に作る。 5 駐輪場やセンターの外周りの清掃や季節の花を植え明るく優しい環境づくりを心がける 6 ベビーカーでの来所者への受け入れのサポートをしていく 7 防犯カメラの管理</p>	<p>職員構成</p> <p>○センター長 1名 ○子ども家庭支援ワーカー兼地域活動ワーカー(リーダー) 1名 ○子ども家庭支援ワーカー 1名 ○保育支援ワーカー 1名 ○子ども家庭支援ワーカー(非常勤) 1名</p> <p>★深川北から異動 ・2010年1月20日より 南砂子ども家庭支援センター 虐待ワーカー として異動 ・2010年4月1日より 大島こども家庭支援センター センター長 として異動</p> <p>○専門相談員（月1回） 発達相談 心理相談 家族相談</p> <p>スーパーバイザー ＊深北にてケース会議 年3回</p> <p>主な研修</p> <p>○職場内研修 ○法人主催研修（経験年数別・ブロック別・次世代育成） ○東京都子ども家庭支援センター自主研究会 ○子どもの虐待防止センター主催研修会 ○東京都主催研修各種 ○東京都精神福祉保健センター研修 ○子育てセンター実践研究会実践交流セミナー ○こころの健康財団精神保健講座</p>

<p>事業の内容と計画</p>	<p>【ひろば活動】</p> <p>1 ひろば事業（遊びふれあい、育てあいひろば）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子が気軽に集い、ゆったりとした雰囲気の中で安心して過ごすことが出来、子どもが楽しく過ごし、親同士が様々な人との出会いのなかで交流を深め、子ども達と共に育てあう仲間づくりをひろげていく。こどもの年齢や発達を踏まえた遊びの環境の中で子ども達が安心して遊び過ごす（・誕生会 ・すくすく成長記録 ・おはなし会 ・入園を祝う会 ・折り紙教室） ・すこやかMANDAY－障がいを持つ子どもと親のあそびと交流のひろば（月1回開催） ・子育てを応援してくれる地域のボランティアや中高生、大学生など様々な地域の人たちが集い様々な人とのかかわり、交流を豊かに経験していく <p>2 体験学習事業（学びあいのひろば）</p> <p>親同士が互いに学び合い交流を深めていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親講座 ・子育てグループ懇談会 ・父親講座 ・ベビーマッサージ <p>4 子育て相談事業（支えあいのひろば）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろばでのふれあい相談 ・電話相談 ・面接相談 ・専門相談（発達、心理、家族問題） ・助産師による母の健康子どもの健康相談（個別）およびグループ相談 <p>5 情報提供事業（分かちあいのひろば）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわら版「南砂みずべ」毎月発行 ・ホームページ（ひろば活動内容） ・交流掲示板、地域子育て情報ファイル ・日常リサイクル「あげます、ください掲示板」「どうぞの箱」 <p>6 ひろばボランティアの募集、研修</p> <p>7 自主活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みずべ会議（親、ボランティア、スタッフ3者による自主運営会議）・分かち合いリサイクルひろば ・お母さんのコーラスサークル・絵本サークル・3歳児親子サークル「親子の遊び隊」 <p>【リフレッシュ一時預かり保育】</p> <p>6ヶ月～3歳児のひと時保育（1時間～3時間）</p> <p>【児童虐待ホットライン対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の相談通報窓口として、虐待の予防と対応を地域でネットワークを組み合わせながら、連携し対応していく ・子どもショートステイ ショートステイの受付窓口と相談、調整業務 ・養育支援訪問事業 受付窓口と相談、調整業務 	<p>（目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 私たちは 地域の子ども達とその家族一人ひとりが、神様に愛され、生かされていくという視点にたって、事業を行ないます 2 私たちは、一人一人の人格と権利を尊重し、子供たちが心身ともに健やかに育つ地域や社会を作ることをめざします 3 私たちは、センターがそこに集うすべての子ども達と大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じる場となるように日々努力します 4 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、より良い解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します 5 私たちは、 地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行なうことをめざします <p>（方針）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子育てひろば活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 母親一人の孤独な子育てから、みんなで支えあう子育てに、そして子どもが遊びの中で、様々な人との関わりあい、十分に子ども自身のもっている育つ力を発揮し、安心してすこやかな成長を遂げることを支援していく。 ・ 日常のかかわりの中で親達との信頼関係を築き、子育てに関する事家族に関する相談に対して共に考えあひながら問題解決の方法を探っていく ・ リフレッシュひと時保育の充実 2 先駆型子ども家庭支援センターとして、地域のさまざまな関係機関と協力、連携しあいながら児童虐待の予防、対応に取り組んでいく。又在宅サービス等の充実に向け区子育て支援課と連携をしていく。 3 地域住民に対して子育て支援活動（子育てボランティア）を積極的に呼びかけ、子ども達と共に育てあう地域づくり、地域の子育て力を高めていく 4 地域の子育てサークル団体と連携し、その活動を支援サポートしていく
<p>ネットワーク事業</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 江東区の児童虐待ホットラインの窓口として、区子育て支援課とともに児童虐待対応の中核機関として関係機関とのネットワークを組み合わせながら、児童虐待の予防と対応に取り組んでいく 2 地域の児童館、保健相談所などの地域連絡会に参加 3 運営協議会－地域の子どもと家庭の福祉、教育、母子保健などの関係機関と、地域ネットワーク作りを推進していく 4 地域子育てサークルとの連携－相談、おもちゃ貸し出しなど 	<p>職員構成</p> <p>センター長</p> <p>子ども家庭支援ワーカー 4名 (非常勤) 2名</p> <p>リフレッシュひと時保育 1名 (非常勤) 2名</p> <p>児童虐待対策ワーカー 3名 (非常勤) 1名</p> <p>専門相談員 (発達相談) (心理相談) (家族相談)</p> <p>スーパーバイザー</p>
<p>環境整備・修繕等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児期の子ども達の発達を踏まえて子どもたちの様々な遊びが充実し、親も安心してすごせるための工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 親子が家庭的な落ち着いた雰囲気ですごせるための環境作り ・ 親と子どもとの適度な距離感、親同士の交流がしやすい場の設定 ・ 絵本コーナー、喫茶コーナー書籍の充実 ・ 園庭の遊具の充実、園庭（緑化環境）の工夫、夏季園庭の陽射し対策 ・ 園庭、室内清掃、遊具の清潔、危険箇所の点検を徹底していく 2 園庭の排水溝の定期的清掃 3 来所者の安全管理、安全対策の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震、火災時の避難訓練 ・ 非常時警報等の使用方法、対応についてのスタッフ間の確認徹底 	<p>主な研修・主な行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都福祉局主催研修 ・ 東京都精神福祉保健センター研修 ・ 子どもの虐待防止センター研修 ・ 法人研修（経験年齢別、ブロック別） ・ 職場内研修 <p>誕生会（毎月）</p> <p>5月 子どもの日・江東子どもまつり</p> <p>7月 七夕・夏季水遊び</p> <p>10月 リサイクルひろば</p> <p>12月 クリスマスおはなし会・音楽会</p> <p>3月 入園を祝う会</p>

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1. 広場事業（常設） ○親子で遊ぶ ○スポットタイム（あそび、季節のおたのしみ、誕生会等） ○のびのび成長記録、わいわいストレッチ（母親の健康増進） 2. 体験学習事業 ○各年齢別講座（6回） ○父親講座（2回） ○家族関係講座他（8回） ○CSP（虐待防止）講座（6回シリーズ） ○ノーバディーズパーフェクト講座（6～8回のシリーズ） 3. 相談事業 ○電話相談 ○面接相談 ○専門相談（発達相談、心の育ち、言語、家族問題） 4. 先駆型・虐待対策 市の虐待通告窓口、小平児童相談所との連携及び連絡会（要保護児童対策地域協議会及び実務者会出席）、関係者会の開催、ケース検討会の充実、スーパーバイズ 5. 情報提供事業 ○センターだより（毎月） ○ホームページでの情報発信、メールでの問い合わせ ○地域の子育て情報の提供 6. ネットワーク、人材育成事業 ○子育て支援ネットワークの活用化 ○ファミリーサポートとの連携及び講師派遣 ○子育て女性相談室（子育て支援）との連携とコンサルテーション ○子育て支援協議会における活動の強化 ○各関係機関との学習会 ○各種研修の開催（子育て支援、ボランティア募集と育成、市相談員への研修） 7. 子ども家庭在宅サービス事業（ショートステイ事業、育児支援ヘルパー事業、ファミリーサポート事業） 8. 運営企画 ○企画運営会議の充実（月、年間を見通していく） ○利用者のセンター行事への運営参加、子育てサークル、ボランティアの自主活動との連携、まもらっこの会（障害児を持つ親子の会）支援</p>	<p>事業目標・方針と展開</p> <p>目標（共に生きる・共に育てる） 安心、いきいき、健やかな子育て、子育て、親育ちのまちづくりを目指して ・私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実を立て、事業を行います。 ・私たち地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子どもたちが心身ともに健やかに育つまちや社会をつくることを目指します。 ・私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します。 ・私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向かえるよう、専門性にに基づき対応します。 ・私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことに努めます。</p> <p>方針</p> <p>1. 広場活動の充実 ○利用者同士の関わりを助け、広場での体験を通して利用者（親子、保護者達）の成長を見守り援助する ○広場での遊びを通して育児、子育て文化の伝承の場を提供する ○父親の育児参加をすすめ、共に取り組む事で育児の理解を深める ○子育ての楽しさを共有する ○養育不全、虐待傾向の家庭を広場での体験で援助していく</p> <p>2. 相談活動の充実 ○広場での悩み事、聞いてほしい事の相談を受ける ○専門相談電話を通してのサポートをする ○専門相談員による予約相談の充実 専門相談員によるミニ講座等を通して育児をサポートする ○スタッフ相互の情報共有とスーパーバイザー参加のケース検討</p> <p>3. 児童虐待防止機能の強化 ○虐待対策ワーカー1名増員 ○要保護児童対策地域協議会及び実務者会を通しての連携ネットワークの強化 ○関係機関との研修、ケース検討を通しての連携を強化 健康センターとの連携 ケースを通して連携の強化、情報の共有化、母子手帳配布時に子ども家庭支援センターの案内を同封、研修、ケース検討会、問題ケースへの同行訪問 地域センターとの連携 ふれあい広場の巡回、主任児童委員との話し合い、利用者の声を聞き取り、相談事業や講座につなげる 民生委員、主任児童委員等へのスーパーバイズ 児童館、地域センターを活用しての講座、子育て文化の発信 市の各諸機関の連携と連絡、ママサークルの支援、近隣地域との協力</p> <p>4. 市内の人材活用（ボランティアの参加）、スタッフの研修の充実</p>
<p>ネットワークの展開</p>	<p>・要保護児童対策地域協議会及び実務者会の活用化、ケースを通じた地域のネットワーク作りの充実・ケース検討会議の開催・地域組織化活動の促進（地域の協同と連携） ○関係機関との連携（小平児童相談所、健康センター、むさしが丘学園、教育相談室、教育委員会、小学校、中学校、学童クラブ、保育課、幼稚園、保育園、社会福祉協議会、多摩小平保健所、民生委員、主任児童委員、療育施設、病院、小平警察） ○地域センター（ふれあい広場訪問）との連携協力 ○児童館、地域センターでの講座、相談 ○地域訪問（地域の特性と子育て世代のつながりを作る）</p>	<p>○明るく清潔で家庭的な安心して過ごせる広場作りをしていく（居場所としての広場） ○利用者参加による環境整備、絵本、玩具（手づくりおもちゃ）の充実 ○利用者との信頼関係を深め、センターの活用の仕方を理解してもらう ○地域センターふれあい広場への協力</p>
<p>環境整備・修繕等</p>	<p>○職場内研修 ○小平市各機関主催の研修 ○子育てセンター実践交流セミナー ○東京都（福祉保健局）主催研修 ○雲柱社、子ども家庭支援センター研修会 等</p>	<p>職員構成</p> <p>センター長兼ワーカー 1名 広場相談ワーカー 2名 地域対策ワーカー 1名 のびのび支援ワーカー 1名 虐待対策ワーカー 2名 専門相談員（非常勤2名）、スーパーバイザー</p>

2010年(平成22年)度 事業計画書

施設名:練馬区立光が丘子ども家庭支援センター

記入者:新澤拓治

<p>事業の内容と展開</p>	<p>(1)子どもと家庭の総合相談事業 ○ 電話相談 ○面接相談 ○ 子どもと母親のグループミーティング(精神保健福祉士) ○ 個別ケースにおける関係機関との連携(ケースマネジメント)</p> <p>(2)子育て啓発事業 ○ノーバディズパーフェクト2期開催【新規】※2009年度は1期開催 ○保育園看護師の健康講座○保育園栄養士の栄養講座 ○地域小児科医による健康講座</p> <p>(3)子育てのひろば 光が丘びよびよ 日・水除く毎日 10:00～16:00 ○親子で遊ぼう ○スポットタイム(おはなし会・ふれあい遊び) ○誕生月の手型とり</p> <p>(4)乳幼児の一時預かり 日・水 6ヶ月から就学前まで 10:00～16:00 (1コマ3時間) 定員 12名(時間単位)【新規】※2009年度までは定員 10名</p> <p>(5)トワイライトステイ 年末年始除く毎日 2歳から12歳まで 17:00～22:00 定員 10名</p> <p>(6)児童虐待の防止に関する事業 ○通報の受付と先駆型子ども家庭支援センターとのすみやかな連携 ○光が丘地域ネットワークへの参加(要保護児童対策地域協議会地域部会)</p> <p>(7)光が丘ファミリーサポートセンター事業 郵便番号179 地域における、利用会員、援助会員のコーディネートと支援 ※2011年度練馬区ファミリーサポートセンター一所化へ向けスムーズな引き継ぎ</p> <p>(8)その他 ◇情報提供事業(わかちあいのひろば) ○ かわら版「光が丘びよびよ」毎月発行 ○ 子育て関連・地域・リサイクル情報 掲示板、チラシ配布 ○ ホームページ(ひろば・ファミサポ) ◇人材育成・ネットワーク事業 ○ 結成一年未満の子育て支援団体への会議室無償貸し出し等 ○ 子育て支援団体への印刷機無償貸し出し ○ 子育てボランティアの受け入れ【新規:継続】※2009年は予定するも未実施</p> <p>自主活動 ○ 月曜日ひろば(通称:げつびよ 大きい子(三歳児)向けに会議室を開放)</p>	<p>目標</p> <p>1 私たちは、地域の子供達とその家族一人一人が、神に愛され、生かされていくという視点にたって、事業を行います。</p> <p>2 私たちは、一人一人の人格と権利を尊重し、子供達が心身ともに育つ街や社会を作ることを目指します。</p> <p>3 私たちは、センターがそこに集うすべての子供と大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じる場となるように日々努力します。</p> <p>4 私たちは、地域の子供達とその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向えるよう、専門性にに基づき対応します。</p> <p>5 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子供とその家族のニーズにあわせて、必要な支援を行うことを努めます。</p> <p>方針と展開</p> <p>1 ひろば活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ひろばにおいて親子との丁寧なかかわりの中で信頼関係を築き、親同士、子ども同士のつながりが豊かになっていくように配慮、サポートを心掛ける。特に新規来所者に対しては、次の来所に繋がるように努めていく。 開設三年目ということで、広がり二年目から充実の三年目となるよう、親子とのつながりを基盤に新たな活動へのチャレンジをしていく。 母親、父親のもっている知識、特技、趣味などをひろばで発揮できる機会を作り、親達の自発的活動(自己発揮)をサポートしていく。(地域マップ作りや手作り講座等) 地域の保健相談所、助産師、民生児童委員等と協力してセンター来所への広報活動をしていく。 2009年は担当している職員も他ひろばなどでの経験も無く、担当職員が法人内他施設をはじめ見学、研修を重ねてひろばの質のアップを図るとしたが、2010年度も職員の入れ替わりも多く引き続き研修、見学を充実していく。 <p>2 相談活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> スタッフ間でのケース検討を日常的に行い情報共有し、方向性をもった支援をしていく 長時間開所、多人数での職場なので連携を大切にすすめていく スーパーバイザーから定期的にサポートを受ける ケースに応じ、練馬子ども家庭支援センターと連携し、訪問や機関への同行、調査、情報提供など、必要があれば積極的に協力していく ケースに応じ、関係者会議等も積極的な参加を図る。 特に虐待ケースに関しては練馬子ども家庭支援センター(先駆型)との迅速で密な連携を強化する。 <p>3 一時預かり、トワイライト、ファミサポ等事業系の活動充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 一時預かり、トワイライトステイは法人内の今までの保育、学童等のノウハウを継承し、より質の高い事業としていく ファミリサポートはH23年度より完全一所化となり、会員のコーディネートは一所に集中する。光が丘としてはコーディネーターとしての役目を終焉するが、新事業者にスムーズに引き継げるよう情報を整理し連携を図ることとする。 <p>4 各種講座内容等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 来所者のニーズ、相談の内容などから必要なものをとらえ、こちらのメッセージも兼ね合せ、講座内容を構成する。 <p>5 チームワークのよい職場環境作り</p> <ul style="list-style-type: none"> 週7日開所、9時から22時までの開所と長時間開所の施設であるがゆえ、職員もシフトがバラバラ、また非常勤の数もとても多くなっている。その為には合理的な情報伝達と、密な連携と協力が必要。 長時間、期間の職場だからこそ、健全な労務管理を行ない、職員の心身の健全を保持する
<p>ネットワーク</p>	<ol style="list-style-type: none"> 光が丘地域ネットワークへの参加(前掲) 光が丘地区主任児童委員定例会議への出席 地域子育て支援団体への支援による連携(前掲) 子育ての輪への参加(光が丘地域公立保育園が核となった光が丘地区の子育てフェスティバル 児童館・保健相談所等も参加) 練馬区子育て支援者ネットワークの構築(練馬区よりの依頼)【新規】 	<p>職員構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○所長 1名 ○子ども家庭支援ワーカー 6名 ○非常勤 13名 ○スーパーバイザー
<p>環境整備</p>	<ol style="list-style-type: none"> 乳幼児期の子どもが十分に遊びを楽しみ、親子が安心してくつろげる居場所となる環境作りを心掛ける ○安全安心の環境整備(乳児の利用が多い為、年齢構成に配慮した環境) ○遊びコーナーの見直しと再構成 トワイライトステイでは小学生の利用もあるので、小学生男女が楽しんで過ごすことのできる環境作り。 改装後二年のため、施設は非常にきれいな状態であり、その維持を図る 	<p>主な研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場内研修・法人主催の研修(経験年数別・ブロック別など) ○ 東京都子ども家庭支援センター自主研究会 ○ 子どもの虐待防止センター主催研修各種 ○ 東京都主催研修各種・東京都精神福祉保健センター研修各種 ○ 子育てセンター実践研究会 実践交流セミナー ○ つどいの広場全国連絡協議会主催子育てひろば研修

委託

光が丘

2010年度 学童クラブ事業計画

私たちは、所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業にとり組みます。

学童クラブ
事業目標

1. 私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
2. 私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
3. 私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
4. 私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を發揮できる学童クラブを目指します。
5. 私たちは、自由と規律を大切にす学童クラブを目指します。
6. 私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
7. 私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

児童館名 汐入小学童クラブ
記入者 伊藤 美智子

< 2 > 職員構成

- ・ 館長
- ・ 児童厚生員

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動	成人を対象とした活動	貸 館
活動目標		＊家庭に代わり安全で安心して過ごせる居場所となる。 ＊友達との交流 遊び、集団での活動を通し、社会性を育てていく。 ＊いろいろな活動に取り組み生活経験を豊かにしていく。 ＊保護者が安心して働けるような対応をしていく。				
活動の内容・行事等		行事 新入会者歓迎会 お出かけ 夏祭り 各スポーツ大会 合宿 ハロウィンパーティ クリスマス会 遠足 毎月： 誕生会 お店屋さん（おやつ） 日常活動： 手芸 製作 ゲーム 読書 宿題等 手作りおやつ： 1ヶ月に数回 毎月発行： 学童クラブ便り おやつ献立表 親子交流会： 年2回程度 保護者会： 年4回 個人面談： 年1回 他随時受ける。 汐入、七峡小学童クラブ交流				

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

＊ 定員 100名

荒川区は待機児を出さない方針で実数は定員を超え120名まで受け入れる予定。

＊ 障がい児の受け入れ8名。2010年度より汐入小学校に支援学級が出来、入室希望者が急増する。丁寧に受け止めていく。

＊ 汐入ふれあい館 汐入学童クラブ、七峡小学童クラブと共に活動を作っていく。

2010年度 学童クラブ事業計画

私たちは、所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業にとり組みます。

1. 私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
2. 私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
3. 私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
4. 私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を發揮できる学童クラブを目指します。
5. 私たちは、自由と規律を大切にする学童クラブを目指します。
6. 私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
7. 私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

児童館名 七峡小学童クラブ
 記入者 伊藤 美智子

学童クラブ
事業目標

< 2 > 職員構成

- ・ 館長
- ・ 児童厚生員

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動	成人を対象とした活動	貸 館
活動 目 標		*家庭に代わり安全で安心して過ごせる居場所となる。 *友達との交流 遊び、集団での活動を通し、社会性を育てていく。 *いろいろな活動に取り組み生活経験を豊かにしていく。 *保護者が安心して働けるような対応をしていく。				
活動 の 内 容 ・ 行 事 等		行事 新入会者歓迎会 お出かけ ハロウィンパーティー 各種スポーツ大会 合宿 クリスマス会 遠足 毎月： 誕生会 お店やさん（おやつ） 日常活動： 手芸 製作 ゲーム 読書 宿題等 手作りおやつ： 1ヶ月に数回 毎月発行： 学童クラブ便り おやつ献立表 親子交流会： 年2回程度 保護者会： 年4回 個人面談： 年1回 他随時受ける。 汐入、汐入小学童クラブ交流				

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

* 定員 100名

荒川区は待機児を出さない方針で実数は定員を超え120名まで受け入れる予定。

* 障がい児の受け入れ8名。2010年度より汐入小学校に支援学級が出来、入室希望者が急増する。丁寧を受け止めていく。

* 汐入ふれあい館
 汐入学童クラブ、七峡小学童クラブと共に活動を作っていく。

2010年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

2010年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画					児童館名: 上池台児童館
児童館 ブロック 事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは、みんなの居場所となる児童館をめざします。 ・私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちやその家庭が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。 ・私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。 ・私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見にたち向かう力を育む児童館を目指します。 				記入者: 小暮 緑
<1>事業計画					
	子育て支援活動(乳幼児)	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中高生を対象とした活動	<2>職員構成
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児を持つお母さん方の悩みや不安を共有しサポートしていく。 ○子ども達の成長を共に見守り、喜ぶ。 ○親子で楽しみ、共に作り上げる参加型の活動を展開する。 ○お母さん、子どもたちがほっと過ごせる場となる。 ○保健センターなど地域の社会資源を調べ、連携をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を見つめ、他者を思いやる力を育む ○グループ活動、行事(自然体験)、日常活動を3本の柱として事業を展開する。 ○集団遊びを通じて、子ども達が色々な経験・体験となる。 ○社会性、協調性を体験的に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分を見つめ、他者に思いやる力を育む ○グループ活動、行事(自然体験)、日常活動を3本の柱として事業を展開する。 ○集団遊びを通じて、子ども達が色々な経験・体験の場となる。 ○社会性、協調性を体験的に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中高生の居場所となる。 ○中高生の自立支援の場となる。 ○人生や社会問題を考える場となる。 ○ボランティアの要請と実践の場となる。 	館長 リーダー 児童厚生員 <3>研修 <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修 ・ブロック内研修 ・法人研修 ・その他外部研修
活動内容・行事等	<ul style="list-style-type: none"> <グループ活動> <ul style="list-style-type: none"> ・いちごクラス(0歳児)A/B… 毎週火曜日 ・さくらんぼクラス(1歳児)A/B… 毎週木曜日 ・りんごクラス(2,3歳児)A/B… 毎週金曜日 ・こいちごクラス(0歳児低月齢) …10月より開始毎週火曜日(午後) <日常活動> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリールーム…環境整備に努める ・わいわいルーム …3階をお母さん方、子どもたちの交流の場として開放する。 未就園児…月、土曜日10:00~14:00 水曜日10:00~11:30 幼稚園児…水曜日11:30~14:00 <その他プログラム> <ul style="list-style-type: none"> ・なつまつり ・夏休みプログラム ・運動会 ・クリスマス会 ・ベビー服リサイクル(年3回) ・お父さんと遊ぼう ・お母さん向け講座の開催 ・幼稚園生プログラム ○2009年度も引き続き、他機関との連携を深め母親講座等を、計画的に行なう。 ○地域に出て行き、地域のニーズを探る。 ○教室活動ではなく、児童館ならではの活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> <定員> 90名 <育成時間> <ul style="list-style-type: none"> ・通常…下校時間~17:00 ・延長…17:00~19:00 ・学校休業日…8:30~ <年間行事> <ul style="list-style-type: none"> ・4月…入室式 ・6月…個人面談 ・7,8月…夏やすみプログラム ・10月…外出 ・11月…個人面談 ・1月…たこあげ ・3月…遠足 <その他プログラム> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生会 ・駄菓子屋さん ・お楽しみ会 ・お店屋さんごっこ ・ロッカー掃除 ・外遊び(近隣の公園・中庭) <その他> <ul style="list-style-type: none"> ・お便りの発行(月1回) ・縦割りのグループ活動と共に、同学年横のつながりも大切に ・保護者との関係、保護者同士の関係を深めるため、夕食会を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> <低学年活動 だいだらぼっち 1~3年生> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別、グループ活動 ・ハイキング、キャンプ <高学年活動> <ul style="list-style-type: none"> ・2010年度より緩やかなグループ活動を開始する。 ・月に4回ほど活動日を設定し、幅広い体験の場を子どもたちに提供する。 ・磯遊び、サマーキャンプ等の野外活動を行う。 <スポーツ活動> <ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ大会 <文化部門> <ul style="list-style-type: none"> 手芸教室、手作り教室、お話し会 図書活動の充実 <年間行事> <ul style="list-style-type: none"> こどもの日、なつまつり、クリスマス、焼き芋の会、冬まつり ○2010年度は高学年活動に重点を置く。低学年から事業のつながりを持たせる。 ○児童館ならではのプログラムを企画し、子ども時代の体験の場を提供する。 ○世界の子どもたちについて学ぶ「STEP」活動は、各グループ活動の中継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校時代来館していた子どもたちが継続して来館するようになっている。19時まで利用する 子どもたちも多くなり、新たな活動の展開が可能な状況になりつつある。 さらに子どもたちとの関係を深め、子どもたちとプログラムを立ち上げる方向に向かっていきたい。 ・中学生タイムを設ける。18:00~19:00 ・児童館プログラムへのボランティアとしての参加呼びかけ。 	<4>その他 <ul style="list-style-type: none"> ・大田区子ども支援センターとの連携 ・その他機関との連携 ・「大田区すくすくネット」児童館を中心とした子育て支援プラン

2010年(平成22年)度 事業計画書

施設名 : 小金井市子ども家庭支援センター
 小金井市ファミリー・サポート・センター
 記入者: 宮澤陽子

<p>事業の内容と展開</p>	<p>1 ひろば事業(火～土開所、日・月・祝祭日・年末年始休み) ●談話室を使った遊びのプログラムの提供(年30回) ○café(年22回) ○大きくなったかな(身体測定) ○KGママ(母親の自主企画)(年12回) ○NPOおもちゃライブラリーとの連携出張ひろば(年3回) ○保護者への本の貸し出し・子ども服リサイクル(ひろば開所日) ○(土)お父さんとの遊びコーナー</p> <p>2 相談事業 ○電話相談 ○面接相談 ○ひろばでの相談 ○FAX相談 (いずれもひろば開所日) ○専門相談(発達相談:年24回・こころの相談:年12回・助産師相談:年6回・栄養士相談:年12回) ○グループ相談・子どものあそびグループ(発達相談の枠の中で:年12回)</p> <p>3 体験学習事業 ○グループミーティング(1歳6グループ×月1回×5) ○ミニ講座(助産師・出張・ママ講師)(年6回) ○0歳児の会(年11回) ○1歳の誕生会(年12回) ○母親グループ(ハリスケース:月1回×2グループ) ○カルガモ教室(10か月～14カ月:年12回) ○エンジェル教室(5か月児:年24回) ○シニア向け異世代交流会(年2回) ○父親講座(年3回) ○小学生の親のグループ(年10回)</p> <p>4 情報提供事業 ○センター通信 ○ホームページ ○予定表 ○掲示等による地域、子育て、リサイクル情報の掲示 ○母親のつづやきを集めた冊子作り(子育て情報誌団体との連携)</p> <p>5 自主サークル支援 ○虐待防止を目的としたハリス家庭の為に自主サークル支援(多胎児の会:年4回・小学生の軽度発達障害児の親の会:年12回)</p> <p>6 ネットワーク、人材育成事業 ○ボランティア募集と育成(募集・活動のコーディネート・交流、研修、社協・ボランティアセンターとの連携) ボランティア交流会(年1回)・ボランティア研修(年1回)・活動(ひろば・通信・保育・プログラム) 学生ボランティア、お母さんボランティアの受け入れ ○ファミリー・サポート・センターとの連携(ボランティア研修:年1回・フォローアップ講習:年2回・ひろば実習)</p> <p>7 ファミリー・サポート・センター事業 ○協力会員の募集及び講習開催(年3回) ○依頼会員の募集及び説明会開催(年12回) ○会員相互の交流会(年2回) ○援助活動の促進及び協力会員、依頼会員へのサポート ○子ども家庭支援センターとの連携事業(上記) ○センター活動の周知及び協力会員募集のための地域説明会(民生委員対象)</p>	<p>事業目標・方針と展開</p> <p>1 地域の子どもとその家族一人ひとりが神に愛され、生かされているという事実によって事業を行なう。 ○全体で聖書の話聞く機会を持つ。</p> <p>2 地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子どもたちが心身共に健やかに育つまちや社会をつくることを目指す。 ○子ども家庭支援センターのボランティア育成とファミリーサポートセンターの協力会員養成の機能を合わせ、子育てのサポートができる人たちを地域に増やしていく。 (ボランティア及び会員募集⇒活動⇒研修⇒交流⇒地域に戻るというシステム作り) ○子ども家庭支援センターがつなぎ役となり、地域での子どもの支援につながる場づくりをしていく。 (例:発達障害児の親の会の声を民生委員・保育士などにきいてもらう) ○異世代交流や利用者同士の交流の場を意識的に作るようにし、親と子という狭い世界だけでなく、広い関係性の中で子どもたちが育つことの大切さを伝えていく。</p> <p>3 センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう日々努力する。 ○ひろばやプログラムまたファミリーサポートセンターをつかった場で孤立感を持つ親子の存在に気づき、その孤立感を和らげられるようなかわりができるよう努力する。 ○子ども家庭支援センターやファミリーサポートセンターの各事業につながりを持たせ、支援方針を持って、サポートしていく。</p> <p>4 地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、より良い解決に向かえるよう、専門性に基き対応します。 ○利用者が何に困っていて、どうしたいと思っているのかを敏感に受け止め、利用者の立場に立って振り返りを深めていく。 ○職場内研修を通して、話の聴き方、子どもの発達の理解、グループのファシリテーターの役割を学ぶ。</p> <p>5 地域の人々や他の専門機関と連携して子どもとその家族のニーズに合わせて必要な支援を行う。 ○民間施設なりのアプローチの仕方、フェイスtoフェイスを大切にし関係を築いていく。 ○巡回訪問で認可園との関係が、また連携事業で児童館や一部NPOとの関係が出来つつあり、相互理解のもと、関係を深めていく。</p>
<p>ネットワーク事業の展開</p>	<p>1 保育園、幼稚園との連携強化(巡回相談:年30回) 2 子ども家庭支援センター要保護児童対応職員との役割分担・連携強化 3 ファミリー・サポート・センターとの連携強化(目標の共有化) 4 NPOとの連携(研修、出張ひろば、講座、ケースの連携等) 5 児童館・社協・ボランティアセンター・学芸大学との連携事業 6 保健センターケースの共有と受け皿 7 各関係機関とのケース、事業に応じた連携(児童館職員研修受け入れ:年12回・研修会:年1回等) 8 市内子ども関連団体との連携及びサポート</p>	<p>職員構成</p> <p>◎子ども家庭支援センター ○責任者 ○子ども家庭支援ワーカー</p> <p>◎ファミリーサポートセンター ○代表 ○アドバイザー</p> <p>○地域支援ワーカー 兼子ども家庭支援ワーカー ○専門相談員 (発達) (心理) (助産師)</p> <p>○スーパーバイザー</p>
<p>環境整備</p>	<p>○遊具、環境改善 ○定期的な安全・衛生点検(マニュアル作成) ○大人用貸し出し図書の実・整備 ○室温、湿度管理 ○掲示物の整理(内容、掲示の仕方) ○季節を感じる環境づくり ○わかりやすい案内の工夫 ○(土)の防犯</p>	<p>主な研修</p> <p>○東京都(福祉局、衛生局)主催研修各種 ○スーパーバイザーとのケース検討、研修 ○法人研修 ○施設内研修 ○外部研修</p>

2010年度 雲柱社 学童クラブ事業計画

児学童名 深川学童クラブ

記入者 松原 万紀子

< 1 > 事業計画

< 2 > 職員構成

- ・ チーフ
- ・ 児童厚生員

< 3 > 研修

- ・ 施設内研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 法人研修
- ・ 所属する自治体の研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

学童クラブ事業目標

私たちは、所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業にとり組みます。

1. 私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
2. 私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
3. 私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
4. 私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。
5. 私たちは、自由と規律を大切にす学童クラブを目指します。
6. 私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
7. 私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標		子どもたちに対し、健全なあそびや楽しい生活の場を提供し、心身の健全な育成を促す。 1、子どもたちの健康と安全を守る環境をつくる。 2、異年齢集団での生活やあそびを通して社会性と豊かな心を育てる。 3、保護者と協力し、円滑なクラブ運営を行なう。 4、深川北こども家庭支援センターとの関わり、手伝いを通して、小さい子どもたちと交流を持つ。		
活動の内容・行事等		(定員)104名 (育成時間) 通常：下校時～17:00 延長～18:00 学校休校日：8:30～17:00(～18:00) (通常の流れ)来室→宿題→遊び→おやつ→あそび→帰りの会・帰宅（延長保育） (あそび)クラブ室、森下公園を中心に生活するが近隣の児童館との交流、図書館、公園等に出かけて、行動範囲視野を広げるようにする、グループ活動、集団あそびを取り入れる。他の学童クラブとの交流『にこにこ』支援センター「みずべ」との交流を持つ。 (行事)入会式・歓迎会・外出・夏、秋まつり・クリスマス会・お別れ会・お別れ遠足 等 (その他) ・毎月のプログラム（誕生日会・ゲーム会・手作り工作・避難訓練・にこにこ） ・ぬりえコンクール ・カード飛ばし大会 ・森下児童館の行事 ・深川北部ドッチボール大会 ・保護者会 ・クラブだより毎月1回発行		

2010年度 雲柱社 学童クラブ事業計画

児学童名 大島四丁目学童クラブ

記入者： 永澤 和男

< 1 > 事業計画

2 > 職員構成

- ・ リーダー
- ・ 児童厚生員

< 3 > 研修

- ・ 法人研修
- ・ 児童館ブロック研修
- ・ 区研修
- ・ その他の研修

< 4 > その他

私たちは、所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業にとり組みます。

学童クラブ
事業目標

1. 私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
2. 私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
3. 私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
4. 私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。
5. 私たちは、自由と規律を大切にしている学童クラブを目指します。
6. 私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
7. 私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標		異年齢集団の中で、様々な経験を通して協調性を養い、仲間を思いやる気持ちを育て、自主的に判断し行動できるようにする。 1、こどもたちの健康と安全を守る環境をつくる。 2、異年齢集団での生活やあそびを通して社会性と豊かな心を育てる。 3、保護者と協力し、円滑なクラブ運営を行なう。 4、屋外活動を通して、体力の増進と自然体験学習を行う。		
活動の内容・行事等		<育成時間> 通常：下校時～17:00 延長：～18:00 学校休校日：8:30～17:00(～18:00) <通常の流れ>登室→宿題→遊び→おやつ→遊び→帰りの会・帰宅→延長保育 <あそび>育成室2部屋と庭を中心に生活するが、近隣の公園、図書館等に出かけて、行動範囲視野を広げるようにする。グループ活動、集団あそびを取り入れる。2階こども家庭支援センターとの交流を持つ。 <年間行事> オリエンテーション、入会進級を祝う会、ぬりえコンテスト、七夕製作、観劇会、児童館おまつり見学、水遊び、遠足、さよなら夏休み会、大四商店街、ミニ遠足、ハロウィンパーティー、勤労感謝の日製作、手芸、クリスマス会、大掃除、豆まき（節分）、城東地区ドッジボール大会、お別れ遠足、サイン帳作り、卒室進級を祝う会 等 <月例行事> お買い物体験、誕生会、リクエストおやつ、みずべボランティア、ロッカー掃除、食育講座 等		

委託

大島四

2010年度 雲柱社 児童館ブロック事業計画

私たちは、所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業にとり組みます。

児学童名 大島八丁目学童クラブ

学童クラブ
事業目標

1. 私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
2. 私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
3. 私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
4. 私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。
5. 私たちは、自由と規律を大切にする学童クラブを目指します。
6. 私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
7. 私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

記入者 永澤 和男

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の乳幼児、その保護者を対象に、地域に密着したひろば活動を行う。 ・障害を持つ子どもや、他の施設での活動に参加できない子どもも参加できるひろば活動を目指す。 ・保護者同士が、地域での友人や仲間を作れるような、つなぎの役割を担う。 ・大島子ども家庭支援センターと連携し、子育ての悩み・不安等を抱える保護者の支援の場となる。 ・地域の乳幼児とその保護者にとって安全で安心して利用する事の出きる居場所を目指す。 ・利用者にとって必要な情報提供を行い、場合によっては他機関に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に代わる放課後の生活基盤となり、こども達の個性を尊重し、安心して過ごすことができる場所となる。 ・集団遊び・行事を通して、こども達の社会性・協調性・主体性を養う。 ・保護者とコミュニケーションを密にし、その就労を支援しつつ、こどもの成長について共に考えていく。 ・地域の人たちの協力を得て、地域に根ざした学童クラブを目指す。 ・他の学童クラブや子育てひろば、地域のこども達との交流を大切にし、人間関係を広げていく。 ・他機関と連携し、見守りが必要なこども・家庭の支援を行う。 	< 2 > 職員構成
活動の内容・行事等	<p>子育てひろば</p> <p>※活動は学童クラブ職員が午前中の時間を利用して実施する</p> <p>開設時間</p> <p>毎週 月・金 10時～11時半 (自由来館型子育てひろば)</p> <p>手遊び・紙芝居・体操</p> <p>行事</p> <p>月間行事 音楽遊び・読み聞かせ等 子育て講座 ハロウィンパーティー パネルシアター(講師)</p>	<p>育成時間</p> <p>〈通常〉下校時～17時 (延長 ～18時) 〈学校休業日〉8時30分～17時 (延長 ～18時)</p> <p>年間行事</p> <p>オリエンテーション、1年生歓迎会、行事製作、春・秋の交通安全運動、ミニ遠足 オヤツ釣り大会、五目並べ・将棋大会(自由参加)、世界のカブトムシ観察、遠足 お楽しみ昼食会、近隣児童館の行事への参加、江東区観劇会、引取り訓練 駄菓子屋さん、ハロウィンパーティー(大8ひろばとの交流)、大掃除、クリスマス会 節分、お別れ会、文集作り、お別れ遠足 大島四丁目学童クラブと交流、江東区ドッジボール大会</p> <p>月例行事</p> <p>誕生会・ゲーム会・避難訓練・学年別グループ活動・手芸・工作</p>	<p>< 3 > 研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館ブロック研修 ・法人研修 ・所属する自治体の研修 ・その他の研修 <p>< 4 > その他</p>

委託

大島八

- 今年度は、不況の影響で作業受注量の落ち込みが予想される。利用者の工賃安定を図るため、受注業者から安定的に受注が入るよう考えていく。
- 国の施策動向を見ながら、新たな施設体系への移行をどう考えるか、今年度も継続し、小金井市と協議を重ねていく。
- 高齢利用者の排泄介助・新型インフルエンザ・ノロウイルスへの対応等、利用者の衛生面・健康面に配慮する。
- 利用者の高齢化に伴い医療機関との関わり方を考えていく。
- 利用者の行き帰りの安全や地域とのより良い関係を考え、ご家族・グループホームと連携し、対応していく。
- グループかがわの成人部門施設と協力し、利用者への支援内容の充実を図る。

1 施設運営

(1) 実施事業

作業内容

- ・ 委託作業（福祉会館清掃、福祉会館風呂場清掃、凧製作）
- ・ 受注作業（付録詰め、割り箸袋入れ、アロマオイルケース作り、説明書折り、ダイレクトメール封入他）
- ・ 自主製品作業（陶芸、手工芸品）

余暇活動

ミニコンサート、調理実習、映画鑑賞会

(2) 利用者の処遇

利用者定員：20名（現員19名）

健康管理

年1回 健康診断 小金井市障害者健康診断 1月 内科検診 嘱託医

処遇方針

- ・ 毎日、楽しく通所して来られるよう環境を整える。
- ・ 利用者の個別支援計画に基づき、支援する。

主な行事予定	4月	お花見（3万円）
（行事費用）	5月	日帰り旅行（14.5万円）
	10月	秋の一泊旅行（32万円）
	12月	クリスマス会（7.5万円）
	2月	慰労会（4万円）

安全管理

防災訓練	年 4 回	福祉会館全体避難訓練	年 1 回
------	-------	------------	-------

(3) 職員の処遇

職員構成

所 長	1 名	主任支援員	1 名
支 援 員	2 名	短時間パート職員	2 名
障がい者雇用パート職員	1 名	嘱託医・相談員（非常勤）	各 1 名

健康管理

健康診断 年 1 回

職員会議

法人全体集会	年 1 回	GK 全体職員会	年 3 回
成人部全体職員会	年 3 回		
運営会	月 1 回	成人部運営会	月 1 回
職員会議	年 12 回	ケース会議	年 6 回
職員打ち合わせ	毎 日		

研修計画（研修費用）

ブロック内研修（1. 5万円）	法人内研修（5万円）
外部研修（4. 5万円）	

2 施設管理

(1) 整備関係

・換気扇修理予定。

(2) 備品関係

・地上デジタル放送対応テレビ設置予定。

(3) 災害対策

・非常食糧の備蓄（19 + 4）人 × 1食 ×（1日）分
 ・拡声器、非常用持ち出し袋

3 地域社会との連携

- ・福祉会館まつりに参加し、市内の作業所・会館利用者との交流を深める。
- ・障がい者週間のポスター制作やイベントに参加する。
- ・福祉会館内のゴミの分別に協力する。
- ・市民ボランティアと協力し、余暇活動の充実を図る。
- ・市役所からの注意事項（衛生面・生活面）を、正確に利用者へ伝達し未然にトラブルを回避するよう務める。

4 その他

- ・月 1 回おたよりを発行していく。
- ・利用者との話し合いを持ち、行事等の企画・立案をしていく。

2009年度は、自らの支援のあり方を振り返り、療育技術の向上を図るため、他施設の見学を積極的に行うとともに、臨床心理士、作業療法士による療育場面の観察・助言・ケース会議を行った。また、第三者評価での保護者の要望を受け、愛の園保育園との交流を可能な限り進めた。2010年度も療育の専門性を高めることを重点課題として取り組みたい。

また、国の方針として市区町村単位で発達を支援するセンターの設置が打ち出されている。所在地である小金井市とどのように関わっていくか、地域の発達支援の中でどのような役割を担っていくか、情報収集しながら検討していく。

- さくらの木との協力関係を強化し、週1日通園クラスの受け入れ枠を安定的に確保する。
- 昨年度に引き続き、職員が自らの支援のあり方や今後の施設の方向性を考えていくため、他の療育機関の見学を進めるとともに、職員に心理や福祉の資格取得を推奨する。
- 療育の技術を高め、職員間での共通理解を図ることを目的に、指導手順の文書化を試みる。
- 休日の行事や参観など、保護者やきょうだい、祖父母が賀川学園と関われる場を設定できるかどうか模索する。
- 愛の園保育園との交流を継続し、計画的にすすめる。
- 非常勤職員と常勤職員との連携を図るため、打ち合わせや会議の持ち方を見直す。
- 教材費・光熱費の節約に努める。

1 施設運営

(1) 実施事業

- ・集団療育と個別学習
- ・外来相談（入園待機児） 週1回実施
- ・卒園生のアフターケア

(2) 児童の処遇

ア クラス編成（定員35名）

- ・週5日通園クラス 3クラス（27名）
- ・週4日通園クラス 1クラス（6名）
- ・週1日通園クラス 7クラス（35名）

イ 健康管理

- ・内科検診 年2回（4月、10月）
- ・身体測定（身長・体重） 毎月
- ・身体測定（頭囲・胸囲） 年2回（4月、10月）
- ・歯科検診 年1回（11月）
- ・蟻虫卵検査 年1回（5月）

ウ 療育目標

法人の事業理念に基づき、以下のような取り組みを行う。

・週5日・週4日通園

日々の園生活での積み重ねを大切に、人からの働きかけを受け入れ周りに目を向けながら様々な活動に取り組む。それらの取り組みの中で、興味関心をひろげ、人との関わり方を学び、集団活動を楽しめるよう促す。保護者との話し合いを大切にし、家庭との連携を重視していく。

・週1日通園

保育園や幼稚園との併行通園児に対して、集団活動の基本的なルールや人との関わり方を学ぶ場を提供する。保護者の相談に乗り、専門的なアドバイスをしながら、また母体となる集団（保育園など）との連携を大切にしていく。

エ	主な行事予定	4月	入園式	(6,000円)
	(行事費用)	5月	春合宿	(300,000円)
		6月	お楽しみ会	(3,000円)
		9月	運動会	(35,000円)
		10・2月	遠足・アイススケート体験	(65,000円)
		12月	クリスマス会	(20,000円)
		3月	卒園式・卒園劇・おわかれ会	(80,000円)

オ 栄養管理

- ・給食会議を毎月の職員会議内で実施し、園児の様子や指導員の意見を献立や配膳に反映させるよう努める。
- ・食品の種類、調理方法を工夫し、変化に富んだ献立を提供するとともに、園児が安心して

食事を楽しめるよう、繰り返しメニューも取り入れる。

- ・保護者の希望に応じて試食できるように配慮したり、作り方を紹介したりするなどの情報提供を行う。
- ・衛生管理を徹底する。

カ 安全管理

- ・園児が安全に生活できるよう、園内の設備・遊具の点検を定期的に行う。
- ・ヒヤリハット記録や過去の怪我の状況などを職員間で十分確認し再発防止に努める。
- ・来園者はテレビモニターでの確認することを徹底し、不審者の侵入を予防する。
- ・療育時のケガ、体調不良には速やかに対応できるよう、職員間で役割を確認しておく。

キ 苦情解決

法人の定める実施要綱に基づき、適切かつ迅速に対応する。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

園長(常勤)	1名	※他事業所との兼務
主任指導員(常勤)	1名	※運転手と兼務
児童指導員・保育士(常勤)	11名	
調理員(常勤)	1名	※他事業所との兼務
児童指導員・保育士(非常勤)	4名	
調理員(非常勤)	5名	※他事業所との兼務
看護師(非常勤)	1名	
事務員(非常勤)	1名	※他事業所との兼務
嘱託医(業務委託)	1名	
スーパーバイザー：発達・臨床心理士・作業療法士(業務委託)	各1名	

イ 健康管理

- ・健康診断 年1回(6～10月)
- ・細菌検査 調理員のみ毎月1回

ウ 職員会議

- ・GK全体職員会(年3回)
- ・ブロック会議(年3回)
- ・児童部門会議(月1回)
- ・児童部門職員会議(年2回)
- ・職員会議(月1回)
- ・リーダー会議(月1回)
- ・ケース会議(月3回)
- ・クラス会議(週2回)
- ・報告会(毎日)

エ 研修計画(研修費用)

- ・園内研修(200,000円)
- ・法人内研修(200,000円)
- ・自閉症等発達障害児の療育に関する各種外部研修(150,000円)
- ・学校や関連施設の見学

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・園庭水はけの維持に関わる工事(改修後2年経過)
- ・老朽化によるボイラーの買い替え(設置後21年経過)
- ・保育室及び個別学習室のエアコンの買い替え(設置後21年経過)
- ・電気・配管等の修繕計画を作成(建築後21年経過)

(2) 備品関係

- ・園児用ロッカーの老朽化に伴う買い替えを検討(設置後10～12年経過)

(3) 災害対策

ア 災害時に備えた訓練

- ・避難訓練(月1回)
- ・園児引き渡し訓練の実施(年1回)
- ・愛の園保育園・かがわ工房との合同総合避難訓練(年1回)

イ 防災設備の点検委託

- ・年2回(内、消防署への届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

- ・(全園児数)×3食×(1日)分

3 地域社会との連携

- ・隣接する愛の園保育園との交流
- ・実習生、ボランティアの積極的な受け入れ
- ・グループかがわ後援会主催バザーへの協力
- ・町内会の行事への協力と参加

開設5年目に入り、利用者は現在71名が契約をしている。

2009年度からかがわの家と兼務で一名男性職員が支援に入れるようになったことで、行動援護や女子中高生等、支援困難なケースへの対応がこれまでより多くできるようになった。常勤職員が増えたことにより、冠婚葬祭等の緊急時対応もこれまでより柔軟に対応できるようになった。登録ヘルパーも順調に増えてきていたのだが、今年度で主要な学生ヘルパーが数名卒業と同時に退職となり、また新規ヘルパー獲得に向けて近隣の大学等に宣伝、勧誘活動に行く必要がある。

利用料収入については、昨年度目標とした月額平均90万円に達し（月平均93万円）、昨年度よりも平均して毎月10～20万円増収となった。しかし運営状況としては、人件費の増額など課題もあり、障がい児・者支援事業の意義を確認しつつ、運営方法について検討していく。

<2010年度の目標>

- ヘルパーの人材確保と研修等人材育成の充実
- 利用者のニーズに応じていくため、利用枠の拡大
- サービスの質の均一化へ向けてヘルパー支援マニュアルの再整備
- 地域との連携を深めるために、町内会行事等に参加していく。
- 他の事業所との情報交換やヘルパー養成等相互協力をすすめていく。

1 施設運営

(1) 実施事業

知的障害児・者居宅介護事業

知的障害児・者移動支援事業（各市町村の地域生活支援事業）

その他有料の預かり事業

※東京都障害者（児）移動支援従業者養成研修（ガイドヘルパー養成研修）

(2) 利用者の処遇

ア 利用者数

総利用者数71名（今後さらに増加見込み：2010年度は80名程度を予定）

イ 処遇方針

・個別援助計画に基づき、本人の意向を尊重した余暇を充実させることを目指す。

ウ 健康管理

- ・スタッフの日々の体調管理とともに、保護者、学校関係者、施設職員などと連絡を密にし、利用者の健康管理に努める。
- ・利用者が利用している医療機関との連携を図り、薬の保持・服用については職員が管理する。
- ・急な発熱、怪我等、職員が病院に付き添う場合の体制を整備し、危機管理マニュアルを用いて職員に周知徹底する。

エ 主な行事予定

・週末に実施しているお出かけデー等

オ 栄養管理

・支援で昼食をとる際は年齢・体格に応じ、栄養のバランスを考えたメニューを選択する。

カ 安全管理

・責任者および職員が事業所名義の携帯電話を常に携帯し、事務所に職員が不在のときにでも、転送されてきた電話やメールにて緊急時に必要な対応が出来るようにする。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

センター長	1名
管理者・サービス提供責任者	1名
支援スタッフ	11名

(サービス提供責任者1名、常勤兼務職員2名、パート職員8名)

イ 健康管理

健康診断 年1回(8月～10月)

ウ 職員会議

- ・ グループかがわ全体職員会 年3回
- ・ ウイングス連絡会(施設長・サービス提供責任者・事務) 隔月開催
- ・ ケース会・支援前打合せ(随時)

エ 研修計画(研修費用)

- ・ ブロック内研修 年3回(3万円)
- ・ 法人内研修(4万円)
- ・ 外部研修(6万円)

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・ 老朽箇所や故障による修繕(10万円)

(2) 備品関係

- ・ 必要な生活備品や衛生備品は随時整備する。

(3) 災害対策

- ・ 避難経路や消火器の設置場所など利用者とも確認し、非常時に対応できるようにする。
- ・ 災害時の対応を日ごろから利用者とも話し合っておく。

3 地域社会との連携

- ・ ガイドヘルパー養成研修を行い、さらに近隣の大学(東京学芸大学、東京経済大学、津田塾大学等)やその他の機関にヘルパー募集のアプローチを行う。
- ・ 市のヘルパー研修に協力することでの啓蒙活動を行なう
- ・ バザーや町内会の行事に参加し、地域の方たちとの交流を深める。
- ・ 地域の移動支援等の事業所(色えんぴつ・くじら雲・夕焼け子どもクラブ…等)との連携を深め、情報交換を積極的にしていく。特に色えんぴつ(滝乃川学園)は昨年からのガイドヘルパー養成研修および行動援護研修の実習受け入れをしており、今年もさらに相互の連携を深める。

保護者の方も高齢になってきており、週末や休日の利用が増えるとともに、緊急な預かりや長期の預かりといったケースが出てきている。365日対応できる体制を整備していく。また、成年後見制度などの情報は引き続き集め、必要があれば保護者に伝えていく。

寮と日中事業所（かがわ工房・ワークスタジオかがわ・小金井福祉共同作業所・小金井生活実習所）が連携をとりながら利用者を支援し、より協力体制が図れるよう、チームを組んで兼務する。チームにはリーダーを置き、定期的に会議を設けて寮全体を把握していく。

職員の勤務の入れ違いが多いが、寮ごとのミーティングの時間を確保していく。

グループホーム（ケアホーム）の入所を希望される声は多く、今後拡充を検討し、計画を立てていく。

1 施設運営

(1) 実施事業

- ・知的障がい者ケアホーム（共同生活介護） 定員26名
- ・知的障がい者グループホーム事業（共同生活援助） 定員 1名

(2) 利用者の処遇

ア 利用者数

ホーム名	定員	利用者数
シリウス	6名	6名
ミラ	5名	5名
カペラ	5名	5名
ベガ	4名	4名
ジュピター	7名	7名
計	27名	27名

イ 処遇方針

- ・法人の理念に基づき、利用者の人権を尊重し、利用者一人一人が社会の一員として、より豊かに暮らしていけるよう適切な支援を行い、自立を促進することを目標とする。
- ・安定して生活できる事、身の回りのことが一人でできる事を目標に、各利用者の個別支援計画を作成し、ご家族の方からの同意を得る。
- ・各チームにリーダーを、各寮に担当責任者を一人配置し、役割と組織の明確化を図る。
- ・余暇時間の充実については、各寮の特性に配慮し利用者による企画や意見を尊重し、さまざまな体験ができるように支援する。また、かがわサポートセンターウイングスとの連携を図り、個別の余暇時間の充実を図る。
- ・保護者会を行い、保護者の方の意見や要望を汲みながら支援を行っていく。
- ・利用者、保護者から要望のある一泊旅行を計画する。
- ・夜間専門支援員の方と合同のケース勉強会を今年度も開催し、支援の統一性を図る。

ウ 健康管理

- ・日々の体調管理（食欲・睡眠等）と共に、日中活動の場である各事業所の健康診断の結果に基づき、家庭とも連携して健康管理に留意する。
- ・定期的に体重測定を行い、体重の管理に気を配る。

- ・インフルエンザやノロウイルスといった感染症の予防対策として、帰寮時の手洗い、うがいを習慣化する。また、朝の検温を行い、体調を管理する。
- ・服薬がある利用者の薬の保持・服用については職員が管理する。
- ・医療、家庭との連携を図る。薬の調整等が必要であったり、保護者の定期的な通院付き添いが困難な利用者については、職員が通院に付き添い対応を考えていく。

エ 栄養管理

- ・年齢や体格に応じ、栄養のバランスを考えた献立を作成する。また、分量の調整など各自に応じて提供していく。

オ 安全管理

- ・夜間等の連絡、支援体制を整備し、緊急時に必要な対応が出来るようにする。
- ・避難訓練を実施する。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

代表1名 サービス管理責任者・主任（専任）1名
世話人（兼務）25名 生活支援員（非常勤）7名 夜間専門支援員8名

イ 職員会議

GK全体職員会（年3回） 成人部門合同会議（年2回） 運営会（月1回）
成人部会（月1回） 職員会議 ケース会 行事前打合せ会（随時）
夜間専門支援員ケース勉強会（年2回）

ウ 研修計画

- ・法人 新人職員研修 全体職員研修 施設長研修 主任研修 経験別研修
- ・ブロック内 全体職員研修 実践報告・合評会 他事業体験研修
- ・外部研修 各自年1回以上

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・KAGAWA館の老朽化が目立ってきており、建物診断を行い必要に応じて大規模修繕または建替えの計画を検討していく。また、ミラ・カペラの下水道について、定期的に業者清掃を行なう。
- ・ベガの居室に鍵を取り付ける。
- ・テレビの地上デジタル化に向け、各寮に応じた形で移行していく。
- ・必要に応じて老朽箇所や故障による修繕を随時行う。

(2) 備品関係

- ・各グループホームで必要な生活備品を整備する。

(3) 災害対策

- ・避難経路や消火器の設置場所など利用者とも確認し、非常時に対応できるようにする。

3 地域社会との連携

- ・バザーや町内会の行事に参加し、地域の方たちとの交流を深める。
- ・町内会の会合に出席し、地域の方への理解を深める。
- ・近隣の方たちとの友好な関係が作れるよう、通勤時職員が付き添うなど配慮する。
- ・小金井グループホーム連絡会に参加し、市内の関係機関との連携を深めていく。

○福祉情勢の動向に注意し、他事業所とも連携を深めながら必要な情報収集を行っていく。

○生活介護の利用者を1名増やし、運営の安定化を図る。

○昨年11月から希望する保護者(約20名)と進めてきた「ケアホーム設立を考える会」では、ケアホーム設立に向けて、必要な情報収集を行い具体的な話を進めていきたい。

○東京都の移譲から3年が経過した。設備や備品についても東京都の移譲からそのまま引き継いでいるが、老朽化が進んでいるものや使いづらい物など修繕が必要な物も多く、利用者の方が快適に過ごせるよう新たに購入することも含め見直しを行っていききたい。

○短期入所事業は、利用者のニーズに添えていける体制作りを目指す。

○利用者ご本人やご家族の方々の高齢化も進んできている。ご家族や医療機関とも連携し、加齢に伴う症状を予防し、早期に対策を図っていききたい。また、福祉サービス等の情報をご家族に提供し、ご家族の負担の軽減にも努めていききたい。

○地域の企業と合同で行っているバイオディーゼル精製事業は、環境問題への貢献、利用者への工賃増、地域との交流を目標に、新たな回収先や回収方法を検討していききたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

生活介護事業 就労継続支援事業(B型) ショートステイ事業

(2) 利用者の支援

ア. 利用者定員… 生活介護事業 32名 (現員33名)
就労継続支援事業 10名 (現員12名)
ショートステイ事業 2床

イ. 支援目標・方針

- ・法人の理念に基づき、利用者の人権を尊重し、利用者一人一人が社会の一員としてともに、より豊かに暮らしていけるよう適切な支援を行い、その日々の充実および社会的自立の助長を図ることを目標とする。
- ・利用者一人一人の健康状態、生活における能力などを正しく把握し、中長期的な視野で個別支援計画を作成する。
- ・年2回の保護者個人面談(うち1回は希望制)、グループ別保護者参観日(各グループ年1回)、保護者会(年2回)、保護者学習会(年1回)を開催し、保護者からの意見や要望を積極的に聞いていく。
- ・各グループにリーダー職員を配置し、組織として役割の分担・明確化を行う。
- ・経験の浅い職員や非常勤職員も多いので、勉強会やケース会、内部研修を積極的に開催し、支援スタッフの育成に重点を置いていく。
- ・「援助マニュアル」や「支援の留意点」「個別支援マニュアル」を周知し、安全管理の徹底を行う。
- ・苦情が寄せられた場合は、苦情解決システムに沿って対応する。
- ・第三者評価を受診する。

ウ. 健康管理

- ・利用者の健康に留意し、感染症の予防等看護師・家庭・医療機関との連携を図る。
- ・薬の保持・服用は看護師が管理する。
- ・利用者が通院している医療機関に、付き添いが必要な場合は職員が通院に付き添う。
- ・レントゲン検診(年1回)、内科検診(年10回)、耳鼻科検診(年1回)、整形検診(年2回)を行う
- ・PT相談を年2回実施し、保護者の方とともに専門家のアドバイスを求める。

エ. 主な行事

- ・一日外出（各グループごと年1～2回）…計30万円
- ・一泊旅行（2回に分けて開催）…1回70万円 ・実習所祭（3月）…10万円
- ・クリスマス会…5万円 ・その他季節に合わせた行事

オ. 給食

- ・障害者自立支援法に基づく給食内容の充実に努める。
- ・一般食だけではなく、特別食（カロリー調整食、減塩食、刻み食、粥食）等、利用者の健康状態や咀嚼能力に応じた給食を提供する。

カ. 安全管理

- ・防災訓練を毎月1回実施する。
- ・消防署署員立会いの総合訓練を年1回実施、職員の防災意識の向上を図る。

（3）職員の処遇

ア. 職員体制

- ・管理者（兼務）1名 ・サービス管理責任者・主任（専任）1名
- ・生活支援員（兼務）12名（非常勤）6名 ・職業指導員（専任）1名
- ・就労支援員（兼務）1名（常勤パート）1名（非常勤）4名
- ・看護師（非常勤）2名 ・運転士（非常勤）5名
- ・調理師（兼務）1名（非常勤）4名

イ. 会議

- ・法人全体集会（3月）・GK全体職員会（年3回）・成人部門職員会（年2回）
- ・運営会（月1回）・成人部会（月1回）
- ・職員会議（月1回）・グループミーティング（隔週1回）・リーダー会（月1回）
- ・ミーティング（毎朝）・報告会（毎夕）・行事打ち合わせ（随時）

ウ. 研修計画

- ・法人 新人職員研修 全体職員研修 施設長研修 主任研修
- ・ブロック内 全体職員研修 実践報告・合評会 他事業体験研修
- ・外部研修 各自年1回以上（15万円）

2 施設管理

（1）設備関係

- ・グラウンドの水はけが悪いので、水はけ改修工事を行う。
- ・東京都による正面玄関天井雨漏り補修工事を行う。
- ・施設内老朽化に伴う修繕を必要に応じて行う。

（2）備品関係

- ・利用者の方が使用しているトイレは、老朽化が進み破損等で使用しづらい箇所があるので、計画的に修繕を行っていきたい。
- ・利用者が快適に過ごせるよう、必要な環境の整備を行う。

3 地域社会との連携

- ・地域の方々や近隣の福祉施設、関係団体を招いた「みのりフェスタ」（実習所祭）を開催し、交流を深める。
- ・パンの販売や廃食油（バイオディーゼル精製事業）の回収、自主製品の販売をとおして地域の方への理解を深める。
- ・送迎車の運転については出入りを含め近隣への配慮・安全を心がける。
- ・実習生やボランティアを積極的に受け入れ、地域に開かれた事業所を目指す。

- 生活介護事業への新体系移行に向けて、移行計画や準備に着手していく。
- 授産収入の維持・向上を目指して、パンのほか焼き菓子の製造販売と販路の拡大及び下請け仕事の新規獲得をすすめる。かがわブロック間の事業所との連携をとっていく。
- 一律工賃支給から作業従事実績が反映される工賃体系への仕組みを検討する。
- 作業の他、利用者の年長化や心身の変化や状態に応じた日中プログラムの幅をひろげていく。
- 職員間での利用者支援の質の維持向上を図るため作業マニュアル等を活用し、必要に応じて見直しをする。生活支援マニュアルの整備にとりかかる。
- かがわの家のバックアップ施設として連携を図り、スタッフとの合同会議で情報を共有化し、支援の質を維持していく。
- 施設便りや保護者会で、施設情報や方針を伝達し、家族との連携を図る。

1 施設運営

(1)実施事業

作業内容…付録の袋詰め、封筒制作、ダイレクトメールの封入、ポスティング等各事業所と連携をとりながらすすめてゆく。

自主製品の製造・販売…パン、焼き菓子など

リサイクル事業…アルミ缶回収

ボランティア活動…公園清掃

(2)利用者の処遇

利用者定員…25名（現員24名）

ア、 処遇方針

- ・法人の理念に基づき、障がい者の人権を尊重し、地域社会での生活が営めるように支援する。
- ・自閉症と知的障がい者の方の「働く場」として、各種作業に取り組み、作業能力の向上を図ると共に、社会生活に必要な能力を養い、自立と社会参加をすすめ、より充実した生活が過ごせる事をめざす。
- ・家庭やケアホームとの連携を図り、生活全般について必要な支援を行なう。
- ・利用者の個別支援計画に基づき、短期的な支援計画を明確にして、支援内容の充実を図る。

イ、 健康管理

- ・利用者の心身の健康に留意し、家庭、ケアホーム、医療機関との連携を図る。
- ・薬の管理は担当職員が行なう。
- ・肥満対策として定期的に体重、体脂肪測定を行い、体重の管理に気を配る。
- ・定期的に軽運動やリラクゼーションタイムをとり、心身の気分転換を促す。

5月 内科検診 嘱託医

2月 健康診断 多摩府中保健所（14万円）

ウ、 主な行事

- ・利用者の要望も聞き、行事の企画に反映していく。
- 5月 春の日帰り旅行（8万円）
- 10月 秋の一泊旅行（45万円）
- 12月 クリスマス会（3万円）
- 3月 慰労会（8万円）

エ、 給食

- ・分量の調整など利用者各自の健康状態や咀嚼に応じた給食を提供する。
- ・季節感を盛り込んだメニューを提供する。

オ、安全管理

- ・防災訓練を毎月実施する。(以下の訓練を含む)

学園との合同訓練 年1回(7月) 三施設合同総合訓練 年1回
引渡し訓練 年1回(8月)

(3)職員の処遇

職員の処遇

施設長	1名
リーダー(生活支援員)	0.8名(常勤換算)(実員1名)
作業指導員	1名
生活支援員(常勤兼務)	3.6名(常勤換算)(実員6名)
生活支援員(非常勤)	2.9名(常勤換算)(実員5名)
事務員(非常勤兼務)	0.3名(常勤換算)(実員1名)
調理員(常勤兼務)	0.3名(常勤換算)(実員1名)
調理員(非常勤兼務)	0.8名(常勤換算)(実員5名)

※嘱託医、相談事業は各1名業務委託契約により実施する。

健康管理

健康診断 年1回

会議

法人全体集会 3月
GK全体職員会 年3回
運営会 月1回 成人部会(施設長、主任) 月1回
かがわブロック施設長会(理事長、常務、施設長、事務員) 月1回
職員会議 年12回 ケース会議 年3回

研修計画

<法人> 新人職員研修 経験別研修 階層別研修 施設長研修 (7万円)
<ブロック内> 全体職員研修 実践報告・合評会 他事業体験研修 (3万円)
<施設内研修>>新人職員研修
<外部研修> 各自年1回以上 (6万円)

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・授産、給食、空調等、設備関係の故障の可能性を考慮する。

(2) 備品関係

- ・作業用椅子の購入(10万円) ・休憩室ソファの購入(30万円)
- ・焼き菓子用オーブンの購入(10万円) ・焼き菓子用冷蔵庫の購入(10万円)
- ・焼き菓子製造・販売室の改装費用(30万円)
- ・事務機器等整備(20万円)

(3) 災害対策

- ・防災備品の点検・整備を行う。

3 地域社会との連携

- ・近隣と利用者のトラブルに注意する。
- ・駐車場の出入りによる近隣への迷惑に配慮する。
- ・町内会の会合への出席、町会まつり等へ参加し、地域の方たちとの理解を深め、交流をもつ。
- ・実習生・ボランティアを積極的に受け入れていく。

- 障害者自立支援法の行方にもよるが、来年度、新体系への移行のための諸準備を行う。
- 新たな仕事の確保を進める。
- 新たな自主製品の開発を検討する。
- 利用者の健康のため、プログラムを再検討し、身体を動かす時間を増やす。
- 職員を1人増やし、利用者支援の充実および業務の負担軽減を図る。
- ワークスタジオかがわの紹介ビデオを作成する。
- ワークスタジオまつりを実施し、地域の皆さんとの交流を図る。

1 施設運営

(1) 実施事業

作業内容…付録の袋詰め、ビットのパック詰め、チラシの組み合わせ、
プラスチック製品のマスキング

自主製品の製造・販売…ポストカード、せんべい

その他…アルミ缶回収、施設内外の清掃

(2) 利用者の処遇

利用定員…20人

在籍…25人

処遇方針

- ・作業と生活面から利用者の状況、課題を検討し、個別の支援計画をたて、支援内容の充実を図る。
- ・5月下旬～ 個別面談
- ・保護者懇談会 年1回

健康管理

6月24日 内科検診 11月 健康診断

- ・作業前に毎日ラジオ体操を行う。
- ・健康のため利用者が歩く機会を増やす。

主な行事

4月 日帰り旅行 90,000円

9月 一泊旅行 600,000円

12月22日 クリスマス会 30,000円

3月18日 慰労会 75,000円

給食

- ・利用者各自の健康にも配慮した給食を提供する。

安全管理

- ・不慮の事態に対応するマニュアルの整備を進める。

職員の構成

施設長 1 人 作業指導員 2 人（兼務） 生活支援員 5 人（兼務）
生活支援員（常勤パート） 1 人 生活支援員（パート職員） 1 1 人
栄養士 1 人（パート職員） 調理員 4 人（パート職員）
事務員 1 人（兼務） 嘱託医 1 人 相談員（非常勤） 1 人

健康管理 健康診断 年 1 回

会 議

法人全体集会 1 回 GK 全体職員会 3 回
運営会 月 1 回 成人部会 月 1 回 成人部門全体会 年 3 回
職員会議 1 0 回 ケース会議 1 0 回

研 修

<法人>新人職員研修 施設長研修 次世代育成プロジェクト
経験年数別研修
<ブロック内>全体職員研修 実践報告・合評会 交換研修
<施設内>新人職員研修
<外部研修>東京都社会福祉協議会 発達協会
秋川流域自立支援研究連絡会 他

2 施設管理

(1) 建物・設備関係

- ・老朽化による故障などについては随時修理を行う。
- ・市の下水道工事が進行しており、すぐ前の下水道工事が終了したら直ちに敷地内への引き込み工事を行う。

(2) 災害対策

- ・防災備品、非常用食糧等の整備を行う。

3 地域社会との連携

- ・ワークスタジオまつりを開催し、地域の方たちとの親睦を深める。
- ・秋川流域自立支援研究連絡会の取り組みに参加する。
- ・あきる野市地域自立支援協議会に参加し、関係機関や各事業所とのつながりを深める。
- ・あきる野市社会福祉協議会主催の夏体験ボランティアの取り組みに参加する。
- ・あきる野学園の公開研修などに積極的に参加し、地域の皆さんとの交流を深める。

2010年度 雲柱社 学童クラブ事業計画

私たちは、所属する各自治体の方針を尊重し、子どもたち、保護者、地域の方々と力を合わせて、楽しく充実した学童クラブ活動を展開していくために、次のような目標を掲げて事業にとり組みます。

学童クラブ
事業目標

1. 私たちは、放課後の子どもたちにとって居場所となる学童クラブを目指します。
2. 私たちは、危機管理を十全にして、安心と安全が保障された学童クラブを目指します。
3. 私たちは、子どもたちが多様な体験を通して、生きる力を育むことが出来る学童クラブを目指します。
4. 私たちは、子どもたちが、それぞれの個性と能力を発揮できる学童クラブを目指します。
5. 私たちは、自由と規律を大切にす学童クラブを目指します。
6. 私たちは、保護者のニーズ（就労支援、子育て不安など）に応える学童クラブを目指します。
7. 私たちは、地域との交流を深め、地域の人たちから愛され支えられる学童クラブを目指します。

< 1 > 事業計画

	子育て支援活動（乳幼児・親）	学童クラブ	小学生を対象とした活動	中・高校生を対象とした活動
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・親同士のピアカウンセリングの場となり、多くの子育て上の悩みを解消する場とする。 ・地域の中に親子の居場所を確保する。 ・専門家の相談を受ける場があり、子育ての支えの場とする。 ・子育て中のお母さんと乳幼児が、家から出て気分転換できるきっかけの場とする。 ・子育て中の親同士が交流の場となり、仲間作りの場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教、日本の伝統的行事を体験し様々な文化に触れる学童クラブにする。 ・異年齢交流を通して、多様な体験や触れ合いを大切にする。 ・放課後の子どもたちにとって第三の居場所となる学童クラブにする。 ・ハンディキャップを持った子ども、そうでない子ども、共に生活できる学童クラブにする。 ・家庭と学童と保育園が協力し合って、子ども達にとってより良い保育環境を提供する。 ・地域の人たちにとって必要とされる、開かれた学童クラブにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流を活性化する場とする。 ・家庭や地域、保育園との連携の中で幅広い子どもたちの育ちを支援する場とする。 ・自然体験、ボランティア活動などを体験する場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭とは異なった居場所や学童児との交流を通して、地域参加やボランティア活動の大切さを学べる場とする。
活動の内容・行事等	<p><出前保育事業> 時間：11時～12時 年10回 *活動場所 偶数月・渋江公園 奇数月・お花茶屋公園 冬期・堀切学童 *活動内容 ・こいのぼり製作・新聞紙遊び・七夕製作 ・クッキング・運動会・ふれあい遊びなど</p> <p><ひろば事業> 時間：10時30分～12時 年11回 *活動内容 ・ふれあい遊び・赤ちゃんマッサージなど</p> <p><保育園行事> ・運動会、おまつり広場への参加 ・地域活動、子育て講座への参加</p>	<p><定員>52名 <受入>56名 (育成時間) 通常下校時間～18時 延長保育18時～19時 学校休校日8時30分～18時 土曜保育8時30分～17時 *活動内容 ・自由活動、宿題、グループ活動などの日常活動を基盤に、以下などの年間行事にも取り組む。</p> <p><年間行事> 1学期 ・入所式・ウェルカムパーティー・イースター ・子どもの日・母の日製作・父の日製作 ・子どもの日、花の日礼拝・お泊り合宿 夏休み ・キャンプ・夕涼み会 2学期 ・敬老の日製作・遠足・ハロウィンパーティー ・収穫感謝祭・クリスマス会 3学期 ・節分行事・お別れイベント・卒所式</p> <p><保育園行事> ・黎明保育園運動会、おまつり広場への参加</p> <p><その他> ・防犯訓練、手作りおやつ、昼食会、手芸 ・誕生会など</p>	<p><卒所児ボランティア活動> ・学童クラブ卒所児を対象に、日々の保育でのボランティア体験の場や以下の活動に取り組む。 *活動内容 ・ウェルカムパーティー ・キャンプ ・おまつり広場 ・お泊り合宿 など *日常の活動 ・遊びの手伝いを通して、指導や交流を行う。</p> <p><卒所児プログラム> ・学童卒所児を対象に、卒所児プログラムとして年に数回、単独及び合同プログラムとして以下の活動に取り組む。 *活動内容 ・クッキング・談話タイム・ゲーム会・工作タイム・バーベキューパーティー（1月）など</p>	<p><中学生ボランティア活動> ・中学生を対象に、日々の保育や行事などでのボランティア活動に取り組む。 *活動内容 ・遊びの手伝いを通して、指導や交流を行う。 ・行事などの手伝い。 ・保育園行事、地域行事への参加。</p> <p><中高生プログラム> ・中高生を対象に、中高生プログラムとして年に数回、単独及び合同プログラムとして以下の活動を行う。 *活動内容 ・クッキング・談話タイム・バーベキューパーティー（1月）など</p>

児童館名 れいめい堀切学童保育クラブ

記入者 秋山 幸美

< 2 > 職員構成

- ・館長
- ・主任
- ・児童厚生員

< 3 > 研修

- ・施設内研修
- ・児童館ブロック研修
- ・法人研修
- ・所属する自治体の研修
- ・その他の研修

< 4 > その他

補助事業

堀切

記入者 中村 悠子

- 自立支援法が廃案となり、今後の事業所のあり方が明確に打ち出されていないが小金井市とも協議を重ね、さくらの木の新しい展開を考えていく
- さくらの木の常勤を4名とし、賀川学園との連携をとることで、利用者数の確保をする。さらに、グループ指導の非常勤職員を削減することで運営の安定を図る。
- 最低100名の利用者数の維持を目指し、個別指導の非常勤職員を雇用する。個別指導を任せる非常勤職員の雇用は難しいが、グループ活動や体験学習などでのボランティアを通し、利用者やさくらの木の業務内容について知ってもらうことで、次年度の非常勤職員の確保にも繋げていけるように、ボランティアを積極的に集めるように努める。
- さくらの木が提供している個別学習について職員間の共通理解を促し、日常の職務における職員の育成を強化するために、ケース会議と学習会を定期的に行う。また、専門性を高めるための研修や他施設・学校の見学を実施する。
- 利用者のニーズに合わせ、長期休暇を利用し、体験学習を実施する。
- 経費節減を目指し、光熱費、消耗品費、教材費の節約に努める。
- 建物の老朽化が認められるため、必要に応じた修繕工事が必要である。

1 施設運営

(1)実施事業

- ア 個別指導 (幼児・小学生対象)
- イ ペア指導 (中学生対象)
- ウ グループ指導 (幼児・小学生・中学生・高校生対象)
- エ 余暇支援 (小学生対象)
- オ 体験学習 (小学生・中学生・高校生対象)
- カ 講演会 (利用者の家族の他、外部も対象)
- キ さくらの木相談室 (利用者の保護者の他、外部も対象)
- ク オリジナル教材の頒布(利用者の家族の他、外部も対象)

(2)利用者の処遇

ア 利用者数年齢構成

	利用者数
幼 児	5
小学生	70
中学生	15
高校生	10
合 計	100

イ 月別開所日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計
17	18	22	22	11	19	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	209 日
22	16	15	16	16	10	

ウ 健康管理

指導にあたっては利用者の健康状態に留意する。軽い怪我には対応できるような薬を常備する。

エ 指導目標

法人の理念に基づき、自閉的傾向や発達に遅れのあるこどもとその家族が、社会の中でより豊かに暮らしていけるよう適切な援助をし、自立を促すことを目的とする。具体的には、日常生活における基本的動作及びコミュニケーション手段の獲得、集団生活の適応を目標にひとりひとりの子どもの発達に応じた指導を行う。

(3)職員の処遇

ア 職員構成

施設長	1名
主任	1名
指導員	常勤職員 3名

イ 健康管理

健康診断 年1回(7月～10月)

ウ 職員会議

- ・法人全体集会(年1回)
- ・グループかがわ運営会議(月1回)
- ・児童部門会議(月1回)
- ・グループかがわ全体職員会(年3回)
- ・さくらの木職員会議(月2～3回)
- ・ケース会議(月4～8回)
- ・学習会(月1回)
- ・その他指導打ち合わせ(随時)

エ 研修計画(研修費用)

- ・施設内研修
- ・法人内研修
- ・発達障がいに関する各種外部研修(7万円)
- ・発達障がいに関する書籍購入(5万円)
- ・学校、関連施設見学

2 施設管理

(1)設備関係

- ・建物の老朽の点検、修繕(随時)

(2)災害対策

- ・職員に対し、非常災害時の対応を周知徹底する。
- ・隣接する「かがわの家」との連携のあり方を確認する。
- ・年2回、避難訓練を実施する。

3 地域社会との連携

- ・賀川学園卒園生の他、小金井市及び近隣市区町村在住者の利用も受け付ける。
- ・ボランティアや見学者を受け入れ、発達障がいへの理解を広める。
- ・グループかがわ後援会主催のバザーや町内会の行事へ参加し、地域の人たちとの交流を図る。